

# 履修の手引き

2023年度（令和5年度）

徳山工業高等専門学校（本科・専攻科）

機械電気工学科・機械制御工学専攻

情報電子工学科・情報電子工学専攻

土木建築工学科・環境建設工学専攻

## はじめに

この「履修の手引き」は、学生の皆さんが、徳山高専での学生生活をできる限り有益に過ごせるように、必要な情報を冊子としてまとめたものです。高専では中学校までとは違い、自分自身で考えて行動することが求められます。高専で学ぶということは、自ら学ぶ、自主的に学ぶ態度・習慣をしっかり身につけていくことです。この「履修の手引き」には、皆さんが徳山高専で“学ぶ”ときに、知っておくべき事柄がまとめてあります。構成は以下の通りです。

- 徳山高専における教育
- 履修の手引き
- 科目配置一覧
- 規則・資料

履修関係、授業関係等の重要な事柄がたくさん記載しており、更に事柄によっては、参照すべき規則もあります。「履修の手引き」の説明等で分かりにくい点があった場合には、学則をはじめとする規則そのものを確認してください。

ホームページにもPDF版が掲載してあります。BYOD端末にダウンロードしていつでも参照できるようにしておくといいいでしょう。

## 建学の理念

技術を愛する人物、人々から信頼される人物を育み、  
広く社会の安全と人々の幸福に寄与する

技術を愛する人物、人々から信頼される人物を育み、  
広く社会の安全と人々の幸福に寄与する

徳山高専は、創設時に初代校長城温三先生が示された「技術を愛する人物、信頼される人物」の育成を教育の目標としてきた。以来、本校は全人教育の上に立った創造的技術者の育成を目指し、広く社会のために役立つ有為な人材を送り出すよう努力を重ねてきた。創設40周年を迎えた平成26年3月、本校はこの受け継がれてきた精神を「技術を愛する人物、人々から信頼される人物を育み、広く社会の安全と人々の幸福に寄与する」と表記し、建学の理念として定めた。

(題字は、坂本杏苑氏の書による)

## 履修の手引き 目次

建学の理念	
主要行事日程	2
行事予定表	3
授業終始時刻	5
H R 計画表	6
<b>徳山高専における教育</b>	
(1) 本校の成り立ち	7
(2) 本校が育成しようとする技術者像, 学習・教育目標	7
(3) 三つのポリシー	10
(4) JABEE認定プログラム「設計情報工学」プログラム	15
<b>履修の手引き</b>	
(1) 教育課程と科目履修について	17
(2) 各授業科目のシラバス(授業科目概要)について	18
(3) 試験について	21
○レポートや発表資料作成時の留意点	22
(4) 成績評価について	22
(5) 各種の連絡事項	23
○自然災害による休講措置	23
(6) 遅刻・欠席・欠課・早退について	25
(7) 進級・卒業について	26
(8) 休学・復学・退学について	26
(9) 校外実習について	27
(10) 外部修得単位・資格取得等について	27
(11) キャリア教育支援プログラム	28
(12) 教育課程修了後の受験資格等について	29
<b>科目配置一覧</b>	
(1) シラバス一覧	31
(2) 科目系統図(学科, 創造系科目, 一般科目, 各教科)	43
(3) JABEE認定プログラム「設計情報工学」	50
(4) 科目一覧表(入学年度別/学則別表)	55
<b>規則・資料</b>	
(1) 学則(抄)	79
(2) 教務規則(抄)	84
(3) GPAの算出に関する内規	86
(4) 再試験に関する内規	86
(5) 履修の特例に関する内規	87
(6) 外部修得単位及び資格取得等による学修に係る単位修得の認定に関する規則(抄)	88
<b>配置図</b>	91

○令和5年度主要行事日程

前期	令和5年 2023	
	4月1日(土)～3日(月)	春季休業
	4月4日(火)	第50回入学式・第29回専攻科入学式
	4月5日(水)	前期始業・オリエンテーション
	4月6日(木)	前期授業開始
	4月21日(金)	1年生研修
	5月2日(火)	クラスマッチ
	6月1日(木)～9日(金)	前期中間試験(特別時間割期間を含む)
	6月7日(水)	開校記念日
	7月7日(金)～7月9日(日)	中国地区高専体育大会
	7月10日(月)	臨時休業
	7月28日(金)～8月3日(木)	前期末試験
	8月10日(木)	前期終業
8月11日(金)～9月30日(土)	夏季休業	
後期	10月2日(月)	後期始業
	10月3日(火)	後期授業開始
	10月27日(金)	高専祭準備
	10月28日(土)～29日(日)	高専祭
	10月30日(月)	臨時休業
	11月7日(火)	クラスマッチ
	11月29日(水)～12月7日(木)	後期中間試験(特別時間割期間を含む)
	12月23日(土)～1月8日(月)	冬季休業
	令和6年 2024	
	2月7日(水)～15日(木)	後期末試験
	2月22日(木)	後期終業
2月23日(金)～	春季休業	
3月15日(金)	第46回卒業式・第28回専攻科修了式	

令和5(2023)年度 行事予定表(前期)

※最新のもは本校ホームページを確認してください。

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
曜日	回数	内容	曜日	回数	内容	曜日	回数	内容	曜日	回数	内容	曜日	回数	内容	曜日	回数	内容
土	1	夏季休業	月	1	4	前期公開収録 特別公開収録(6/1-6/9)	土	1	8	1	15	金	1	15	金	1	15
日	2		火	2	防災(土砂災害)訓練・クラスマッチ	日	2	8	2	2	8	火	2	16	土	2	16
月	3		水	3	□ 憲法記念日	水	3	12	3	3	12	水	3	12	水	3	12
火	4		木	4	□ みどりの日	木	4	12	4	4	12	火	4	12	火	4	12
水	5	始業(合同クラス制)・オリエンテーション	金	5	□ こどもの日	金	5	12	5	5	12	水	5	12	水	5	12
木	6		土	6		土	6	12	6	6	12	木	6	12	木	6	12
金	7		日	7		日	7	12	7	7	12	金	7	12	金	7	12
土	8		月	8	本科・専攻科金曜日授業	月	8	12	8	8	12	土	8	12	土	8	12
日	9		火	9	防災訓練(土砂災害)・クラスマッチ予備日	火	9	12	9	9	12	日	9	12	日	9	12
月	10		水	10		水	10	12	10	10	12	月	10	12	月	10	12
火	11		木	11		木	11	12	11	11	12	火	11	12	火	11	12
水	12	学生会リーダー研修会	金	12	5	11	5	12	9	水	12	13	金	12	13	金	12
木	13		土	13	専攻科推薦入試	土	13	12	9	木	13	13	土	13	13	土	13
金	14	クラブ紹介	日	14		日	14	12	9	金	14	12	日	14	14	日	14
土	15		月	15	オープンクラスワーク	月	15	9	10	土	15	10	月	15	15	月	15
日	16		火	16		火	16	9	10	日	16	10	火	16	16	火	16
月	17		水	17		水	17	9	10	月	17	10	水	17	17	水	17
火	18		木	18	安心・安全の日講座	木	18	9	10	火	18	13	木	18	18	木	18
水	19		金	19		金	19	10	10	水	19	14	金	19	19	金	19
木	20		土	20		土	20	10	10	木	20	14	土	20	20	土	20
金	21	1年生研修 ※	日	21		日	21	10	10	金	21	13	日	21	21	日	21
土	22		月	22		月	22	10	10	土	22	13	月	22	22	月	22
日	23	TOEIC IPテスト(申込書) 13:30-	火	23		火	23	10	10	日	23	13	火	23	23	火	23
月	24		水	24		水	24	10	10	月	24	14	水	24	24	水	24
火	25		木	25		木	25	10	10	火	25	14	木	25	25	木	25
水	26		金	26		金	26	10	10	水	26	14	金	26	26	金	26
木	27		土	27	専攻科学力入試	土	27	11	11	木	27	14	土	27	27	土	27
金	28		日	28		日	28	11	11	金	28	15	日	28	28	日	28
土	29	□ 昭和の日	月	29		月	29	11	11	土	29	15	月	29	29	月	29
日	30		火	30		火	30	11	11	日	30	16	火	30	30	火	30
			水	31		水	31	7	7	月	31	15	水	31	31	水	31
※4/21(本)2年生以上休講 4/28(再)試験受験票提出期限			6月上旬 専攻科1年生インターンシップ開始			8月上旬 全国高等学校体育大会(関東地方) 8月 西日本地区高等学校アーチェリー競技会 8/31 5年生前期科目再試験受験票提出期限			9/29(一)4年次履修科目再試験成績報告期限 9/29 5年生前期科目再試験成績報告期限 9月 デザコン卒業			9/18-10/1 特別在籍許可期間					
学籍 行事 予定	4/4 開祭・養生リーダー研修会 4/6 前期祭生総会、対面式 4/22 新入生歓迎マッチ(AM:体育施設借用)		5/2-3 開祭作業(放課後)、5/3 開祭(13:00) 5/7 開祭 5/18 前期学業選考訓練(豪雨)(放課後) 5月 学業勉強会		6/10 第1回 学業奨学金(00件)付 6/25 第1回 養生保護者会		7/13 エフ会 7月 学業勉強会		8/5 第2回 学業奨学金(00件)付 8/10 開祭作業(放課後) 8/11 開祭(13:00)【1年生部属誘え看】 8/18-31 特別在籍許可期間		9/18-10/1 特別在籍許可期間						

令和5(2023)年度 行事予定表(後期)

※最新のもの本校ホームページを確認してください。

10月			11月			12月			1月			2月			3月		
曜日	回数	内容	曜日	回数	内容	曜日	回数	内容	曜日	回数	内容	曜日	回数	内容	曜日	回数	内容
日	1	研修・クラブリナーダー研修会	水	1	本料・専教科金曜日授業	8	月	1	元日	木	1	14	専教科	木	1	14	専教科
月	2	授業開始	木	2	文化の日	5	土	2	卒業	火	2	14	本料	金	2	14	本料
火	3		金	3		日	3		火	3	15	本料	土	3	15	本料	
水	4		土	4		月	4		水	4	16	本料	日	4	16	本料	
木	5		日	5		火	5		木	5	17	本料	月	5	17	本料	
金	6		月	6		水	6		金	6	18	本料	火	6	18	本料	
土	7	専教科社会人選抜	火	7	防火訓練・クラスマッチ	木	7	8	成人の日	土	7	19	本料	水	7	19	本料
日	8	□ スポーツの日	水	8		金	8	9	卒業	日	8	20	本料	木	8	20	本料
月	9		木	9		土	9	10		火	9	11	本料	金	9	11	本料
火	10		金	10		日	10			水	10	11	本料	土	10	11	本料
水	11		土	11		月	11			木	11	12	本料	日	11	12	本料
木	12		日	12		火	12			金	12	13	本料	月	12	13	本料
金	13		月	13		水	13			土	13	14	本料	火	13	14	本料
土	14		火	14		木	14			日	14	15	本料	水	14	15	本料
日	15		水	15		金	15			木	15	16	本料	金	15	16	本料
月	16		木	16		土	16			金	16	17	本料	土	16	17	本料
火	17		金	17		日	17			土	17	18	本料	日	17	18	本料
水	18		土	18		月	18			月	18	19	本料	月	18	19	本料
木	19		日	19		火	19			火	19	20	本料	火	19	20	本料
金	20		月	20		水	20			水	20	21	本料	水	20	21	本料
土	21		火	21		木	21			木	21	22	本料	木	21	22	本料
日	22		水	22		金	22			金	22	23	本料	金	22	23	本料
月	23		木	23		土	23			土	23	24	本料	土	23	24	本料
火	24		金	24		日	24			日	24	25	本料	日	24	25	本料
水	25		土	25		月	25			月	25	26	本料	月	25	26	本料
木	26		日	26		火	26			火	26	27	本料	火	26	27	本料
金	27		月	27		水	27			水	27	28	本料	水	27	28	本料
土	28		火	28		木	28			木	28	29	本料	木	28	29	本料
日	29		水	29		金	29			金	29	30	本料	金	29	30	本料
月	30		木	30		土	30			土	30	31	本料	土	30	31	本料
火	31		金	31		日	31			日	31		本料	日	31		本料
専教科		高専祭期間中、オープンキャンパス(第3回)	11/11-12、テザコン全国大会(舞鶴高専)			12/14 養生会選挙			1/8 開業			2/22-25 再試験受験準備提出期限					
本料		10/10-13、GAS集中演習	要確認、中国地区英語弁論大会			12/17 クリスマス会			1/11 予備会			(未定) 学生会引継ぎ会					
専教科		未定、ロボコン中国地区大会(高専)				12/22-23 開業作業(放課後)			1/18 養生会引き継ぎ会			2/23 開業(13:00)【部屋替え有】					
本料		10/14-15、プロコン全国大会(福井高専)				12/23 開業(13:00)			1月 学業勉強会								
専教科		10/1 開業、10/3 養生1ターナー研修会	11/16 後期学業進捗訓練(地震・火災)(放課後)														
本料		10/5 後期養生会	11月 学業勉強会														
専教科		10/21 後期養生マッチ(AM、体育施設使用)															
本料		10/28 第2回 養生会選挙、第3回 学業学生会															

## 令和5年度授業終始時刻

本 科・専攻科

※専攻科はSHRはありません。

SHR	5分	8:40			
		8:45			
5分					
		8:50			
1・2時限	90分				
		10:20			
10分					
		10:30			
3・4時限	90分				
		12:00			
50分					
		12:50			
5・6時限	90分				
		14:20			
10分					
		14:30			
7・8時限	90分				
		16:00			
			7時限	50分	14:30
					15:20
10分					
			8時限	50分	15:30
					16:20

※令和4年度までは、感染対策のため昼食時間が60分でしたが、50分へ戻ります

令和5年度 HR実施計画表（前期共通内容）

学年	1年			2年			3年			備考					
	1組	2組	3組	M	E	I	E	C	A		M	E	I	E	C
クラス	6														
4月	13	新入生オリエンテーション													
20															
27		交通安全指導講話													
11		シグマ検査													
5月	18	「安心・安全の日」講演会													
25		前期中間試験に向けての諸注意													
1		前期中間試験・特別時間割 (6/1-9)													
8															
6月	15														
22															
29															
7月	6	デートDV講座													
13															
20		前期未試験に向けての諸注意													
27		授業予備日													
3		前期未試験 (7/28-8/3)													
8月	10	レビュー週間・合同HR													

令和5年度 HR実施計画表（後期共通内容）

学年	1年			2年			3年			備考					
	1組	2組	3組	M	E	I	E	C	A		M	E	I	E	C
クラス	5														
10月	12														
19															
26															
2															
9															
11月	16	後期中間試験に向けての諸注意													
30		後期中間試験・特別時間割 (11/29-12/7)													
1		後期中間試験・特別時間割 (11/29-12/7)													
7															
12月	14														エイズ講話
21															
11															
1月	18														
25															
1		後期末試験に向けての諸注意													
8		後期末試験 (2/7-2/15)													
2月	15	レビュー週間・合同HR													
22		レビュー週間・合同HR													

※上記の計画は、日程を変更する場合があります。



# 徳山高専における教育



## (1) 本校の成り立ち

徳山工業高等専門学校は、1960年代からの我が国の高度経済成長と工業化に伴う社会の強い要望により、ここ周南市（当時、徳山市）に高等教育機関として1974年に設立され、2023年で創立49周年を迎えます。中学校から入学する本科（5年制）は、機械電気工学科、情報電子工学科と土木建築工学科の6専門分野の3学科から構成され、全国に数少ない複合分野の知識や技術を修得できます。その後1995年には本科の上に、さらに高度な専門知識・技術や開発力などを修得できる専攻科（2年制）として、機械制御工学専攻、情報電子工学専攻と環境建設工学専攻の3複合専攻科を設置しました。

## (2) 本校が育成しようとする技術者像、学習・教育目標

### 【建学の理念】

「技術を愛する人物、人々から信頼される人物を育み、広く社会の安全と人々の幸福に寄与する」  
（詳細は表紙裏面を参照）

本校では、建学の理念に基づき、次のような技術者を育てようとしています。

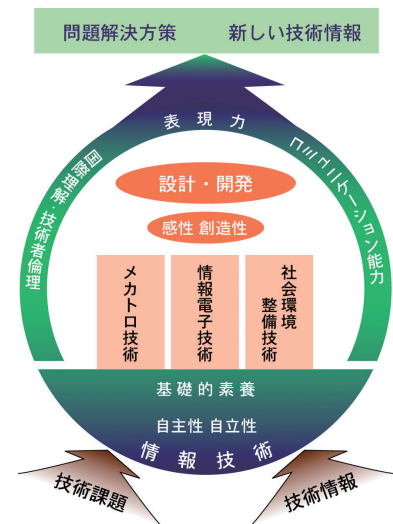
### 【育成しようとする技術者像】

本科：「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者」

専攻科：「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」

これは、徳山高専の活躍分野が、業種・職種ともに多岐にわたっていることから、多くの技術分野で必須である「情報技術」をベースとし、それに、本校開校以来の伝統である「複合技術」を活用して活躍する技術者を想定しています。

ただし、本科と専攻科では修業年限が異なりますので、めざす技術者像は自ずと異なってきます。しかし、それらはいずれも社会の要請に応えるものでなくてはなりません。そこで本科では、発見した「技術的課題を解決できる技術者」を、専攻科ではそこから新たなものを「設計・開発できる技術者」を育てようとしています。



## 【各学科／専攻で得意とする技術】

### ○メカトロ技術

機械電気工学科：コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術

機械制御工学専攻：コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術

### ○情報電子技術

情報電子工学科：コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術

情報電子工学専攻：コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術

### ○社会環境整備技術

土木建築工学科：情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術

環境建設工学専攻：情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術

これらの技術をどのように身につけるかについては、各学科／専攻の概要や授業内容ならびにカリキュラム系統図（本校HP等に掲載）で具体的に示します。

本科卒業生と専攻科修士のめざす到達目標を、学習・教育目標に沿って、より具体的に定めました。次に示す具体的目標は、本科課程（準学士課程）と専攻科課程を終えるとき、全員が到達する内容を示しています。

本校は、前ページに示した技術者を育成するために「世界に通用する実践力のある開発型技術者をめざす人材の育成」を学習・教育目標として掲げています。また、その内容をさらに具体化し、次に示す6つの学習・教育到達目標（赤字はキーワード）にまとめました。

## 【学習・教育到達目標】

(A) 「世界に通用する」技術者をめざすために

(A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること

(基本的素養)

(A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと

(倫理観とコミュニケーション能力)

(B) 「実践力のある」技術者をめざすために

(B1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること

(情報技術と表現力)

(B2) 自主性と自立性を養うこと

(自主自立)

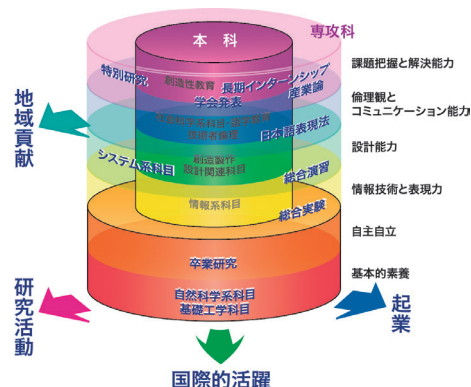
(C) 「開発型」技術者をめざすために

(C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること

(設計能力)

(C2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと

(課題把握と解決能力)



## 【具体的到達目標】

## ○準学士課程卒業時

- (A) 「世界に通用する」技術者をめざすために
- (A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
- ・ 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
- (A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
- ・ 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
  - ・ 自らの目標を定め、外部試験を活用して、英語力のステップアップを図る
- (B) 「実践力のある」技術者をめざすために
- (B1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
- ・ 情報関連・実験の科目を修得する
- (B2) 自主性と自立性を養うこと
- ・ 卒業研究の科目を修得する
- (C) 「開発型」技術者をめざすために
- (C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
- ・ メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
- (C2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
- ・ 創造系の科目を修得する
  - ・ 創造演習発表会、卒業研究発表会などで発表を行う

## ○専攻科課程修了時

- (A) 「世界に通用する」技術者をめざすために
- (A1) 複合分野の基礎となる基本的素養を身につけること
- ・ 数学・自然科学・基礎工学の科目を修得する
- (A2) 国際理解を深め、技術者としての倫理観とコミュニケーション能力を養うこと
- ・ 国際文化・技術者倫理・日本語・外国語の科目を修得する
- (B) 「実践力のある」技術者をめざすために
- (B1) 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること
- ・ 情報関連・実験、及び総合実験の科目を修得する
- (B2) 自主性と自立性を養うこと
- ・ 卒業研究の科目を修得する
- (C) 「開発型」技術者をめざすために
- (C1) 複合分野にわたる知識を有機的に結びつける設計能力を身につけること
- ・ メカトロ技術・情報電子技術・社会環境整備技術のうち、ひとつの分野の定められた科目を修得する
  - ・ 総合科目（2科目以上）・問題発見解決科目、及び総合演習の科目を修得する
- (C2) 課題を把握し解決する力を身につけ、感性・創造性を磨き養うこと
- ・ インターンシップ及び特別研究の科目を修得する
  - ・ 国内外の学協会で発表を行う

## 【教科の到達目標】

各教科では、それぞれ「学習・教育到達目標」の(A1)～(C2)に対応した到達目標を設けています。  
 ※この、各教科の到達目標は各WEBシラバス科目別をご確認ください。

### ○「世界に通用する」技術者をめざす

本校では、学習・教育目標に「世界に通用する」技術者をめざすことを掲げており、国際理解を深め、コミュニケーション能力を養うことが謳われています。

平成17年度に、本校の全学生が「世界に通用する」技術者をめざすためには英語教育をどのように改善すればいいか検討を重ね、まず、**各学年に所属する学生の60%以上が達成することをめざした到達目標**を、次のように具体的に定めました（平成18年度一部改正）。

学年ごとの英語資格スコア・到達目標（要60%以上達成）

	TOEICスコア	実用英検	技術英検
専攻科2年	470	2級	2級
専攻科1年	400	2級	3級
5年	350	2級	3級
4年	330	準2級	3級
3年	310	準2級	4級
2年	(290)	準2級	4級
1年	(250)	3級	4級

これを実現するため、次のことを実施しています。

1. 本校の専攻科到達目標ならびに国立高等専門学校機構の動向も踏まえ、TOEIC賛助会員を継続して毎回の学生の受検料負担の大幅な軽減をはかる。
2. 本校で、TOEIC IPテストを年間5回程度実施する。実施時期（予定）は、第1回：4月、第2回：6月、第3回：10月、第4回：12月、第5回：2月または3月。
3. 第4回のTOEIC IPテスト（12月実施予定）は、本科3・4・5年生ならびに専攻科生全員が受験する。本科1・2年生はTOEIC BRIDGEテストを受験する。

みなさんはこれを「いいチャンス！」と受け止め、これまで以上に平素の授業に対する予習復習を行うとともに、自学自習にも励み、その学年の到達目標をひとりでも多くクリアするよう、心がけてください。

### （3）三つのポリシー

#### ディプロマポリシー（卒業・修了認定の基本方針）

本校では、下記の人材の育成を目的とし、所定の年限在籍し、以下に示す能力・技能に加え、複合分野にわたる知識を有機的に結びつける能力を備え、各学科が規定する単位を修得したものに卒業を認定し準学士と称することを認め、各専攻が規定する単位を修得したものに修了を認定します。

#### 【本科】

情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、技術的課題を解決できる技術者

#### 【専攻科】

情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者

卒業生・修了生が修得すべき能力・技能を具体化すると、次のようになります。

#### 1. 基本的能力

数学、自然科学、人文・社会科学、工学基礎など、工学の専門知識や技術の修得に必要となる能力。

## 2. 専門的能力

それぞれの専門分野及び複合分野にわたる技術者として備えるべき能力。

## 3. 汎用的技能

技術者として必要となるコミュニケーションスキル，合意形成，情報収集・活用・発信力，課題発見，論理的思考などの技能。

## 4. 態度・志向性（人間力）

技術者として必要となる主体性，自己管理能力，責任感，チームワーク力，リーダーシップ，未来志向型キャリアデザインなどの能力。

## 5. 創造的思考力

技術者として必要となる創成能力やエンジニアリングデザイン能力などの思考力。

## 6. 異文化対応力

技術者として世界のどこでも必要となる教養と感性を持ち，グローバルな視点で異文化に対応する能力。

## 7. 倫理的判断力

世界のどこで活躍しようとも必要となる判断基準を持ち，技術者として自らの技術を公衆の安全，健康，福利を優先して活用するための能力。

### カリキュラムポリシー（教育課程編成および実施の基本方針）

本校では，ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために，以下に示す科目群を用意しています。各学科・専攻科における具体的な科目群をまとめると次のようになります。

#### <全学科・専攻共通>

##### 1. 基本的能力

豊かな教養を身につけることを目的として人文・社会科学，芸術などに関する科目を本科・専攻科を通して用意しています。また，工学の専門知識や技術の修得に必要な学問的基礎を学ぶことを目的として，数学，自然科学，基礎工学などに関する基礎・応用科目群を本科・専攻科を通して教育課程に用意しています。

##### 2. 専門的能力

各学科・専攻科において専門工学，工学実験・実習，応用・学際的科目群を用意しています。

##### 3. 汎用的技能

各学科・専攻科において創造演習・創造製作，卒業研究（および専攻科における総合演習，応用研究，特別研究），学科学年縦横断型の活動などの，汎用的技能を身につけるための実技科目群や活動を用意しています。

##### 4. 態度・志向性（人間力）

各学科・専攻科において創造演習・創造製作，卒業研究（および専攻科における総合演習，応用研究，特別研究），体育などとともに，学科学年縦横断型の活動，キャリア教育支援プログラム，課外活動など，態度・志向性（人間力）を育成するための科目群や学生の自発的参加型の活動を用意しています。

##### 5. 創造的思考力

各学科・専攻科において創造演習・創造製作，卒業研究（および専攻科における総合演習，応用研究，特別研究），学科学年縦横断型の活動などの，創造的思考力を育成するための課題解決能力・開発力の育成に関する科目群や活動を用意しています。

##### 6. 異文化対応力

技術者としての異文化対応能力を身につけることを目的として，英語，中国語，ドイツ語などの外国語科目や国内研修・海外研修・語学研修プログラムを本科・専攻科を通して用意しています。

## 7. 倫理的判断力

技術者としてグローバルな視点で自らの技術を公衆の安全、健康、福利を優先して活用するための倫理観を身につけることを目的として倫理、哲学、技術者倫理、安全工学概論などの科目を本科・専攻科を通して用意しています。

### <機械電気工学科・機械制御工学専攻>

- 1) 機械工学・電気工学の基礎・応用科目群：いわゆる機械工学（材料力学、水力学、熱力学、機械力学など）および電気工学（電気回路、電子回路、電磁気学など）を基盤とした基礎専門科目群および専攻科におけるそれらの応用・学際的科目群（ロボット制御工学、応用計測工学など）を用意しています。
- 2) 実践的技術力の修得に関する科目群：実践的な工学実験、工作実習、設計製図（および専攻科における総合実験）などの実技科目を用意しています。
- 3) 課題解決能力・開発力の育成に関する科目群：創造演習・創造製作、知的財産権、卒業研究（および専攻科における総合演習、応用研究、特別研究）などの、課題解決能力、応用力、創造力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力、表現力などの総合的能力を身につけるための科目を用意しています。

### <情報電子工学科・情報電子工学専攻>

- 1) 電子・情報・通信工学の基礎・応用科目群：いわゆる情報工学（情報理論、コンピュータアーキテクチャ、プログラミングなど）および電気・電子工学（電磁気学、アナログ回路、デジタル回路など）を基盤とした基礎専門科目群および専攻科におけるそれらの応用・学際的科目群（メディア信号処理、半導体電子工学など）を用意しています。
- 2) 実践的技術力の修得に関する科目群：実践的なプログラミング関連科目、電子工学実験、情報システム実験、電子通信システム実験（および専攻科における総合実験）などの実技科目を用意しています。
- 3) 課題解決能力・開発力の育成に関する科目群：知的財産論、創造演習・創造製作、卒業研究（および専攻科における総合演習、応用研究、特別研究）などの、課題解決能力、応用力、創造力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力、表現力などの総合的能力を身につけるための科目を用意しています。

### <土木建築工学科・環境建設工学専攻>

- 1) 土木工学・建築学の基礎・応用科目群：いわゆる土木工学（土木構造・材料学、水工学、地盤工学、測量学など）および建築学（建築構造・材料学、建築計画学、建築環境・設備学、都市計画学など）を基盤とした基礎専門科目群および専攻科におけるそれらの応用・学際的科目群（建設プログラミング、都市環境計画学など）を用意しています。
- 2) 実践的技術力の修得に関する科目群：実践的な工学デザイン、工学実験、測量実習、情報処理、CAD（および専攻科における総合実験）などの実技科目を用意しています。
- 3) 課題解決能力・開発力の育成に関する科目群：集中測量実習、創造演習、卒業研究（および専攻科における総合演習、応用研究、特別研究）などの、課題解決能力、応用力、創造力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力、表現力などの総合的能力を身につけるための科目を用意しています。



### <成績評価及び単位認定基準>

これらの科目に対する単位取得の認定は、各科目のシラバスに基づき、以下の方法で行います。

- (1) 成績評価は、定期試験の成績、レポート等の課題、履修状況等を総合して実施します。
- (2) 成績は履修と認められた科目で100点法により採点し、60点以上の成績をもって所定の単位を認定します。
- (3) 単位認定のための成績評価の評点区分（評語）は4段階です。

※GPA算出のためのGrade Point (GP) は5段階です。

単位認定のための成績評価		GPAによる区分		
最終成績 (点)	評点区分 (評語)	最終成績 (点)	評語	Grade Point (GP)
80～100	優	90～100	A	4
70～79	良	80～89	B	3
60～69	可	70～79	C	2
0～59	不可	60～69	D	1
		0～59	F	0

### アドミッションポリシー（入学者選抜の基本方針）

本校のアドミッションポリシーは、ディプロマポリシーに基づき、次のような能力と意欲を持った学生を入学させるためのものです。具体的には次のような人を求めています。

#### <本科入学者および編入学者に求める学生像>

本科（準学士課程）では、以下の素養を有する人を求めています。

- ・数学と理科の基礎学力が身についている人
- ・信頼される技術者を目指し、コミュニケーション能力の基礎を身につけている人
- ・勉学や課外活動などに意欲を持って取り組んでいる人
- ・ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えている人

#### <専攻科入学者に求める学生像>

専攻科では、次のような人を広く求めています。

- ・複合分野の基礎となる基本的素養が身についている人
- ・コミュニケーション能力や倫理的判断能力が身についている人
- ・実験・演習や卒業研究に意欲をもって取り組んでいる人
- ・ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えている人

本校では、入学者の選抜に関して以下の方針を定めています。

#### <本科入学者選抜の基本方針>

- ・推薦による選抜においては、出身中学校長が責任を持って推薦した生徒に対して、調査書および推薦書等の提出資料の内容に加え、作文（コミュニケーション能力の基礎として国語による表現力、ものづくりが好きであるかを評価）、目的意識・意欲などに関する一般面接（コミュニケーション能力や意欲、ものづくりが好きで、信頼される技術者を目指しているか、社会の発展に役立ちたいと考えているかを評価）、各学科への適性に関する適性面接（数学や理科の基礎学力を評価）の結果を総合的に評価し、本校への適性を有すると判断した人を選抜します。
- ・学力検査による選抜においては、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した者を選抜するため、学力検査の結果と調査書の内容を総合的に評価します。学力検査は筆記試験で、国語、英語、数学、理科、社会の5教科です。なお、数学と理科の基礎学力が身についているかを評価するため、他の教科に比べ、数学を2倍、理科を1.5倍に換算します。また、他の教科と調査書は主に十分なコミュ

コミュニケーション能力の基礎を身につけているかを評価します。

- ・帰国子女特別選抜においては、筆記試験で、国語、英語、数学、理科の4教科を実施し、数学と理科の基礎学力が身につけているかを評価するため、他の教科に比べ、数学を2倍、理科を1.5倍に換算します。また、他の教科では主に十分なコミュニケーション能力を身につけているかを評価します。さらに一般面接（意欲、ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えているか、信頼される技術者を目指しているかを評価）を行い、本校への適性を有すると判断した人を選抜します。

#### ＜編入学者の選抜方針＞

編入学希望者の選抜においては、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した者を選抜するため、数学と英語、および物理または専門科目の学力検査（基礎学力を評価）を行い、調査書等の内容を参考に面接（コミュニケーション能力、意欲、ものづくりが好きで社会の発展に役立ちたいと考えているか、信頼される技術者を目指しているかを評価）を行い、これらの結果を総合的に評価し、本校への適性を有すると判断した人を選抜します。

#### ＜専攻科入学選抜の基本方針＞

専攻科入学選抜は、「学校長の推薦による選抜」、「学力検査による選抜」および「社会人特別選抜」の三つの方法で行います。

- ・「学校長の推薦による選抜」においては、在籍学校長が学力・人物ともに優れていると認め推薦した者に対して、口頭試問卒業研究計画書に基づく面接（実験・演習や卒業研究の取り組みを評価）及び願書、推薦書などを参考にした面接（コミュニケーション能力、ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えているかを評価）の結果並びに出願書類をもとに、総合的に判定します。
- ・「学力検査による選抜」においては、数学、英語及び専門科目の得点の合計（複合分野の基礎となる基本的素養を評価）、面接（コミュニケーション能力、ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えているかを評価）の結果並びに出願書類をもとに、総合判定により行います。英語はTOEICスコアを本校専攻科で定めた基準により換算します。また専門科目は口頭試問で実施します。なお、専門科目は外部資格による免除制度があります。
- ・「社会人特別選抜」においては、所属する機関の長が学力・人物ともに優れていると認め推薦した者に対して、面接（コミュニケーション能力、ものづくりや研究開発で社会の発展に役立ちたいと考えているかを評価）の結果及び出願書類をもとに、総合判定により行います。

#### (4) JABEE認定プログラム 徳山高専「設計情報工学」プログラム

本校では、本科4・5年と専攻科のカリキュラムで「設計情報工学」プログラムを構成しています。すでに述べたように、本校では本科5年間と専攻科2年間の教育全体をまとめて学習・教育目標を定め、専攻科で育成しようとする技術者像を「情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」と定めており、そのなかの本科4年生以上の教育内容を切り取って、JABEE認定を受けています。すなわち、その内容は本校の教育全体をまとめて一本化したもので、コンピュータに関連した情報技術をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者を育てる教育体系を指しています。この教育プログラムは国際的に通用する技術者育成に適合するものとして、日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査により認定され、平成15年度から適用されています。

参考のため、以下にJABEE基準（2019年新基準）を示します。

##### 日本技術者教育認定基準（JABEE基準）

プログラム修了生が以下の知識・能力を身につけることを求めています。

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解
- (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

※プログラムの詳細はC. 科目配置一覧のJABEE認定プログラム（P.50～）をご確認ください。



# 履修の手引き



## (1) 教育課程と科目履修について

### ①教育課程について

本校において定期試験，学校行事等の日数を含めた授業日数は，年間35週にわたることを原則とし，授業科目については5年間で167単位以上を，また，特別活動90単位時間を履修することが定められています。

各学年で行われる授業科目や単位数は，学則の教育課程表に示されているように高学年になるにしたがって実験，実習等の授業が多くなり，講義で学んだことを実験・実習・創造演習等，自分の体験を通して理解を深めるよう編成されています。

### ②科目の履修について

②-1 **科目履修上の注意**：本校を卒業するために必要な履修科目は，学科ごとに学則に示されているとおりですが，高専では一般科目と専門科目が有機的かつくさび型に5年間にわたり配分され，単位制を加味した学年制をとっています。このため，各学年の課程を修了しないと次の学年に進級することができません。特に3年生までは，同一学年を再度全部履修しなければならないので，どの科目の学習もおろそかにできません。

②-2 **必履修科目**：必履修科目のうち一般科目は各学科とも全員が受講し，専門科目は学科ごとの必履修科目をそれぞれ履修します。このなかで，2年生の芸術は工芸・美術・書道・音楽から希望する内容を1つ選ぶことができます。1年時に各学級担任を通して希望する授業を申請しますが，各科目の人数が30名程度になるよう編成しますので，必ずしも希望どおりとはなりません。

②-3 **必修得科目（必修科目）**：必修得科目は，指定された期間内に必ず修得しなければ，進級や卒業が認められません。学科によって科目や修得時期が異なりますので，必ず学則の別表を確認してください。

②-4 **選択科目**：本校は複合学科のため，選択科目を履修するにあたっては，自分の将来を見据えてどの科目を選ぶか，よく考える必要があります。複合学科の特徴を生かして2つの分野をバランスよくとることもいいでしょうし，選択科目についてはどちらか興味のある分野をとることもいいでしょう。なお，土木建築工学科については，建築士の受験資格の関係から，選択科目が指定されていますので，注意が必要です。

また，一般科目についても人文・社会領域，自然科学領域，外国語の選択科目が開講されています。選択科目は，専門科目，一般科目も4年生から履修しますので，3年生の2月頃，学級担任を通して選択科目履修届を学生課に提出します。

②-5 **履修単位と学修単位**：本科の単位は「履修単位」と「学修単位」に分かれます。学修単位はさらに，「学修単位Ⅰ」と「学修単位Ⅱ」に分かれます。これらは，1単位の定義が次のように異なっています。

○履修単位（主に3年生以下の科目対象）

30単位時間（1単位時間は標準50分、90分授業は2単位時間と数える）の履修を1単位として計算します。

○学修単位Ⅰ（主に4年、5年の科目対象）

1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とします。そのうち30時間は授業で実施し、残り15時間は自修することになります。

○学修単位Ⅱ（主に専攻科と、4年、5年生の科目対象）

既に専攻科で実施していたシステムを本科でも適用したものがこの「学修単位Ⅱ」です。学修単位Ⅰと同様に、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とします。しかし、そのうち授業時間は15時間で、30時間が自修することになります。

## ○「習う」から「自学」へ

これからの授業で先生たちは、「何を教えたか」よりも「何を学んだか」を重視します。とくに学修単位Ⅱは、授業では扱っていなくても自修した内容を理解しているかが問われることになるでしょう。学修単位Ⅱに該当する科目は「何を学んだか」がとりわけ重要な科目です。

履修単位にしても学修単位にしても、自宅学習によって自ら学ぶ「自学」が必要ということです。授業をしっかりと受け「習う」ことで知識を身につけることも大切ですが、学生である皆さんには「自ら進んで知識や技術を修得する努力をした実績」がないと単位は出せないということです。課題のメ切を守るとは当然ですが、授業の理解を高めるための予習や復習を“毎日”必ず行ってください。

## （２）各授業科目のシラバス（授業科目概要）について

授業科目概要（シラバス）は、すべて「高専webシラバス」サイトにおいてPDF（Portable Document Format）ファイルとして公開しています。

サンプルのシラバスを、次頁に解説をつけて掲載していますので、受講予定のものと比較して確認してみてください。

シラバスには、授業の概要や担当教員名のほか、授業計画、対応する本校の教育目標とJABEEの認定基準、MCC（モデルコアカリキュラム）との対応、授業時間外の学習（予習・復習）方法、授業の形態、教科書等資料、到達目標、成績評価の基準・方法などが記載してあります。

毎年、4月1日に当該年度のシラバスを公表します。

シラバスは、皆さんが授業科目を履修する際、準備学習等を進めるための基本となるものです。また、授業の内容を事前に把握できます。

### <Webシラバス閲覧手順>

- ・本校ホームページ内リンク先にアクセスし、閲覧したい学科の「本年度の開講科目一覧」をクリックする。（または、「高専 WEBシラバス」で検索）
- ・ページ右上に表示される「開講年度」のドロップダウンリストで閲覧したい年度を選択する。
- ・閲覧したい授業科目名をクリックする



# シラバスの解説

注意：見本にしているシラバスはR4のもので、内容は最新のものを確認ください。

ホームを押すと、全国の高専シラバスへのリンクへ移動します。

ホーム / 徳山工業高等専門学校 / 機械電気工学科 / 電気回路Ⅱ

## 電気回路Ⅱ

PDF

### 科目基礎情報

学校	徳山工業高等専門学校	開講年度	
授業科目	電気回路Ⅱ	科目区分	
科目番号	0069	単位の種別と単位数	
授業形態	講義	対象学年	
開設学科	機械電気工学科	週時間数	
開設期	前期		
教科書/教材	早川義晴ほか「電気回路(1)直流・交流回路編」、阿部薫一ほか「電気回路(2)回路網・過渡現象編」(コロナ)		
担当教員	根本 逸男		

【科目基礎情報】  
科目についての基本情報が記載されています。教科書もここに記載されています。

### 目的・到達目標

複合分野の設計能力を身につけるため、以下の項目を到達目標とする。  
①複素数を用いた交流回路の計算方法(記号法)および電気回路の諸法則について理解し、課題に対する計算を行うことができる。  
②相互誘導に関する内容について理解し、課題に対する計算を行うことができる。  
③三相交流に関する内容について理解し、課題に対する計算を行うことができる。  
④過渡現象に関する内容について理解し、課題に対する計算を行うことができる。

【目的・到達目標】  
この科目の目的・到達目標です。一つではなく複数設定されていることもあります。

### ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
到達目標①	記号法および諸法則について理解し、課題に対する計算を間違いなく行うことができる。		
到達目標②	相互誘導について理解し、課題に対する計算を間違いなく行うことができる。		
到達目標③	三相交流について理解し、課題に対する計算を間違いなく行うことができる。		
到達目標④	過渡現象について理解し、課題に対する計算を間違いなく行うことができる。		

【ルーブリック】  
科目の目標を達成する際に用いる達成基準です。教員が、目標を達成しているかを判定する評価基準になります。ルーブリックの記述内容や記述の方法は、教員によって異なります。

### 学科の到達目標項目との関係

到達目標 C1 説明  
JABEE d-1 説明

【学科の到達目標項目との関係】  
この科目に対応する徳山高専の教育到達目標とJABEEの認定基準を示しています。

### 教育方法等

概要:  
4年生前期の電気回路は、3年生で学習した基礎的内容を発展させ、記号法による交流回路である。  
授業の進め方と授業内容・方法:  
基本的に教科書に沿って講義を行うが、適宜必要な資料を配布する。基本的には、毎回、  
注意点:  
評価方法  
【前期中間試験】×0.4 + 【前期末試験】×0.4 + 【課題】×0.2

【教育方法等】  
授業の概要や進め方、注意点が記述してあります。科目によっては評価についての説明が記載されていることもあります。

### 授業の属性・履修上の区分

アクティブラーニング  ICT 利用  遠隔授業対応  実務経験のある教員による授業

### 授業計画

	週	授業内容・方法	週ごとの到達目標
前期	1週	授業内容：複素数の計算 事後学習：課題1の問題	複素数の計算方法を理解する。
	2週	授業内容：記号法による交流回路の計算、インピーダンスの直列、並列 事後学習：課題2の問題	R、L、Cの単独回路と複合回路に関する記号法による計算方法を理解する。
	3週	授業内容：ブリッジ回路、複素電力 事後学習：課題3の問題	
	4週	授業内容：キルヒホッフの法則、重ね合わせの理 事後学習：課題4の問題	
	5週	授業内容：テブナンの定理、最大有効電力定理 事後学習：課題5の問題	
	6週	授業内容：相互誘導回路、結合係数 事後学習：課題6の問題	
	7週	授業内容：磁気結合回路の等価回路、コイルの合成 事後学習：課題7の問題	
	8週	前期中間試験	
2ndQ	9週	授業内容：三相交流の概略 事後学習：復習あるいはレポート	記号法および電気回路の諸法則、相互誘導についての理解を問う。 三相交流の概略として、発電、送電システム、エネルギー需要等について理解する。
	10週	授業内容：三相交流の発生と性質、三相交流と三相結線 事後学習：課題9の問題	三相交流の性質について学習する。三相結線の種類、相電圧、相電流、線間電圧、線電流を理解する。
	11週	授業内容：三相電力と電力ベクトル図、三相交流とV結線 事後学習：課題10の問題	三相電力とベクトル図、Δ結線の一相を除いたV結線、スターデルタ変換を理解する。
	12週	授業内容：直流電圧による過渡現象(RL直列回路) 事後学習：課題11の問題	過渡現象の概略を説明し、RL直列回路に直流電圧(ステップ入力)を加えた場合の応答を理解する。
	13週	授業内容：直流電圧による過渡現象(RC直列、RL直列並列) 事後学習：課題12の問題	RCの直列回路およびRL直列並列回路に、直流電圧(ステップ入力)を加えた場合や取り去った場合の応答を理解する。
	14週	授業内容：演習問題	三相交流回路に関する演習問題をを行うことで理解を定着する。

【授業計画】  
毎回ごとの授業の予定が記されています。この科目は前期科目なので半期分が表示されていますが、通年科目の場合は後期分も表示されます。

15週	前期末試験	三相交流および過渡現象についての理解を問う。
16週	授業内容：試験の解答および復習	試験の復習を行い、不十分な箇所を理解を深める。

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週			
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	電気回路	電荷と電流、電圧を説明できる。	4			
			オームの法則を説明し、電流・電圧・抵抗の計算ができる。	4				
			キルヒホッフの法則を用いて、直流回路の計算ができる。	4				
			合成抵抗や分圧・分流の考え方を用いて、直流回路の計算ができる。	4				
			ブリッジ回路を計算し、平衡条件を求められる。	4	前3			
			電力と電力を説明し、これらを計算できる。	4				
			正弦波交流の特徴を説明し、周波数や位相などを計算できる。	4	前2			
			平均値と実効値を説明し、これらを計算できる。	4	前3			
			正弦波交流のフェーザ表示を説明できる。	4	前2			
			R、L、C素子における正弦波電圧と電流の関係を説明できる。	4	前2			
			瞬時値を用いて、交流回路の計算ができる。	4				
			フェーザ表示を用いて、交流回路の計算ができる。	4				
			イキ合直相変換					
			電磁気	電磁誘導を説明でき、誘導起電力を計算できる。	4	前6		
				自己誘導と相互誘導を説明できる。	4			
				自己インダクタンス及び相互インダクタンスを求めることができる。	4			
			電力	三相交流における電圧・電流(相電圧、線間電圧、線電流)を説明できる。	4	前10		
				電源および負荷のΔ-Y、Y-Δ変換ができる。	4	前11		
				対称三相回路の電圧・電流・電力の計算ができる。	4	前10		
				変圧器の原理、構造、特性を説明でき、その等価回路を説明できる。	4	前7		
				半導体電力変換装置の原理と働きについて説明できる。	4	前11		
				電力システムの構成およびその構成要素について説明できる。	4	前9		
				交流および直流送配電方式について、それぞれの特徴を説明できる。	4	前9		
				電力品質の定義およびその維持に必要な手段について知っている。	4	前9		
				電力システムの経済的運用について説明できる。	4	前9		
				水力発電の原理について理解し、水力発電の主要設備を説明できる。	4	前9		
				火力発電の原理について理解し、火力発電の主要設備を説明できる。	4	前9		
	原子力発電の原理について理解し、原子力発電の主要設備を説明できる。	4	前9					
	その他の新エネルギー・再生可能エネルギーを用いた発電の概要を説明できる。	4	前9					
	計測	電気エネルギーの発生・輸送・利用と環境問題との関わりについて説明できる。	4	前9				
	SI単位系における基本単位と組立単位について説明できる。	3						
	指示計器について、その動作原理を理解し、電圧・電流測定に使用する方法を説明できる。	3						
	倍率器・分流器を用いた電圧・電流の測定範囲の拡大手法について説明できる。	3						
	電圧降下法による抵抗測定の原理を説明できる。	4						
	ブリッジ回路を用いたインピーダンスの測定原理を説明できる。	4						
	有効電力、無効電力、力率の測定原理とその方法を説明できる。	4	前11					
	電力量の測定原理を説明できる。	3						
	オシロスコープの動作原理を説明できる。	4						

【モデルコアカリキュラム(MCC)の学習内容と到達目標】  
 高専機構(本部)が策定したモデルコアカリキュラムに対する分類、到達目標、到達レベル、授業週等が記されています。  
 <MCCの詳細については下記参照>

### 評価割合

総合評価割合	前期中間試験		前期末試験		課題	合計
	到達目標①	到達目標②	40	40		
到達目標①	20	20	40	0	5	100
到達目標②	20	20	0	0	5	25

#### 【評価割合】

ルーブリックで示された達成基準を、どのような方法で、どのような割合で評価するのかを示したものです。

一番上の行には評価方法が挙げられています。一番左の列には科目のと歌津目標が挙げられている場合や、「基礎的能力」・「専門的能力」・「分野横断的能力」など、その科目で養われる能力が挙げられている場合があります。この記述も教員によって異なります。

#### 【モデルコアカリキュラムについて】

\*高専機構におけるモデルコアカリキュラムの定義と構成

国立高等専門学校機構(以下、高専機構)のモデルコアカリキュラムは、「国立高等専門学校(以下、高専)として養成する人材の備えるべき能力や到達度について、最低限の能力基準(ミニマムスタンダード)を確保しつつ、各高専が育成を目指す人材像に沿って特色ある独自の教育を実践するためのカリキュラム構築のための基本的なガイドラインとなるもの」と定義される。

なお、モデルコアカリキュラムは、以下の2つの部分から構成されている。

#### 【コア】

各高専のカリキュラムにおいて、数学、物理分野、専門科目など特定分野の教育で達成させることが一般的な教育目標の中核(コア：ミニマムスタンダード)部分

#### 【モデル】

キャリアデザイン能力、コミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力など、特定の科目に限定されず多様な教育方法や活動の中で達成させる能力であり、効果的な教育方法やその能力の評価方法についても共有し、広くモデルとして展開を図っていくことになる部分

機構本部 モデルコアカリキュラム-ガイドライン- より抜粋

### (3) 試験について

#### ① 定期試験

定期試験は前期末及び学年末に行われ、学期の中間に中間試験が行われます。試験科目がたくさんあるので、一夜漬けで乗り切ろうなどとは考えず、1～2週間前から計画を立てて準備することが必要です。また、試験期間が長いので、体調を整えておくことも大切です。せっかく準備したのに試験を休んでしまっただけは、苦勞が水の泡です。

定期試験では試験開始後20分を超えて遅刻したときはその科目は受験できません。答案を提出しなかったり、処分により停学中となった学生は、その時間の試験成績は0点になります。

また、試験中不正行為をした場合、その試験期間中全科目の試験成績が0点となります。(教務規則参照)

#### ② 追試験

定期試験又は中間試験を受けなかった場合、その理由がやむを得ないと認められた者に対しては、追試験が行われることがあります。なお、追試験の申請を事実発生の翌登校日に必ず申し出ること。事前に判明している事項はあらかじめ申し出ること。申し出が遅れた場合は認められないことがあります。

##### ○ 追試験の対象

その理由がやむを得ないと認められた者は以下のとおりです。

- (a) 疾病等による欠席等 (医療機関を受診の上、診断書が提出された場合に限る)

試験開始前に電話連絡により連絡した上で、「欠席、欠課、遅刻、早退届(様式)」(以下「欠席届」)と医療機関が発行する診断書を事前又は事後に遅滞なく提出すること。

- (b) 災害、交通事故及びその他不可抗力的理由による欠席等

発生後速やかに電話連絡により連絡した上で、「欠席届」とその事実が確認できる書類(遅延証明書・事故証明書等)を遅滞なく提出すること。

- (c) その他の理由による欠席等

以下により、出席の取扱いと認められた場合は、追試験を行うことができる。ただし、この場合においても、所定の手続きを経ること。

##### 記

- ・ 対外試合出場及び就職事務その他特に認められたもの
- ・ 公傷のため欠席となることが認められた場合
- ・ 伝染病その他の疾病による出席停止
- ・ 忌引

##### 追試験の連絡について注意

必ず、電話で学級担任や学生課教務係へ連絡し、事情を説明してください。

必要な手続きなどを確認されて、追試験の申し出が出来るようにして、登校できるようになったらすぐに申請をしてください。

追試験の実施については、担当教員の負担となることや公平性の観点から、やむを得ないものと認められる理由がある場合に限られます。必要な書類が揃っていない場合、申請が出てこない場合、試験当日に休むやむを得ない理由が学生課へ伝わっていない場合などには追試の対象とできない場合がありますので、注意してください。

#### ③ 再試験

○ 「不可」科目をもつ学生に対しては再試験を行います。

○ 5年生については、「5年生前期科目」は10月末までに、「1～5年生の全科目」については3月初旬までに再試験を行います。

また再試験受験については、科目担当教員の許可が必要です。再試験は受験者がある科目のみ実施します。

## ○レポートや発表資料作成時の留意点

剽窃などの不正行為について

□全ての著作物は「著作権法」で守られている。

他人の著作物の一部を自分の著作物に取り込むことを「引用」という。

□「引用」するためには遵守すべきルールがいくつもある

たとえ一部分でも，他人の著作物を無断で使用すれば著作権侵害や剽窃行為に該当する可能性があります。

- |                  |          |
|------------------|----------|
| ・ ネット記事をコピー&ペースト |          |
| ・ 書物の文章を抜き書き     | してないですか？ |
| ・ 友達のレポートを丸写し    |          |

これらの行為が発覚した場合，不正行為とみなし厳正に処分されます。

△ 善意で自分のレポートを友人に見せた結果，知らないうちに不正行為に加担してしまうこともあります。自分の行動には責任を持ちましょう。

## (4) 成績評価について

各科目については 2 / 3 以上の出席により履修したと認められ，学年末に評価されます。学期または学年における学業成績は，その期間中の試験成績や学習状況を総合して評価され，やむを得ず試験を受けられなかった場合でも平常の学習状況等により評価されることがあります。

評価は，優・良・可・不可の4区分で次のように決められています。

優	80点～100点
良	70点～79点
可	60点～69点
不可	0点～59点

科目ごとの欠課時数が  $1 / 5$  を超える場合は，原則として不可の評価とされます。同じ曜日・科目を集中して欠席・欠課することのないよう，注意してください。

特に前期または後期のみと半期で終了する科目では授業回数が15回しかなく，同じ曜日を3日休むと  $1 / 5$  の欠課となる場合が多く，あと1回の遅刻等で欠課時数が  $1 / 5$  を超え，不可の評価となりますので注意が必要です。

## ○成績の通知

前期の成績は高専祭時期（10月後半頃）に予定している保護者会（または郵送，高学年は本人へ）でお渡しします。学年末は，保護者等あてに各種案内と合わせて郵送します。（保護者等への通知については，独立行政法人国立高専機構保護者等に関する取扱要項第6条による）

## ○授業がわからない，授業について質問があるとき

オフィス・アワーを活用する—オフィス・アワーとは，授業に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として，教員が研究室に在室している時間帯のことです。授業担当教員のオフィス・アワーは本校ホームページに掲載しています。

## (5) 各種の連絡事項

### ◆掲示板

授業変更などはクラスの掲示板に掲示します。そのほか重要な案内を掲載しますので必ず確認する習慣を身につけましょう。

### ◆TEAMS記載の記事について

高専では、マイクロソフトTeamsというコミュニケーションソフトを使用しています。

こちらの学生向けの記事に掲載される記事についても重要なものがありますので必ず確認してください。

### ◆メール・チャット

学生にメールアドレスが割り振られます。こちらや、マイクロソフトTeamsのチャットで連絡することがあります。 \*必ず確認をするようにしてください。

### ◆本校HP、「さくら連絡網」

重要な内容・災害等の情報については保護者等にもお知らせする必要があります。

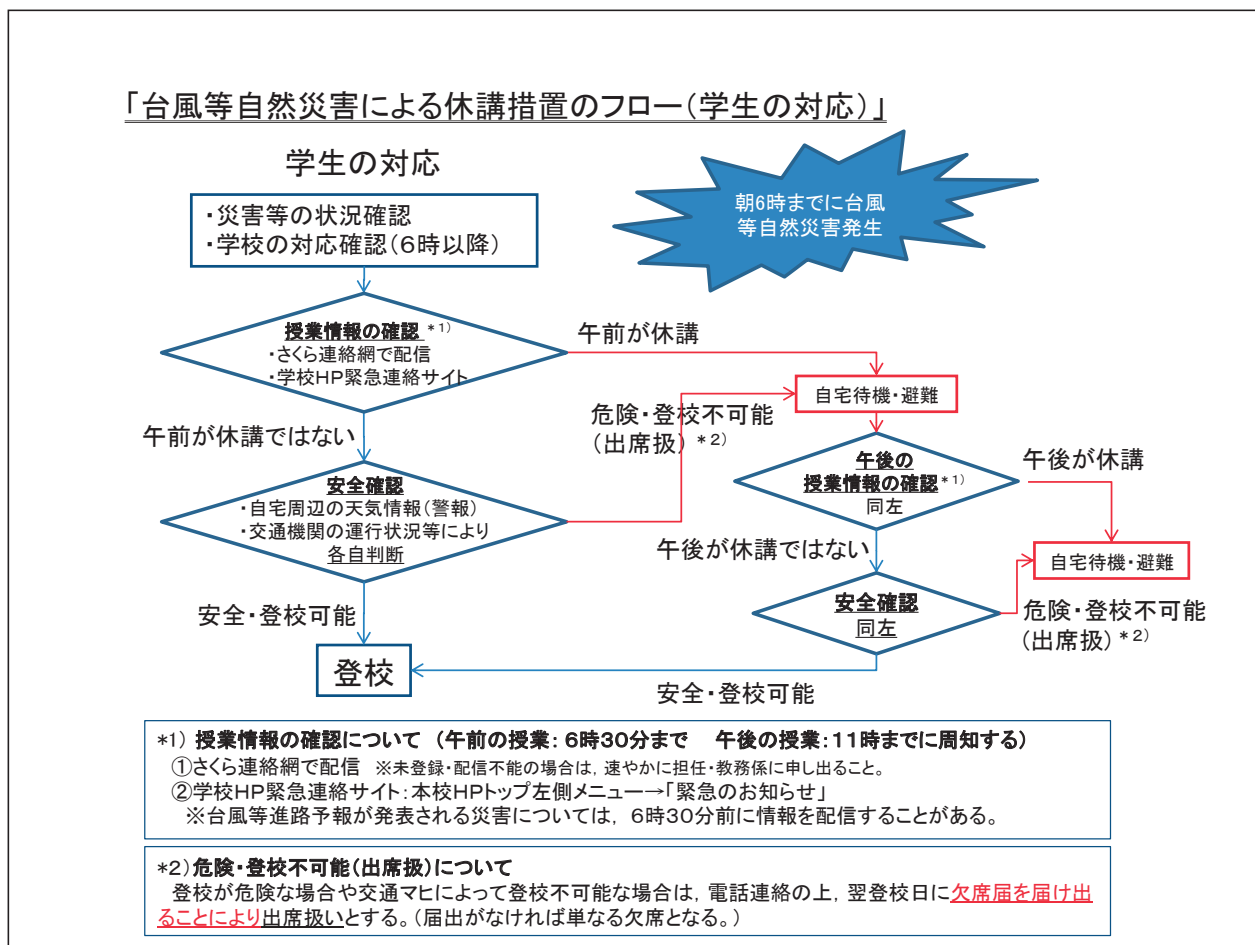
このようなものは、本校ホームページ「緊急のお知らせ」や、「さくら連絡網」でお知らせします。

確認できるように、あらかじめ準備をお願いします。

### ◆自然災害による休講措置

徳山高専ホームページの「学生生活」から「自然災害による休講措置」に掲載しています。

### <台風等自然災害による休講措置のフロー(学生の対応)>

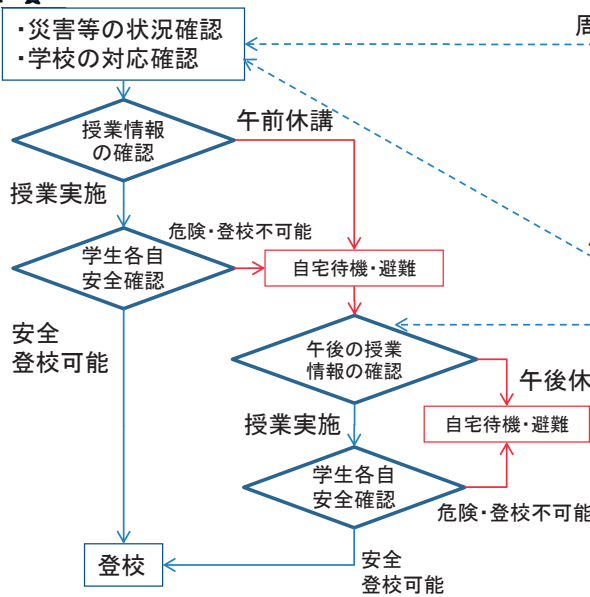


# 台風等自然災害による休講措置のフロー

朝6時までに台風等自然災害発生



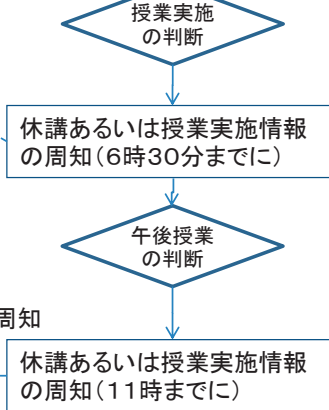
## 学生の対応



## 学校の対応



・災害等の状況確認  
・授業実施について検討することを発表(6時頃)※



※台風のように進路が予報されるものについては、前日までに判断をし、授業実施情報の周知を6時30分前に行うことがある。

※イラスト提供:「いらすとや」

## <防災ポケットマニュアル>

徳山工業高等専門学校

# 防災

ポケットマニュアル

H31.4月作成版

〒745-8585  
山口県周南市学園台  
<http://www.tokuyama.ac.jp/>

### ① 災害発生からのフロー

災害発生

学校

- 災害状況確認
- 避難指示
- 避難場所に対策本部を設置
- 安否確認
- 対応検討

学生・教職員

- 自分の身を守る
  - 危険物を回避
  - 脱出路を確認
  - 落下物注意
- 周りを見る
  - 火災は?
  - けが人は?
- 避難を開始する
  - 火元の確認
  - 取り残された人はいないか?
  - 声を掛け合う
  - エレベーター使用厳禁
- 避難場所へ移動
  - 誘導指示に従う
  - 押し合わない
  - 勝手な行動厳禁
- 安否連絡
  - 家族等に連絡
  - 学校に連絡

### ② 学校内の避難場所

避難場所

正門

### ③ 学校への安否連絡

学生(教職員)の安否確認の連絡を「さくら連絡網」のメール及びLINEに一斉配信するとともに、その旨学校のホームページ「緊急のお知らせ」に掲載します。

連絡可能な状況になり次第回答してください。

安否確認メールを受信できない場合、下記の方法で学校に連絡してください。

■学生

0834-29-6232  
報告事項

①氏名  
②学年・学年・クラス  
③本人の状況  
④保護者・家族の状況  
⑤保護者・家族の住居の状況

■教職員

0834-29-6200

### ④ 家族等との安否連絡

NTT災害伝言ダイヤル

事前に家族同士等で使用方法等について確認しておきましょう。

安否登録 (伝言録音)    安否確認 (伝言再生)

☎1711に電話

ガイダンス

1                      2

ガイダンス

市外発信時                      市外発信時+被災地のための電話発信

ガイダンス

メッセージ録音                      メッセージ再生

携帯各社の災害伝言板サービス

事前に登録が必要です。

●指定の家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせします。

●インターネットからも安否情報の確認が可能です。

各社のQRコードはこちら

NTT

★NTT ☎: <http://denpa.docomo.ne.jp/top.asp>

★au ☎: <http://denpa.socoh.ne.jp/>

★7★ ☎: <http://denpa.softbank.ne.jp/>

### ⑤ 応急手当の方法

※必ず、自分の安全を確保する。

人が倒れているら

意識や呼吸、脈・外傷の有無などを確認する。

●出血がある→止血を優先、必要なら応急手当をする。

●意識がない→呼吸を確認し、必要なら人工呼吸・心肺蘇生を行う。

切り傷などによる出血

大部分の出血は、数分間の圧迫で止まる。

●出血が止まらなければ、傷口をきれいな水で洗い、清潔な布を当てて圧迫する。

●心臓より高い位置に圧迫。

●圧迫が止まらなければ、傷口の周囲を清潔な布で覆う。

●水はけは避け、清潔な布で覆う。

●止血剤は必要に応じて使用する。

●止血剤は必要に応じて使用する。

骨折

●固定 (布・紙・ダンボール等利用) を当て、傷くない位置で固定し骨折の部分を動かさない。

●固定するときは、患部の両側に固定し、患部の動きを抑える。

火傷の処置

●清潔なハンカチを押し当てて冷やす。

●応急手当等の講習会に参加する。

### ⑥ 緊急避難アイテム

日頃から準備・維持しておく便利な物

<input type="checkbox"/> 現金 (小銭も)	<input type="checkbox"/> 学生証・免許証
<input type="checkbox"/> 健康保険証	<input type="checkbox"/> アドレス帳
<input type="checkbox"/> タオル	<input type="checkbox"/> 高良 (カッパ)
<input type="checkbox"/> 懐中電筒	<input type="checkbox"/> 携帯電話の充電ケーブル
<input type="checkbox"/> 折り紙や紙コップ	<input type="checkbox"/> ボリソール
<input type="checkbox"/> チョコレート	<input type="checkbox"/> ホイッスル
<input type="checkbox"/> 鉛	<input type="checkbox"/> ティッシュ

その他非常時に必要なアイテム

<input type="checkbox"/> 現金通帳	<input type="checkbox"/> 印鑑
<input type="checkbox"/> 簡易トイレ	<input type="checkbox"/> 上着・下着・靴下
<input type="checkbox"/> 避難用袋	<input type="checkbox"/> リュック
<input type="checkbox"/> 傘	<input type="checkbox"/> 懐中電筒
<input type="checkbox"/> 紐・ロープ	<input type="checkbox"/> 三角巾、ライター
<input type="checkbox"/> 予備電池	<input type="checkbox"/> 缶詰、乾パン
<input type="checkbox"/> スリッパ	<input type="checkbox"/> 洗面用具
<input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/> 非常用飲料・水
<input type="checkbox"/> 非常用ヘルメット	<input type="checkbox"/> 油性マジックペン
<input type="checkbox"/> 貴重品ラップ	<input type="checkbox"/> 軍手

メモ

### ⑦ 情報を集める

しゅうなんメールサービス (周南市)

災害・緊急時のお知らせや気象情報 (地震・津波・各種警報) 等を随時配信している。

＜登録方法＞

[shunan@xpressmail.jp](mailto:shunan@xpressmail.jp) に空メールを送信する。

周南市災害情報 (周南HP)

周南市の避難勧告、避難者、人的被害、家屋・建物被害等の情報が得られる。

<https://www.city.shunan.lg.jp/soshiki/9/4187.html>

山口県防災・災害情報 (山口県HP)

山口県内の防災情報、ハザードマップ、日頃の備え等の情報が得られる。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a10900/a10900/0bousai/bousaijuhou.html>

### ⑧ 緊急時パーソナルメモ

氏名 \_\_\_\_\_

学級 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

性別 \_\_\_\_\_

家族の持ち物や連絡先 (家族に共有しましょう)

家族の持ち物や連絡先 (家族に共有しましょう)

家族の持ち物や連絡先 (家族に共有しましょう)

## (6) 遅刻・欠席・欠課・早退について

### ①用語の説明

本校では、以下の通り取り扱います。

「遅刻」 とは各授業時間に20分未満遅れること、

「欠席」 とは出席すべき日に出勤しないこと、

「欠課」 とは各授業時間を20分以上欠くこと、

「早退」 とは20分未満各授業時間の中で退出すること、

なお、「遅刻」または「早退」2回で「欠課」1時間に換算し、「欠課」8時間を「欠席」1日として取り扱います。

### ②出席として取り扱われる場合

災害、交通事故その他不可抗力的理由による欠席等はその事実が確認された場合に限り、本人の「欠席届」の提出により、出席の取扱いとします。

そのほか、対外試合出場及び就職活動、その他特に認められたもので、事前に公認欠席願を提出し、許可があった場合に限り、公認の欠席として出席の取扱いとします。

公傷と認められた場合は、学生課に確認し、速やかに公認欠席届を提出してください。この場合も公認の欠席として出席の取扱いとします。

### ③出席停止について

感染症等により学校から出席停止とされた期間及び忌引き日数（父母近親の喪に服するとき）も公認の欠席として出席の取扱いとします。

インフルエンザ等の学校感染症と診断された場合は、「登校（治癒）証明書」を医療機関で記入してもらい、提出してください。

新型コロナウイルス（COVID19ほか）が疑われる場合などについては、学校からの最新の通知を確認してください。

### ④届出について

欠席や遅刻等をする、もしくはしたときは、必ず、「欠席届」の用紙を記入し、学級担任の印をもらって教務係に提出してください。

また、緊急の場合など前もって届出を出せないときは、本校所定のオンラインフォーム（本校HP掲載）を使ってSHR（ショート・ホーム・ルーム）が始まるまでに連絡してください。（オンラインフォームが使用できない場合には学級担任または教務係に電話してください。）登校後に、「欠席届」の書類を学生課へ必ず提出してください。

※学校を午後から休む場合などは、オンラインフォームへ入力せず、必ず、学級担任か学生課までお知らせください。

## (7) 進級・卒業について

### ①進級

本校は学年制を取っています。学年の課程修了を認定されたら次の学年に進級できますが、次のいずれかに該当した場合、留年となり、もう一度全ての科目の再履修（4・5年の特例科目を除く）が必要となります。

- 未履修の科目がある。
- 学年末での累積不可単位が10単位を超える。
- 学年評価の全科目の平均点が50点未満である。
- 3学年以下の学生で特別活動を履修しなかった。
- 遅刻等換算後の欠席日数が年間25日を超えた。（欠席理由等によっては特例措置が有りますので学級担任へ相談してください）
- 学則に定める必修科目を修得しなかった。

### ②卒業

卒業は、5学年までの各学年の課程を修了し、授業科目167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）修得した場合にその要件を満たします。

## (8) 休学・復学・退学について

### ①休学

疾病その他の理由により継続して3ヶ月以上修学できないときは、学級担任等と相談の上、休学願に医師の診断書または理由書を添えて学校の許可を得なければなりません。

ただし、通算して5年を超えることはできません。休学が4月1日から9月末（前期末）、あるいは10月1日（後期開始日）から3月末の全期間にわたるときは授業料の納付が免除されます。

### ②復学

休学を許可された学生がその理由がなくなり、復学しようとするときは、学級担任を経て復学願を提出し、学校の許可を得ることが必要です。この場合、疾病を理由とする休学は医師の診断書が必要です。

### ③退学

進路変更等の理由により退学するときは退学願を提出し、許可を得なければなりません。

休学・退学を問わず、学校をやめたい・休みたい等、自分がそういう気持ちになったときは一人で悩まず、学級担任、学生相談室、他の教員に相談にのってもらうことが大切です。



## (9) 校外実習について

### ① 校外実習とは何か

本校は、意欲的で創造力豊かな技術者養成をめざし、機械電気工学科2年生の総合実地演習（選択）、全学科4年生の校外実習（選択）を実施しています。別名インターンシップと呼ばれるこの実習では企業等（2年生は県内、4年生は県外を含む）において実習・就業体験を通して専門技術の役割や課題を修得するとともに、自主性や創造性を養うことを目的としています。交通費や、傷害保険料などの学生負担が発生する場合があります。

### ② 総合実地演習（ME\_機械電気工学科2年生のみ）

機械電気工学科教員が、学生の通勤可能な県内の企業に依頼し、参加実習先企業を決めます。この科目は実習期間が1週間程度のものは「総合実地演習1」（1単位）、2週間程度のものは「総合実地演習2」（2単位）とし、夏季休業中に実習を行います。本校での事前教育があります。また、実習後には学生による発表会を実施し授業として評価をおこないます。

### ③ 校外実習（本科4年生のみ）

校外実習は実習期間が1週間程度のものは「校外実習1」（1単位）、2週間程度のものは「校外実習2」（2単位）として授業科目としています。

校外実習は4年生の選択科目です。履修にあたっては4年次当初に配布する「**校外実習1**」・「**校外実習2**」の履修の手引によるほか、次のことに注意してください。

選択科目の履修登録を実習先が決定してから行います。決定したら必ず、指定の期日までに校外実習申請書を学生課教務係に提出してください。

また、実習参加までには学科の指導のもと接遇などの必要な研修を受け、受け入れ企業に迷惑とならないよう社会人としての心構えを持ちましょう。授業評価については、実習終了後に企業からの評価書及び提出されたレポート、校外実習成果報告会での発表により評価されます。詳しくはWEBシラバスを確認してください。

## (10) 外部修得単位・資格取得等について

本校の履修単位以外に他の大学等で学修した単位や資格を取得した場合など、いずれも本校の授業科目等の履修とみなし、特別学修の単位認定を行う制度があります。進級、卒業認定に算入できる特別学修の単位数は60単位が上限とされ、大きく4項目に分けられます。なお、下記③及び④については、卒業認定には算入されません。

### ① 大学等の学修による外部修得単位は、大学等が認定した単位数及びその授業科目

（当該年度の履修単位は上限10単位、ただしeラーニング高等教育連携に係る遠隔教育及び②に関する単位は計10単位上限）

### ② 英語等検定試験及び各種技術者認定試験で資格を取得した場合

### ③ ボランティア活動については、許可された活動計画に基づき30時間以上従事した場合

### ④ スポーツ又は文化に関する分野での活動で、全国規模での抜群の成績を残した場合

また、③・④についてはそれぞれ1単位が上限です。

関連条項等：学則第14条の3、第14条の4、外部修得単位及び資格取得等による学修に係る単位修得の認定に関する規則 ほか

# (11) キャリア教育支援プログラム

## 令和5（2023）年度キャリア教育支援プログラム

- このプログラムは、学生への進路支援活動とキャリア教育活動の目標と具体的な活動項目を、学年毎に示すものです。学生が、有意義な学生生活を送るための動機付けを行い、本校の教育目標を達成して、的確な進路を見いだすことを支援するもので、教員の相互理解と協力のもとに計画・実施します。
- 色つき項目： キャリア教育支援室が計画実施する項目のうち、    は、クラス全員を対象とした企画、        は、希望者を対象とした企画です。
- 色無し項目： キャリア教育支援室以外で行う指導項目です。
- 3月に、キャリア教育支援プログラム策定会議を実施します。年間を通じて、キャリア教育支援室ミーティングを開催します。

学年	本 科					専 攻 科		学習習得確立 / 企業説明会 / 企業ツアー / OB・OG体験談の会
	1 年 生	2 年 生	3 年 生	4 年 生	5 年 生	1 年 生	2 年 生	
目標	高専生活の過ごし方についてのアドバイス等を参考にしつつ楽しく学ぶことができる	様々なアドバイスを踏まえつつ、将来の夢を擴くことができる	高専生活前半を振り返り、将来の目標を定めることができる	様々な情報を活用し、進路を具体的に自分で選択することができる	進路を確定させ、高専生活を総括し、次の段階に進むことができる	様々な情報を活用し、進路を具体的に自分で選択することができる	進路を確定させ、高専生活を総括し、次の段階に進むことができる	仕事の実態を知り、進路選択に活用することができる
到達目標	本人にとって、より良い生き方とはどのような生き方なのかを自分の言葉で説明できる	自分の将来像について大凡語る事が出来る	自分の希望進路について語る事が出来る	自分の進路実現に向けて自ら活動することができる	自分の進路を確定させ、次のステップにおける夢を語る事が出来る	自分の進路実現に向けて自ら活動することができる	自分の進路を確定させ、次のステップにおける夢を語る事が出来る	
4月	新入生オリエンテーション（教務・学生主事、各専門科、学生相談室）	オリエンテーション（教務・学生主事室、キャリア教育支援室） / クラス別HRにおける生活指導（担任）	オリエンテーション（教務・学生主事室、キャリア教育支援室） / クラス別HRにおける生活指導（担任）	オリエンテーション（教務・学生主事室、キャリア教育支援室） / クラス別HRにおける生活指導、インターンシップに関する説明（担任）	オリエンテーション（教務・学生主事室、キャリア教育支援室） / クラス別HRにおける生活指導（担任）	進路ガイダンス（専攻科）	進路ガイダンス（専攻科）	キャリア相談指定学習ルーム（ぶらす＋） / テクノ・リフレツによる企業説明会（外部講師講話・企業ツアー）（希望）
6月	(6/22) キャリアガイダンス①学習内容と卒業生の進路&キャリア入門（学科別）			(4/0) キャリアガイダンス / 就職活動・編入学受験の流れ / 就活・進路メンタル / 情報検索について / 求人票の見方（担任）	個人面接・支援室 / GD対策、履歴書添削日程（希望学生は個別に各担任・各キャリア）		個人面接・支援室 / GD対策、履歴書添削日程（希望学生は個別に各担任・各キャリア）	
7月		(7/6) キャリアガイダンス②キャリア入門Ⅰ（学科別）		(7/0) インターンシップ事前教育「コミュニケーション講習」		インターンシップ		
9月		総合実地演習（ME）・工場見学・現場見学（担任）	工場見学・現場見学（担任）	インターンシップ（希望者）				
10月		(10/5) キャリアガイダンス③キャリア入門Ⅱ（学科別）	(10/12) キャリア・ガイダンス⑤キャリアプランの作成Ⅰ（学科別）	インターンシップ報告会（担任・各学科）				
		(10/19) キャリアガイダンス④キャリア入門Ⅲ（学科別）						
11月	(11/9) 講話①「高専生活の過ごし方（5年生のアドバイス）」		(11/16) キャリアガイダンス⑥キャリアのプラン作成Ⅱ（学科別）					
	・キャリア・デー（12/15 「企業・自治体・大学研究会」（4年生全員・1・2・3年生希望者）・インターンシップ報告会（専攻科）・テクノ・リフレツ							
12月		(12/14) キャリアガイダンス⑦キャリアプランの作成Ⅲ（学科別）		を個人面接して下さい。各キャリア履歴書・ES添削バイザ等と日程を協議して下さい。				
	大学・大学院week（専攻科）				(12/0) 講話⑤「社会人準備講話」	大学・大学院week（専攻科）	(12/0) 講話⑤「社会人準備講話」	
1月	(1/11) 講話②「社会が求める人材」	(1/11) 講話②「Honda社会貢献活動としての講師派遣講話」	(1/18) 講話②「社会で活躍している卒業生の講話（学科別）」					
	キャリア・マイレージ申請期間			キャリア・マイレージ申請期間	キャリア・マイレージ申請期間	キャリア・マイレージ申請期間	キャリア・マイレージ申請期間	
2月	キャリア・マイレージ獲得期間			キャリア・マイレージ獲得期間	キャリア・マイレージ獲得期間	キャリア・マイレージ獲得期間	キャリア・マイレージ獲得期間	
3月			編入生オリエンテーション（教務主事室）					

## (12) 教育課程修了後の受験資格等について

### 機械電気工学科

資格又は試験の名称	付加される条件（卒業後）	備 考
ボイラー，タービン主任技術者（第1種）	卒業後実務経験含め8年以上	圧力 60Kg/cm <sup>2</sup> 以上の発電用ボイラー又は蒸気タービンの工事，維持又は運用に関する経験
ボイラー，タービン主任技術者（第2種）	卒業後実務経験含め4年以上	発電用ボイラー又は蒸気タービンの工事，維持又は運用の経験
機械設計技術者試験3級		学科が推奨する資格 在学中も受験可能
CAD利用技術者試験2級		学科が推奨する資格 在学中も受験可能

### 情報電子工学科

資格又は試験の名称	付加される条件（卒業後）	備 考
情報処理技術者 基本情報技術者 応用情報技術者 各種スペシャリスト		学科が推奨する資格 在学中も受験可能
電気通信工事担任者 第一級アナログ通信 第二級アナログ通信	電気通信技術の基礎 （電気工学，電子回路， 論理回路，電気通信） 及び端末接続技術	工事担任者試験科目のうち電気通信 技術の基礎科目免除
第一級デジタル通信 第二級デジタル通信	電気通信技術の基礎 データ通信の技術，データ伝送 方式の技術等	

### 土木建築工学科

資格又は試験の名称	付加される条件（卒業後）	備 考
測量士となる資格	測量に関する実務経験3年以上	
測量士補となる資格		卒業で登録申請
ダム水路主任技術者資格 （第1種）	実務経験（4年以上）を 含み卒業後6年以上	高さ15m以上のダムの工事，維持 または運用に関する経験
ダム水路主任技術者資格 （第2種）	実務経験（3年以上）	水力設備の工事，維持または運用
土木施工管理技士となる受験資格 （1級）	実務経験（5年以上）	
土木施工管理技士となる受験資格 （2級）	実務経験（2年以上）	
火薬類取扱保安責任者受験資格		試験科目の免除 （一般火薬学）
建築施工管理技術者試験		
建築士受験資格 （1級）	1. 実務経験（4年以上） *受験資格獲得に必要な科目 単位を取得した場合  2. 2級建築士資格取得後，実 務経験（4年以上）	実務とは建築に関する実務として国 土交通省令で定める設計・工事監理 に必要な知識・能力を得られる実務
建築士受験資格 （2級）	*受験資格獲得に必要な科目 単位を取得した場合	



# 科目配置一覧

- ・ シラバス一覧（2023年度科目配当一覧）
- ・ 科目系統図（学科ごと，創造系科目）
- ・ 科目系統図（一般科目\_各教科）
- ・ JABEE認定プログラム「設計情報工学」プログラム
- ・ 科目一覧表（入学年度別／学則別表）



(1) シラバス一覧

機械電気工学科

開講年度：令和05年度

学科到達目標

機械電気工学科では、所定の年限在籍し、所定の単位および以下に示す資質能力を修得した学生に対して、卒業を認定します。

<修得すべき資質能力（全学科共通）>

- ・基礎工学、自然科学、人文・社会科学および複合分野の基礎となる基本的素養を身につけるとともに、複合分野にわたる知識を有機的に結びつけて、本科では「発見した技術的課題を解決できる能力」を修得している。
- ・国際理解、技術者倫理など、世界のどこで活躍しようとも必要となる教養、感性と判断基準を持ち、意志の疎通を図るに十分な語学力・コミュニケーション能力を修得している。
- ・問題を見つけたために情報を収集・分析する力があり、自主的に自立してその問題の解決に取り組む意欲と実践力、その成果を人に伝えるために必要な表現力を修得している。
- ・問題に応じて知識を体系化して問題の解決方策を見つることができること、また、新しい情報を理解して、既存の知識と合わせて、独自の新しい情報を発信できる能力を修得している。

<修得すべき資質能力（機械電気工学科）>

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術者（メカトロニクス技術者）」として必要不可欠となる、機械工学・電気工学分野をコアとする幅広い知識と技術を活用した課題解決能力を修得している。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
機械電気工学科	本4年	共通	専門	校外実習Ⅰ	1	インターンシップ
機械電気工学科	本4年	共通	専門	校外実習Ⅱ	2	インターンシップ
機械電気工学科	本4年	学科	専門	電磁気学	2	片山 光亮
機械電気工学科	本4年	学科	専門	創造製作Ⅱ	2	片山 光亮
機械電気工学科	本5年	学科	専門	計算力学	1	福田 明
機械電気工学科	本5年	学科	専門	有限要素法	1	福田 明
機械電気工学科	本5年	学科	専門	技術者倫理	1	福田 明
機械電気工学科	本5年	学科	専門	計測工学	2	橋爪 善光
機械電気工学科	本5年	学科	専門	ベンチャービジネス論	1	鈴木 厚行

科目区分	学年	授 業 科 目	学修 単位	非開 講	留学 生	必修 選択	単位	週時間数		教官名
								前期	後期	
一般科目	1	国語ⅠA				必修	2	2	2	高槻
一般科目	1	国語ⅠB				必修	2	2	2	高槻
一般科目	1	政治・経済				必修	2	2	2	光田, 高橋
一般科目	1	歴史				必修	2	2	2	奥山
一般科目	1	数学ⅠA				必修	3	2	4	佐藤
一般科目	1	数学ⅠB				必修	3	4	2	伊藤
一般科目	1	物理基礎				必修	1	.	2	菊地
一般科目	1	ライフサイエンス・アースサイエンス				必修	2	4		天内
一般科目	1	化学基礎				必修	2	2	2	大橋
一般科目	1	体育				必修	2	2	2	(前期) 北, 宇野, 瀬尾 (後期) 北, 宇野, 瀬尾
一般科目	1	保健				必修	1		2	北
一般科目	1	基礎英語R				必修	2	2	2	倉増
一般科目	1	基礎英語W				必修	1	2		新枝
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	1	工作実習Ⅰ				必修	2	2	2	三浦
専門科目	1	機械の基礎				必修	1		2	池田光・張間
専門科目	1	技術発達史論				必修	1	2		鈴木・天内
専門科目	1	コンピュータ基礎				必修	1	2		飛車・三浦
専門科目	1	プログラミング基礎				必修	1		2	橋爪
専門科目	1	基礎設計製図Ⅰ				必修	2	2	2	張間・三浦
専門科目	1	創造演習Ⅰ				必修	1		2	藤本・三浦
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	2	国語総合Ⅱ				必修	2	2	2	谷本
一般科目	2	歴史				必修	2	2	2	奥山
一般科目	2	倫理				必修	2	2	2	高橋
一般科目	2	数学ⅡA				必修	3	4	2	山本
一般科目	2	数学ⅡB				必修	3	2	4	唐松
一般科目	2	物理Ⅰ				必修	2	2	2	中村
一般科目	2	化学Ⅰ				必修	1	2		大橋
一般科目	2	化学Ⅱ				必修	1		2	吉見

科目区分	学年	授 業 科 目	学修 単位	非開 講	留学 生	必修 選択	単位	週時間数		教官名
								前期	後期	
一般科目	2	体育				必修	2	2	2	(前期) 北、江崎、田中富 (後期) 北、江崎、田中富
一般科目	2	芸術（工芸・書道・美術・音楽）				必修	2	2	2	山本伸、山田、古川、佐古
一般科目	2	総合英語Ⅰ（R）				必修	2	2	2	上田
一般科目	2	総合英語Ⅰ（W）				必修	2	2	2	長戸
一般科目	2	英会話				必修	1	2		Darcey, Perry
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	2	工作実習Ⅱ				必修	2	2	2	藤本
専門科目	2	プログラミング基礎				必修	2	2	2	石田
専門科目	2	加工学				必修	1		2	福田
専門科目	2	基礎設計製図Ⅱ				必修	2	2	2	張間・三浦
専門科目	2	創造製作Ⅰ				必修	2	2	2	櫻本・藤本・鈴木・片山
専門科目	2	総合実地演習1				選択	(1)	通年（集中）		2年生担任
専門科目	2	総合実地演習2				選択	(2)	通年（集中）		2年生担任
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	3	国語総合Ⅱ				必修	2	2	2	谷本
一般科目	3	哲学				必修	2	2	2	高橋
一般科目	3	数学ⅢA				必修	2	2	2	伊藤
一般科目	3	数学ⅢB				必修	2	2	2	長廣
一般科目	3	物理Ⅱ				必修	2	2	2	中村
一般科目	3	体育				必修	2	2	2	(前期) 北、江崎、田中富 (後期) 北、江崎、田中富
一般科目	3	総合英語Ⅱ（R）				必修	2	2	2	東
一般科目	3	総合英語Ⅱ（W）				必修	1		2	新枝
一般科目	3	英会話				必修	1		2	Curt
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	3	工学実験Ⅰ				必修	1		2	石田・張間・鈴木・池田将
専門科目	3	電気回路Ⅰ				必修	1		2	藤本
専門科目	3	電子回路Ⅰ				必修	2	2	2	櫻本
専門科目	3	材料力学Ⅰ				必修	1		2	福田
専門科目	3	水力学Ⅰ				必修	1		2	張間
専門科目	3	知的財産権				必修	1		2	阿部・鈴木
専門科目	3	工業英語Ⅰ				必修	1		2	飛車、三浦
専門科目	3	プログラミング応用				必修	1	2		石田
専門科目	3	アクチュエータ				必修	1	2		藤本
専門科目	3	機構学				必修	1	2		池田光
専門科目	3	工業力学				必修	1	2		西村
専門科目	3	材料学Ⅰ				必修	2	2	2	西村
専門科目	3	設計製図Ⅰ				必修	1	2		池田光・張間
専門科目	3	創造演習Ⅱ				必修	1	2		鈴木・池田将・阿部
専門科目	3	コンピュータ制御				必修	2	2	2	石田・藤本・櫻本
専門科目	3	基礎電気電子工学			○	選択	2	2	2	石田
専門科目	3	基礎機械工学			○	選択	2	2	2	張間
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	4	微分積分学Ⅰ	*			必修	1	2		福田
一般科目	4	微分積分学Ⅱ	*			必修	1		2	飛車、三浦
一般科目	4	ベクトル解析	*			必修	1		2	飛車
一般科目	4	応用物理	*			必修	2	2	2	菊地
一般科目	4	体育				必修	2	2	2	(前期) 北、宇野、瀬尾 (後期) 北、宇野、瀬尾
一般科目	4	総合英語演習Ⅰ				必修	2	2	2	新枝
一般科目	4	英会話				必須	1		2	Darcy
一般科目	4	生物学	*			選択	1		2	天内
一般科目	4	物理化学	*			選択	1		2	菊地
一般科目	4	自然科学特講	*			選択	1		2	中村
一般科目	4	応用解析学概論	*			選択	3	2	4	山本
一般科目	4	日本語コミュニケーション				選択	1	2		高槻
一般科目	4	中国文学				選択	1	2	2	谷本
一般科目	4	人文社会特講				選択	1		2	高橋
一般科目	4	ドイツ語				選択	2	2	2	新枝
一般科目	4	中国語				選択	2	2	2	徳永
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	4	工学セミナー				必修	1		2	全員
専門科目	4	電磁気学	*			必修	2	2	2	片山
専門科目	4	熱力学	*			必修	2	2	2	池田光



科目区分	学年	授 業 科 目	学修 単位	非開 講	留学 生	必修 選択	単位	週時間数		教官名
								前期	後期	
専門科目	4	工学実験Ⅱ	*			必修	3	3	3	前期 (石田・張間・三浦・藤本・鈴木) 後期 (櫻本・西村・飛車・池田光・片山)
専門科目	4	関数論	*			必修	1	2		飛車
専門科目	4	確率・統計	*			必修	1	2		飛車
専門科目	4	電気回路Ⅱ	*			必修	1	2		櫻本
専門科目	4	電子回路Ⅱ	*			必修	1	2		鈴木
専門科目	4	制御工学Ⅰ	*			必修	1		2	池田将
専門科目	4	機械力学Ⅰ	*			必修	1		2	櫻本
専門科目	4	材料学Ⅱ	*			必修	1	2		西村
専門科目	4	材料力学Ⅱ	*			必修	2	2	2	福田
専門科目	4	水力学Ⅱ	*			必修	1	2		張間
専門科目	4	機械設計論Ⅰ	*			必修	2	2	2	西村
専門科目	4	設計製図Ⅱ	*			必修	1		2	池田光・張間・西村
専門科目	4	創造製作Ⅱ	*			必修	2	2	2	石田・池田将・片山
専門科目	4	校外実習1				選択	(1)	通年(集中)		4年生担任
専門科目	4	校外実習2				選択	(2)	通年(集中)		4年生担任
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	5	総合英語演習Ⅱ				必修	1	2		Curt
一般科目	5	歴史学				選択	1	2		奥山
一般科目	5	心理学				選択	1	2	2	未定
一般科目	5	人文社会特講				選択	1	2	2	上田
一般科目	5	ドイツ語				選択	1	2		新枝
一般科目	5	英語特別演習(英会話上級)				選択	1		2	Curt
一般科目	5	英語特別演習(英会話中級)				選択	1		2	
一般科目	5	英語特別演習(英会話中級)				選択	1		2	
一般科目	5	中国語				選択	1	2		徳永
一般科目	5	応用数物演習				選択	1	2		飛車
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	5	卒業研究				必修	8	6	10	全員
専門科目	5	技術者倫理	*			必修	1	2		福田
専門科目	5	工業英語Ⅱ	*			必修	1	2		飛車
専門科目	5	フーリエ変換	*			必修	1	2		飛車
専門科目	5	数値計算	*			必修	1		2	飛車
専門科目	5	制御工学Ⅱ	*			必修	2	2		池田将
専門科目	5	計測工学	*			必修	2	2	2	橋爪
専門科目	5	機械力学Ⅱ	*			必修	1	2		櫻本
専門科目	5	計算力学	*			必修	1	2		福田
専門科目	5	弾塑性論	*			必修	1	2		西村
専門科目	5	熱機関	*			必修	1	2		池田光
専門科目	5	機械設計論Ⅱ	*			必修	1		2	西村
専門科目	5	設計製図Ⅲ	*			必修	1	2		張間・西村
専門科目	5	環境リサイクル論	*			選択	1		2	池田光
専門科目	5	一般物理	*			選択	1		2	飛車
専門科目	5	機能材料	*			選択	1	2		西村
専門科目	5	ターボ機械	*			選択	1		2	張間
専門科目	5	伝熱工学	*			選択	1		2	池田光
専門科目	5	有限要素法	*			選択	1		2	福田
専門科目	5	流体力学	*			選択	1	2		張間
専門科目	5	ベンチャービジネス論	*			選択	1		2	鈴木
専門科目	5	特別講義Ⅰ				選択	1		2	非常勤
専門科目	5	特別講義Ⅱ				選択	1		2	石田
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		

# 情報電子工学科

開講年度：令和05年度

## 学科到達目標

情報電子工学科では、所定の年限在籍し、所定の単位および以下に示す資質能力を修得した学生に対して、卒業を認定します。

### <修得すべき資質能力（全学科共通）>

- ・基礎工学、自然科学、人文・社会科学および複合分野の基礎となる基本的素養を身につけるとともに、複合分野にわたる知識を有機的に結びつけて、本科では「発見した技術的課題を解決できる能力」を修得している。
- ・国際理解、技術者倫理など、世界のどこで活躍しようとも必要となる教養、感性と判断基準を持ち、意志の疎通を図るに十分な語学力・コミュニケーション能力を修得している。
- ・問題を見つけたすために情報を収集・分析する力があり、自主的に自立してその問題の解決に取り組む意欲と実践力、その成果を人に伝えるために必要な表現力を修得している。
- ・問題に応じて知識を体系化して問題の解決策を見つけることができること、また、新しい情報を理解して、既存の知識と合わせて、独自の新しい情報を発信できる能力を修得している。

### <修得すべき資質能力（情報電子工学科）>

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術者（情報電子技術者）」として必要不可欠となる、電子・情報・通信工学分野をコアとする幅広い知識と技術を活用した課題解決能力を修得している。

### 【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
情報電子工学科	本4年	共通	専門	校外実習Ⅰ	1	インターンシップ
情報電子工学科	本4年	共通	専門	校外実習Ⅱ	2	インターンシップ
情報電子工学科	本4年	学科	専門	創造演習	1	高山 泰博
情報電子工学科	本5年	学科	専門	創造製作	1	高山 泰博
情報電子工学科	本5年	学科	専門	言語処理	2	高山 泰博
情報電子工学科	本5年	学科	専門	システム数理工学	2	高山 泰博
情報電子工学科	本5年	学科	専門	特別講義	1	オムニバス

科目区分	学年	授 業 科 目	学修 単位	非開 講	留学 生	必修 選択	単位	週時間数		教官名
								前期	後期	
一般科目	1	国語ⅠA				必修	2	2	2	高槻
一般科目	1	国語ⅠB				必修	2	2	2	高槻
一般科目	1	政治・経済				必修	2	2	2	光田, 高橋
一般科目	1	歴史				必修	2	2	2	奥山
一般科目	1	数学ⅠA				必修	3	2	4	佐藤
一般科目	1	数学ⅠB				必修	3	4	2	伊藤
一般科目	1	物理基礎				必修	1		2	菊地
一般科目	1	ライフサイエンス・アースサイエンス				必修	2	4		天内
一般科目	1	化学基礎				必修	2	2	2	大橋
一般科目	1	体育				必修	2	2	2	(前期) 北, 宇野, 瀬尾 (後期) 北, 宇野, 瀬尾
一般科目	1	保健				必修	1		2	北
一般科目	1	基礎英語R				必修	2	2	2	倉増
一般科目	1	基礎英語W				必修	1	2		新枝
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	1	基礎電気回路				必修	2	2	2	原田
専門科目	1	基礎コンピュータ工学				必修	2	2	2	重村
専門科目	1	コンピュータの基礎知識				必修	1		2	力
専門科目	1	基礎プログラミングⅠ				必修	1	2		宮崎, 荻原
専門科目	1	基礎プログラミングⅡ				必修	1		2	宮崎, 荻原
専門科目	1	基礎プログラミング演習				必修	1		2	宮崎, 荻原
専門科目	1	コンピュータ演習				必修	1	2		室谷, 増井
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	2	国語総合Ⅱ				必修	2	2	2	谷本
一般科目	2	歴史				必修	2	2	2	奥山
一般科目	2	倫理				必修	2	2	2	高橋
一般科目	2	数学ⅡA				必修	3	4	2	山本
一般科目	2	数学ⅡB				必修	3	2	4	唐松
一般科目	2	物理Ⅰ				必修	2	2	2	中村
一般科目	2	化学Ⅰ				必修	1	2		大橋
一般科目	2	化学Ⅱ				必修	1		2	吉見
一般科目	2	体育				必修	2	2	2	(前期) 北, 江崎, 田中富 (後期) 北, 江崎, 田中富
一般科目	2	芸術（工芸・書道・美術・音楽）				必修	2	2	2	山本伸, 山田, 古川, 佐古
一般科目	2	総合英語Ⅰ（R）				必修	2	2	2	上田
一般科目	2	総合英語Ⅰ（W）				必修	2	2	2	長戸
一般科目	2	英会話				必修	1	2		Darcey, Perry

科目区分	学年	授 業 科 目	学修 単位	非開 講	留学 生	必修 選択	単位	週時間数		教官名
								前期	後期	
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	2	電気数学				必修	1		2	杉村
専門科目	2	集合と論理				必修	1		2	義永
専門科目	2	電気回路				必修	2	2	2	室谷
専門科目	2	コンピュータ工学				必修	2	2	2	浦上
専門科目	2	プログラミング				必修	2	2	2	力
専門科目	2	プログラミング言語				必修	1	2		高山
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	3	国語総合Ⅱ				必修	2	2	2	谷本
一般科目	3	哲学				必修	2	2	2	高橋
一般科目	3	数学ⅢA				必修	2	2	2	佐藤
一般科目	3	数学ⅢB				必修	2	2	2	義永
一般科目	3	物理Ⅱ				必修	2	2	2	中村
一般科目	3	体育				必修	2	2	2	(前期) 北、江崎、田中富 (後期) 北、江崎、田中富
一般科目	3	総合英語Ⅱ (R)				必修	2	2	2	東
一般科目	3	総合英語Ⅱ (W)				必修	1		2	新枝
一般科目	3	英会話				必修	1		2	Perry
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	3	電子工学実験				必修	4	4	4	杉村、原田、増井
専門科目	3	知的財産論				必修	1		2	高山
専門科目	3	情報数学				必修	2	2	2	義永
専門科目	3	確率				必修	1	2		義永
専門科目	3	計測工学				必修	2	2	2	室谷
専門科目	3	アナログ回路				必修	2	2	2	増井
専門科目	3	デジタル回路				必修	2	2	2	新田
専門科目	3	コンピュータシステム概論				必修	1	2		力
専門科目	3	アルゴリズムとデータ構造				必修	2	2	2	浦上
専門科目	3	システムプログラミングⅠ				必修	1		2	高山
専門科目	3	ハードウェア演習			○	必修	2	2	2	重村
専門科目	3	ソフトウェア演習			○	必修	2	2	2	荻原
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	4	微分積分Ⅰ	*			必修	1	2		伊藤
一般科目	4	微分積分Ⅱ	*			必修	1		2	伊藤
一般科目	4	ベクトル解析	*			必修	1	2		杉村
一般科目	4	応用物理	*			必修	2	2	2	菊地
一般科目	4	体育				必修	2	2	2	(前期) 北、宇野、瀬尾 (後期) 北、宇野、瀬尾
一般科目	4	総合英語演習Ⅰ				必修	2	2	2	新枝
一般科目	4	英会話				必須	1	2		Perry
一般科目	4	生物学	*			選択	1		2	天内
一般科目	4	物理化学	*			選択	1		2	菊地
一般科目	4	自然科学特講	*			選択	1		2	中村
一般科目	4	応用解析学概論	*			選択	3	2	4	山本
一般科目	4	日本語コミュニケーション				選択	1	2		高槻
一般科目	4	中国文学				選択	1	2	2	谷本
一般科目	4	人文社会特講				選択	1	2	2	高橋
一般科目	4	ドイツ語				選択	2	2	2	新枝
一般科目	4	中国語				選択	2	2	2	徳永
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	4	コンピュータシステム実験	*			必修	4	4	4	新田、柳澤
専門科目	4	創造演習	*			必修	1		2	高山、浦上、荻原
専門科目	4	フーリエ・ラプラス変換	*			必修	1	2		室谷
専門科目	4	統計学	*			必修	1		2	宮崎
専門科目	4	情報理論	*			必修	2	2		宮崎
専門科目	4	電磁気学	*			必修	2	2	2	杉村
専門科目	4	情報システムと技術者倫理	*			必修	1		2	新田
専門科目	4	情報通信工学	*			必修	2		2	原田徳
専門科目	4	デジタル回路応用	*			必修	1	2		新田
専門科目	4	システムプログラミングⅡ	*			必修	1	2		重村
専門科目	4	コンピュータアーキテクチャ	*			必修	2	2	2	柳澤
専門科目	4	ソフトウェア工学	*			必修	2		2	荻原
専門科目	4	データベース	*			必修	2	2		義永
専門科目	4	オペレーティングシステムⅠ	*			必修	1		2	重村
専門科目	4	工学セミナー				必修	1		2	全員

科目区分	学年	授 業 科 目	学修 単位	非開 講	留学 生	必修 選択	単位	週時間数		教官名
								前期	後期	
専門科目	4	校外実習 1				選択	(1)	通年(集中)		4年生担任
専門科目	4	校外実習 2				選択	(2)	通年(集中)		4年生担任
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	5	総合英語演習Ⅱ				必修	1	2		Curt
一般科目	5	歴史学				選択	1	2		奥山
一般科目	5	心理学				選択	1	2	2	未定
一般科目	5	人文社会特講				選択	1	2	2	上田
一般科目	5	ドイツ語				選択	1	2		新枝
一般科目	5	英語特別演習(英会話上級)				選択	1		2	Curt
一般科目	5	英語特別演習(英会話中級)				選択	1		2	
一般科目	5	英語特別演習(英会話中級)				選択	1		2	
一般科目	5	中国語				選択	1	2		徳永
一般科目	5	応用数物演習				選択	1	2		飛車
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	5	創造製作	*			必修	1	2		高山、浦上、増井、荻原
専門科目	5	電子情報通信システム実験	*			必修	2	4		原田、浦上
専門科目	5	卒業研究				必修	10	10	20	全員
専門科目	5	デジタル信号処理	*			必修	1	2		宮崎
専門科目	5	数値解析	*			必修	1		2	義永
専門科目	5	オペレーティングシステムⅡ	*			必修	1	2		重村
専門科目	5	ネットワークアーキテクチャ	*			必修	2	2		新田
専門科目	5	英語講読	*			必修	2	2	2	全員
専門科目	5	特別講義				必修	1		2	非常勤
専門科目	5	集積回路設計Ⅰ	*			選択	2	2		柳澤
専門科目	5	集積回路設計Ⅱ	*			選択	1		2	柳澤
専門科目	5	画像工学	*			選択	2	2		杉村
専門科目	5	言語処理	*			選択	2	2		高山
専門科目	5	オブジェクト指向プログラミング	*			選択	1		2	重村
専門科目	5	コンピュータグラフィックス	*			選択	2	2		力
専門科目	5	知的情報処理	*			選択	2		2	力
専門科目	5	システム数理工学	*			選択	2		2	高山
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		

## 土木建築工学科

開講年度：令和05年度

## 学科到達目標

土木建築工学科では、所定の年限在籍し、所定の単位および以下に示す資質能力を修得した学生に対して、卒業を認定します。

## &lt;修得すべき資質能力（全学科共通）&gt;

- ・基礎工学、自然科学、人文・社会科学および複合分野の基礎となる基本的素養を身につけるとともに、複合分野にわたる知識を有機的に結びつけて、本科では「発見した技術的課題を解決できる能力」を修得している。
- ・国際理解、技術者倫理など、世界のどこで活躍しようとも必要となる教養、感性と判断基準を持ち、意志の疎通を図るに十分な語学力・コミュニケーション能力を修得している。
- ・問題を見つけたために情報を収集・分析する力があり、自主的に自立してその問題の解決に取り組み意欲と実践力、その成果を人に伝えるために必要な表現力を修得している。
- ・問題に応じて知識を体系化して問題の解決方策を見つめることができること、また、新しい情報を理解して、既存の知識と合わせて、独自の新しい情報を発信できる能力を修得している。

## &lt;修得すべき資質能力（土木建築工学科）&gt;

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術者（社会環境整備技術者）」として必要不可欠となる、土木工学・建築学分野をコアとする幅広い知識と技術を活用した課題解決能力を修得している。

## 【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
土木建築工学科	本4年	共通	専門	校外実習Ⅰ	1	インターンシップ
土木建築工学科	本4年	共通	専門	校外実習Ⅱ	2	インターンシップ
土木建築工学科	本4年	学科	専門	道路工学Ⅰ	1	目山 直樹
土木建築工学科	本4年	学科	専門	都市計画	2	目山 直樹
土木建築工学科	本4年	学科	専門	建築環境工学	1	河野 拓也
土木建築工学科	本4年	学科	専門	建築環境工学演習	1	河野 拓也
土木建築工学科	本4年	学科	専門	工学デザインⅠ（建築系）	2	古田 健一
土木建築工学科	本4年	学科	専門	創造演習	1	古田 健一
土木建築工学科	本4年	学科	専門	鉄筋コンクリート工学	2	温品 達也
土木建築工学科	本5年	学科	専門	技術者倫理	1	目山 直樹
土木建築工学科	本5年	学科	専門	創造演習	1	古田 健一
土木建築工学科	本5年	学科	専門	建築法規	1	河野 拓也
土木建築工学科	本5年	学科	専門	工学デザインⅡ（建築系）	2	古田 健一
土木建築工学科	本5年	学科	専門	建築構造設計	2	古田 健一
土木建築工学科	本5年	学科	専門	建設先端材料	1	温品 達也
土木建築工学科	本5年	学科	専門	建設マネジメント	1	温品 達也
土木建築工学科	本5年	学科	専門	プレストレストコンクリート工学	1	温品 達也

科目区分	学年	授 業 科 目	学修 単位	非開 講	留 学 生	必修 選択	単 位	週時間数		教官名
								前期	後期	
一般科目	1	国語ⅠA				必修	2	2	2	高槻
一般科目	1	国語ⅠB				必修	2	2	2	高槻
一般科目	1	政治・経済				必修	2	2	2	光田, 高橋
一般科目	1	歴史				必修	2	2	2	奥山
一般科目	1	数学ⅠA				必修	3	2	4	佐藤
一般科目	1	数学ⅠB				必修	3	4	2	伊藤
一般科目	1	物理基礎				必修	1		2	菊地
一般科目	1	ライフサイエンス・アースサイエンス				必修	2	4		天内
一般科目	1	化学基礎				必修	2	2	2	大橋
一般科目	1	体育				必修	2	2	2	(前期) 北, 宇野, 瀬尾 (後期) 北, 宇野, 瀬尾
一般科目	1	保健				必修	1		2	北
一般科目	1	基礎英語R				必修	2	2	2	倉増
一般科目	1	基礎英語W				必修	1	2		新枝
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	1	工学デザイン基礎Ⅰ				必修	2	2	2	(前期) 目山・河野 (後期) 目山・中川・江本・河野
専門科目	1	力と変形				必修	1	2		海田・未定・島袋
専門科目	1	建設材料				必修	1		2	島袋
専門科目	1	建築デザイン概論				必修	1	2		古田・目山・中川・江本・河野
専門科目	1	情報処理				必修	2	2	2	(前期) 桑嶋・荒木 (後期) 江本
専門科目	1	測量学Ⅰ				必修	2	2	2	段下
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	2	国語総合Ⅱ				必修	2	2	2	谷本
一般科目	2	歴史				必修	2	2	2	奥山

科目区分	学年	授 業 科 目	学修 単位	非開 講	留学 生	必修 選択	単位	週時間数		教官名
								前期	後期	
一般科目	2	倫理				必修	2	2	2	高橋
一般科目	2	数学ⅡA				必修	3	4	2	山本
一般科目	2	数学ⅡB				必修	3	2	4	唐松
一般科目	2	物理Ⅰ				必修	2	2	2	中村
一般科目	2	化学Ⅰ				必修	1	2		大橋
一般科目	2	化学Ⅱ				必修	1		2	吉見
一般科目	2	体育				必修	2	2	2	(前期)北、江崎、田中富 (後期)北、江崎、田中富
一般科目	2	芸術				必修	2	2	2	山本伸、山田、古川、佐古
一般科目	2	総合英語Ⅰ(R)				必修	2	2	2	上田
一般科目	2	総合英語Ⅰ(W)				必修	2	2	2	長戸
一般科目	2	英会話				必修	1	2		Darcey, Perry
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	2	測量実習				必修	2	2	2	渡辺・温品・段下・荒木・宇根, 未定
専門科目	2	工学デザイン基礎Ⅱ				必修	2	2	2	(前期)江本・中川 (後期)古田・江本・目山・中川・河野
専門科目	2	構造力学基礎				必修	2	2	2	(前期)海田, (後期)島袋
専門科目	2	情報処理				必修	1		2	中川・江本
専門科目	2	測量学Ⅱ				必修	2	2	2	上
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	3	国語総合Ⅱ				必修	2	2	2	谷本
一般科目	3	哲学				必修	2	2	2	高橋
一般科目	3	数学ⅢA				必修	2	2	2	佐藤
一般科目	3	数学ⅢB				必修	2	2	2	長廣
一般科目	3	物理Ⅱ				必修	2	2	2	中村
一般科目	3	体育				必修	2	2	2	(前期)北、江崎、田中富 (後期)北、江崎、田中富
一般科目	3	総合英語Ⅱ(R)				必修	2	2	2	東
一般科目	3	総合英語Ⅱ(W)				必修	1		2	新枝
一般科目	3	英会話				必修	1		2	Darcy
一般科目	3	日本語			○			4	4	山尾
一般科目	3	日本事情			○			2	2	山尾
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	3	測量実習				必修	2	4		渡辺・段下・荒木
専門科目	3	工学デザイン基礎Ⅲ				必修	2	2	2	(前期)目山・中川・洞崎・河野 (後期)目山・中川・洞崎・河野
専門科目	3	基礎工学実験				必修	2	4	2	島袋・温品・桑嶋・山根・海田・未定 ・荒木・段下(後期)
専門科目	3	構造力学基礎				必修	3	2	4	島袋
専門科目	3	建築一般構造				必修	1		2	海田 未定
専門科目	3	地盤工学基礎				必修	2	2	2	荒木
専門科目	3	水理学基礎				必修	2	2	2	宇根
専門科目	3	建築計画Ⅰ				必修	2	2	2	江本
専門科目	3	情報処理				必修	2	2	2	渡辺・島袋
専門科目	3	CAD基礎				必修	1	2		島袋・宇根, 未定
専門科目	3	特別測量実習			○	必修	2	2	2	渡辺・温品・段下・荒木・宇根
専門科目	3	特別測量学			○	必修	2	2	2	段下(前期), 桑嶋(後期)
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	4	微分積分学Ⅰ	*			必修	1	2		島袋
一般科目	4	微分積分学Ⅱ	*			必修	1		2	島袋
一般科目	4	応用物理	*			必修	2	2	2	菊地
一般科目	4	体育				必修	2	2	2	(前期)北, 宇野, 瀨尾 (後期)北, 宇野, 瀨尾
一般科目	4	総合英語演習Ⅰ				必修	2	2	2	田中数
一般科目	4	英会話				必須	1	2		Curt
一般科目	4	生物学	*			選択	1		2	天内
一般科目	4	物理化学	*			選択	1		2	菊地
一般科目	4	自然科学特講	*			選択	1		2	中村
一般科目	4	応用解析学概論	*			選択	3	2	4	山本
一般科目	4	日本語コミュニケーション				選択	1	2		高槻
一般科目	4	中国文学				選択	1	2	2	谷本
一般科目	4	人文社会特講				選択	1	2	2	高橋
一般科目	4	ドイツ語				選択	2	2	2	新枝
一般科目	4	中国語				選択	2	2	2	徳永
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		

科目区分	学年	授 業 科 目	学修 単位	非開 講	留学 生	必修 選択	単位	週時間数		教官名
								前期	後期	
専門科目	4	工学デザインⅠ	*			必修	2	2	2	(前期) 古田・中川・島袋 (後期) 古田・中川・桑嶋・荒木
専門科目	4	創造演習	*			必修	1	2		(空間デザイン系) 古田・石丸・江本・河野 (構造デザイン系) 海田・段下・未定
専門科目	4	工学実験Ⅰ	*			必修	1		2	未定・宇根・渡辺・桑嶋・中川・荒木
専門科目	4	構造力学	*			必修	2	2	2	(前期) 海田 (後期) 未定
専門科目	4	鉄筋コンクリート工学				必修	2	2	2	温品
専門科目	4	鋼構造学Ⅰ				必修	1		2	海田
専門科目	4	地盤工学				必修	2	2	2	桑嶋
専門科目	4	都市計画				必修	2	2	2	目山
専門科目	4	CAD応用				必修	1		2	江本・島袋
専門科目	4	確率・統計	*			必修	1		2	段下
専門科目	4	測量学Ⅲ	*			必修	1		2	上
専門科目	4	道路工学Ⅰ				選択	1	2		目山
専門科目	4	水理学				選択	2	2	2	渡辺
専門科目	4	河海工学Ⅰ	*			選択	1		2	渡辺
専門科目	4	環境衛生工学	*			選択	1	2		段下
専門科目	4	建築材料	*			選択	1		2	島袋
専門科目	4	建築計画Ⅱ	*			選択	2	2	2	江本
専門科目	4	建築環境工学	*			選択	1	2		河野
専門科目	4	建築環境工学演習	*			選択	1		2	河野
専門科目	4	建築施工法	*			選択	1	2		目山
専門科目	4	工学セミナー				選択	1	2		CA教員全員
専門科目	4	校外実習1				選択	1	通年(集中)		担任
専門科目	4	校外実習2				選択	2	通年(集中)		担任
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		
一般科目	5	線形代数				必修	1	2		宇根
一般科目	5	総合英語演習Ⅱ				必修	1	2		Curt
一般科目	5	歴史学				選択	1	2		奥山
一般科目	5	心理学				選択	1	2	2	未定
一般科目	5	人文社会特講				選択	1	2	2	上田
一般科目	5	ドイツ語				選択	1	2		新枝
一般科目	5	英語特別演習(英会話上級)				選択	1		2	Curt
一般科目	5	英語特別演習(英会話中級)				選択	1		2	
一般科目	5	英語特別演習(英会話中級)				選択	1		2	
一般科目	5	中国語				選択	1	2		徳永
一般科目	5	応用数物演習				選択	1	2		飛車
一般科目	全	語学研修				選択	2	集中		
専門科目	5	技術者倫理	*			必修	1		2	目山・河村 ほか
専門科目	5	工学デザインⅡ	*			必修	2	2	2	原・古田
専門科目	5	創造演習	*			必修	1	2		(空間デザイン系) 古田・石丸・江本・河野 (構造デザイン系) 海田・段下・未定
専門科目	5	工学実験Ⅱ	*			必修	1	2		渡辺・宇根・段下・目山・池田光・江本・中川
専門科目	5	卒業研究				必修	8	8	8	全員
専門科目	5	建築構造設計	*			必修	2	2		古田, 未定
専門科目	5	基礎構造学	*			必修	1	2		桑嶋
専門科目	5	建設先端材料	*			必修	1		2	温品
専門科目	5	建設マネジメント	*			必修	1		2	温品
専門科目	5	測量学特論				必修	1	2		佐賀
専門科目	5	プレストレストコンクリート工学				選択	1	2		温品
専門科目	5	鋼構造学Ⅱ	*			選択	1	2		海田
専門科目	5	鋼構造学Ⅲ	*			選択	1		2	海田
専門科目	5	振動工学				選択	1		2	海田
専門科目	5	道路工学Ⅱ	*			選択	1		2	荒木
専門科目	5	河海工学Ⅱ	*			選択	1	2		渡辺
専門科目	5	火薬学	*			選択	1	2		大石
専門科目	5	日本建築史	*			選択	1	2		中川
専門科目	5	近代建築史	*			選択	1		2	中川
専門科目	5	建築設備	*			選択	2	2	2	清田・河野
専門科目	5	土木法規	*			選択	1		2	渡辺
専門科目	5	建築法規	*			選択	1		2	河野
専門科目	5	土木施工法	*			選択	1		2	桑嶋
専門科目	5	応用プログラミング	*			選択	1		2	桑嶋
専門科目	5	特別講義				選択	1		2	目山
専門科目	全	海外研修				選択	2	集中		

# 専攻科

開講年度：令和05年度

## 到達目標

### <修得すべき資質能力（全学科共通）>

- ・基礎工学、自然科学、人文・社会科学および複合分野の基礎となる基本的素養を身につけるとともに、複合分野にわたる知識を有機的に結びつけて、専攻科では「新たなものを設計・開発できる能力」を修得している。
- ・国際理解、技術者倫理など、世界のどこで活躍しようとも必要となる教養、感性と判断基準を持ち、意志の疎通を図るに十分な語学力・コミュニケーション能力を修得している。
- ・問題を見つけだすために情報を収集・分析する力があり、自主的に自立してその問題の解決に取り組む意欲と実践力、その成果を人に伝えるために必要な表現力を修得している。
- ・問題に応じて知識を体系化して問題の解決方策を見つけないことができること、また、新しい情報を理解して、既存の知識と合わせて、独自の新しい情報を発信できる能力を修得している。

## 機械制御工学専攻

### 到達目標

#### <修得すべき資質能力（機械制御工学専攻）>

「コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術者（メカトロニクス技術者）」として必要不可欠となる、機械工学・電気工学分野をコアとする幅広い知識と技術を活用した課題解決能力を本科で修得している。専攻科ではさらに設計・開発を行う応用能力を修得している。

#### 【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
機械制御工学専攻	専2年	学科	専門	CAE	2	福田 明
機械制御工学専攻	専1年	学科	専門	応用電磁気学	2	片山 光亮
機械制御工学専攻	専2年	学科	専門	応用電磁気学	2	片山 光亮
機械制御工学専攻	専1年	共通	専門	インターンシップ	6	インターンシップ
機械制御工学専攻	専1年	共通	一般	産業論	2	オムニバス
機械制御工学専攻	専2年	共通	一般	安全工学概論	2	オムニバス

## 情報電子工学専攻

### 到達目標

#### <修得すべき資質能力（情報電子工学専攻）>

「コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術者（情報電子技術者）」として必要不可欠となる、電子・情報・通信工学分野をコアとする幅広い知識と技術を活用した課題解決能力を本科で修得している。専攻科ではさらに設計・開発を行う能力を修得している。

#### 【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
情報電子工学専攻	専1年	共通	専門	インターンシップ	6	インターンシップ
情報電子工学専攻	専1年	共通	一般	産業論	2	オムニバス
情報電子工学専攻	専2年	学科	専門	自然言語処理	2	高山 泰博
情報電子工学専攻	専2年	共通	一般	安全工学概論	2	オムニバス

## 環境建設工学専攻

### 到達目標

#### <修得すべき資質能力（環境建設工学専攻）>

「情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術者（社会環境整備技術者）」として必要不可欠となる、土木工学・建築学分野をコアとする幅広い知識と技術を活用した課題解決能力を本科で修得している。専攻科ではさらに設計・開発を行う能力を修得している。

#### 【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
環境建設工学専攻	専1年	共通	専門	インターンシップ	6	インターンシップ
環境建設工学専攻	専1年	共通	一般	産業論	2	オムニバス
環境建設工学専攻	専1年	学科	専門	構造設計論	2	古田 健一
環境建設工学専攻	専2年	学科	一般	安全工学概論	2	オムニバス
環境建設工学専攻	専2年	学科	専門	鉄筋コンクリート特論	2	温品 達也
環境建設工学専攻	専2年	学科	専門	建築設計計画学	2	古田 健一
環境建設工学専攻	専2年	学科	専門	環境建設工学専攻総合演習（建築系）	2	古田 健一
環境建設工学専攻	専2年	学科	専門	環境建設工学専攻総合演習（土木系）	2	温品 達也



学科	開講年次		総合科目	授業科目	必修選択	単位	開講時期			週時間数	教官名
	1	2					通年	前期	後期		
全	1			日本語表現法	必修	2			2	2	高槻
全	1			総合英語	必修	2			2	2	Curt
全	1			産業論	必修	2		12		12	浦上、奥山他
全	1			経営管理	必修	2			2	2	川瀬
全	1			一般化学	必修	2			2	2	大橋
全	1			物理科学	必修	2			2	2	菊地
全	1			英語講読	必修	2	1			1	特別研究担当教員
全	1			応用統計学	選択	2			2	2	飛車
全	1			情報論理学	選択	2			2	2	力
全	1			工学解析	選択	2		2		2	原
全		2		技術者の倫理	必修	2		2		2	高橋
全		2		国際比較文化論	必修	2			2	2	奥山
全		2		科学英語表現法	必修	2			2	2	Curt
全		2		経営工学	選択	2			2	2	岩本(呉)、狭間(宇部)、未定(徳山)、永岩(広島商船)
全		2		英会話	選択	2		2		2	Curt
全		2		安全工学概論	必修	2			2	2	浦上他(天内1コマ、高橋1コマ)
全		2		生命科学	必修	2			2	2	天内
全		2		離散数学	選択	2		2		2	義永
全		2		Engineering Mathematics	選択	2		2		2	飛車

学科	開講年次		総合科目	授業科目	必修選択	単位	開講時期			週時間数	教官名
	1	2					通年	前期	後期		
MC	1			インターンシップ	必修	6	6				
MC	1			機械制御工学専攻総合実験	必修	2			4	4	櫻本・西村・池田光・張間・福田・三浦・鈴木・池田将・橋爪
MC	1			コンピュータ総合演習	必修	2			4	4	池田光・池田将
MC	1			応用研究	必修	2	2			2	応用研究担当
MC	1			弾性力学	選択	2			2	2	福田
MC	1			流体制御工学	選択	2			2	2	張間
MC	1			応用計測工学	選択	2			2	2	橋爪
MC	1			回路応用設計	選択	2			2	2	石田
MC	1	0		応用電磁気学	選択	2			(2)	2	片山
MC	1	0		情報工学特論	選択	2			(2)	2	橋爪
MC	1	0		電気音響工学	選択	2			2	2	鈴木
MC	1	0		電気電子工学特論	選択	2			2	2	三浦
MC		2		機械制御工学専攻総合演習	必修	2	2			2	池田光
MC		2		特別研究	必修	6	8	(4)	(8)	8	特別研究担当
MC		2		材料強度学	選択	2		2		2	西村
MC		2		生体機械力学	選択	2		2		2	櫻本
MC		2	○	材料設計工学	選択	2			2	2	西村
MC		2	○	熱流体工学	選択	2		2		2	池田光
MC		2	○	CAE	選択	2		2		2	福田
MC	0	2		応用電磁気学	選択	2			(2)	2	片山
MC	0	2		情報工学特論	選択	2			(2)	2	橋爪
MC	0	2		電気音響工学	選択	2			2	2	鈴木
MC	0	2		電気電子工学特論	選択	2			2	2	三浦
MC		2		システム制御工学	選択	2		2		2	池田将
MC		2	○	システム設計工学	選択	2			2	2	池田将
MC		2	○	ロボット制御工学	選択	2			2	2	池田将
MC		2		半導体電子工学	選択	2		2		2	室谷

学科	開講年次		総合科目	授業科目	必修選択	単位	開講時期			週時間数	教官名
	1	2					通年	前期	後期		
CE	1			インターンシップ	必修	6	6			6	
CE	1			情報電子工学専攻総合実験	必修	2		4		4	重村
CE	1			論理設計	必修	2			2	2	柳澤
CE	1			応用研究	必修	2	2			2	
CE	1			オートマトンと計算論	選択	2			2	2	義永
CE	1			生体情報工学	選択	2			2	2	西井
CE	1			システム計測工学	選択	2			2	2	杉村
CE	1			フィードバック制御概論	選択	2		2		2	増井
CE		2		情報電子工学専攻総合演習	必修	2	2			2	重村
CE		2		特別研究	必修	6	6			2	
CE		2	○	自然言語処理	選択	2		2		2	高山
CE		2		分散システム概論	選択	2			2	2	浦上
CE		2		通信ネットワーク工学	選択	2			2	2	原田徳
CE		2	○	コンピュータネットワークプロトコル	選択	2			2	2	新田
CE		2		光情報処理	選択	2		2		2	原田徳
CE		2	○	コンピュータ構成学	選択	2		2		2	柳澤
CE		2		半導体電子工学	選択	2		2		2	室谷
CE		2	○	メディア信号処理	選択	2		2		2	宮崎
CE		2		システム制御工学	選択	2		2		2	池田将

学科	開講年次		総合科目	授業科目	必修選択	単位	開講時期			週時間数	教官名
	1	2					通年	前期	後期		
EC	1			インターンシップ	必修	6	6			6	
EC	1			環境建設工学専攻総合実験	必修	2			4	4	古田・中川・海田・温品
EC	1			建設プログラミング	必修	2			2	2	島袋
EC	1			応用研究	必修	2					
EC	1			鉄筋コンクリート特論	選択	2		2		2	温品
EC	1			構造設計論	選択	2			2	2	古田
EC	1			維持管理工学	選択	2			2	2	温品・海田
EC	1			建築生産論	選択	2			2	2	目山
EC	1			水理科学	選択	2			2	2	佐賀
EC	1		○	住宅計画学	選択	2			2	2	目山
EC		2		環境建設工学専攻総合演習	必修	2	4			4	古田・中川・海田・未定・温品
EC		2		特別研究	必修	6	6			6	
EC		2	○	耐震工学	選択	2			2	2	山根
EC		2		計算工学	選択	2		2		2	原
EC		2		土質力学	選択	2		2		2	荒木
EC		2	○	耐震基礎構造学	選択	2			2	2	桑嶋
EC		2		応用水理学	選択	2		2		2	渡辺
EC		2	○	環境システム工学	選択	2			2	2	段下
EC		2	○	都市環境計画学	選択	2		2		2	江本
EC		2	○	建築設計計画学	選択	2			2	2	古田

(2) 科目系統図

令和4年度以前の系統図はHPへ



令和5年度本科入学生 メカトロ技術（機械電気工学科／機械制御工学専攻）カリキュラム系統図

学習・教育目標	JABEE 要求基準	本 科										専 攻 科								
		1年		2年		3年		4年		5年		1年		2年						
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
A1 複合分野の基礎となる基本的素養	数 学 (c-1)	数学IA	数学IB	数学IIA	数学IIB	数学IIIA	数学IIIB	微分積分I (c-1)	微分積分II (c-1)									工学解析 (c-1)	Engineering Mathematics (c-1)	
		物理学基礎	化学基礎	物理I	化学I	物理II	化学II	自然科学特講 (c-2)	物理学 (c-2)			フーリエ変換 (c-1)	一般物理 (c-2)					応用数学演習 (c-1)	情報論理学 (c-1)	
		ライオン・アース・サイエンス						生物学 (c-2)												
		基礎工学 ①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力学系 ⑤社会技術系			電気の基礎	電子回路I	モータ制御	電気回路I	電子回路II (d-1)*②	制御工学I (d-1)*①	電磁気学 (d-1)*④	機構学 (c-1)*③	材料学II (d-1)*③	機械力学I (d-1)*④	応用物理 (d-1)*④	機構設計II (d-1)*⑤	機械力学II (d-1)*④	環境リサイクル (d-1)*⑤	情報工学特講 (d-1)*② 隔年開講	システム制御工学 (d-1)*① 情報工学特講 (d-1)*② 隔年開講
A2 国際理解とコミュニケーション能力を養う	地球の視点で考える能力 (a)	歴史	政治・経済	歴史																
		技術者倫理 (b)		倫理		哲学														
		国語総合I	基礎英語	国語総合II	総合英語I	国語総合II	総合英語II	日本語コミュニケーション(I)	日本語コミュニケーション(II)	総合英語演習I (f)	英会話 (f)	ドイツ語 (f)	中国語 (f)	総合英語 (f)	英語特別演習 (f)	工業英語II (f)	ドイツ語 (f)	中国語 (f)	◎日本語表現法 (f)	◎国際比較文化論(a)
		総合	体育	体育	英会話	工業英語I														
B1 情報技術をベースに、実体験を通して表現力を身につけること	情報技術 (c-3)	コンピュータ基礎	プログラミング基礎	プログラミング応用				設計製図II (c-3)						設計製図III (c-3)	数値計算 (c-3)	有原要素法 (c-3)				
		実験 (d-2)	基礎設計製図I	基礎設計製図II	設計製図I	工学実験I		工学実験II (d-2)												
		チームワーク (i)	工作実習I	工作実習II																
B2 自主性・継続性・自立性	専門工学 (d-1)					材料力学I	電気回路II (d-1)	機械設計論I (d-1)	計測工学 (d-1)	制御工学II (d-1)										
						水力学	材料力学II (d-1)	弾塑性論 (d-1)	人工知能 (d-1)	流体工学 (d-1)	熱力学I (d-1)	熱力学II (d-1)	通信工学 (d-1)	データ解析 (d-1)	流体機械 (d-1)	伝熱工学 (d-1)				
C1 複合分野の設計能力	問題発見解決能力 (d-3)	課題発見解決プロジェクトI	課題発見解決プロジェクトII																	
		デザイン能力 (e)																		
		実務能力 (d-4)	創造演習I	総合実地演習1	総合実地演習2	創造演習II	知的財産権	校外実習1 (d-4)	校外実習2 (d-4)											
C2 課題の把握と解決能力	先達能力 (h)																			

令和4年度以前の系統図はH Pへ



令和5年度本科入学生 情報電子技術 (情報電子工学科/情報電子工学専攻) カリキュラム系統図

学習・教育目標	JABEE 要求基準	本 科										専 攻 科					
		1年		2年		3年		4年		5年		1年		2年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
A1 複合分野の基礎となる基本的素養	数 学 (c-1)	数学IA	数学IIA	数学IIIA	微分積分学I (c-1)	微分積分学II (c-1)										工学解析 (c-1)	Engineering Mathematics (c-1)
		数学IB	数学IIB	数学IIIB	応用解析学概論 (c-1)	ベクトル解析 (c-1)	統計学 (c-1)						工学統計学 (c-1)				離散数学 (c-1)
			集合と論理	情報数学	ベクトル解析 (c-1)	統計学 (c-1)											
自然科学 (c-2)	物理基礎	物理I	物理II	科学史 (c-2)	物理学 (c-2)							物理科学 (c-2)					
	化学基礎	化学I	化学II	物理化学 (c-2)	自然科学概論 (c-2)							一般化学 (c-2)					
	保健			生物 (c-2)													生命科学 (c-2)
基礎工学 ①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力学系 ⑤社会技術系	基礎電気回路	電気回路	計測工学	コンピュータアーキテクチャ (d-1)*①	情報理論 (d-1)*②	電磁気学 (d-1)*④						言語処理 (d-1)*②	システム整理工学(d-1)*②				
			アナログ回路	情報科学概論 (d-1)*⑤													
			ディジタル回路	情報科学概論 (d-1)*⑤													
A2 国際理解とコミュニケーション能力を養う	歴史	歴史		人文社会特講(a)	人文社会特講(a)	中国文学(a)	中国文学(a)					歴史学(a)					国際比較文化論(a)
	政治・経済			中国文学(a)	中国文学(a)							心理学(b)	心理学(b)				
B1 情報技術をベースに、実践を通して表現力をもつこと	情報技術 (c-3)	プログラミング	プログラミング	システムプログラミングI	システムプログラミングII							知的情報処理 (c-3)					
	実験 (d-2)			電子工学実験	コンピュータシステム実験 (d-2)							数値解析 (c-3)	コンピュータグラフィックス (c-3)				
	チームワーク (i)																
B2 自主性と自立性	自主性・継続性 (e)																
	情報技術 (c-3)																
	実験 (d-2)																
C1 複合分野の設計能力	専門工学 (d-1)	基礎コンピュータ工学	コンピュータ工学	コンピュータシステム概論	データベース (d-1)	デジタル回路応用 (d-1)	オペレーティングシステムI (d-1)	情報通信工学 (d-1)	ソフトウェア工学 (d-1)	創造演習 (d-3)							
	問題発見解決能力 (d-3)																
	デザイン能力 (e)																
C2 課題の把握と解決能力	実務能力 (d-4)				知的財産論		校外実習1 (d-4)										
	芸術																
	卒業能力 (h)																

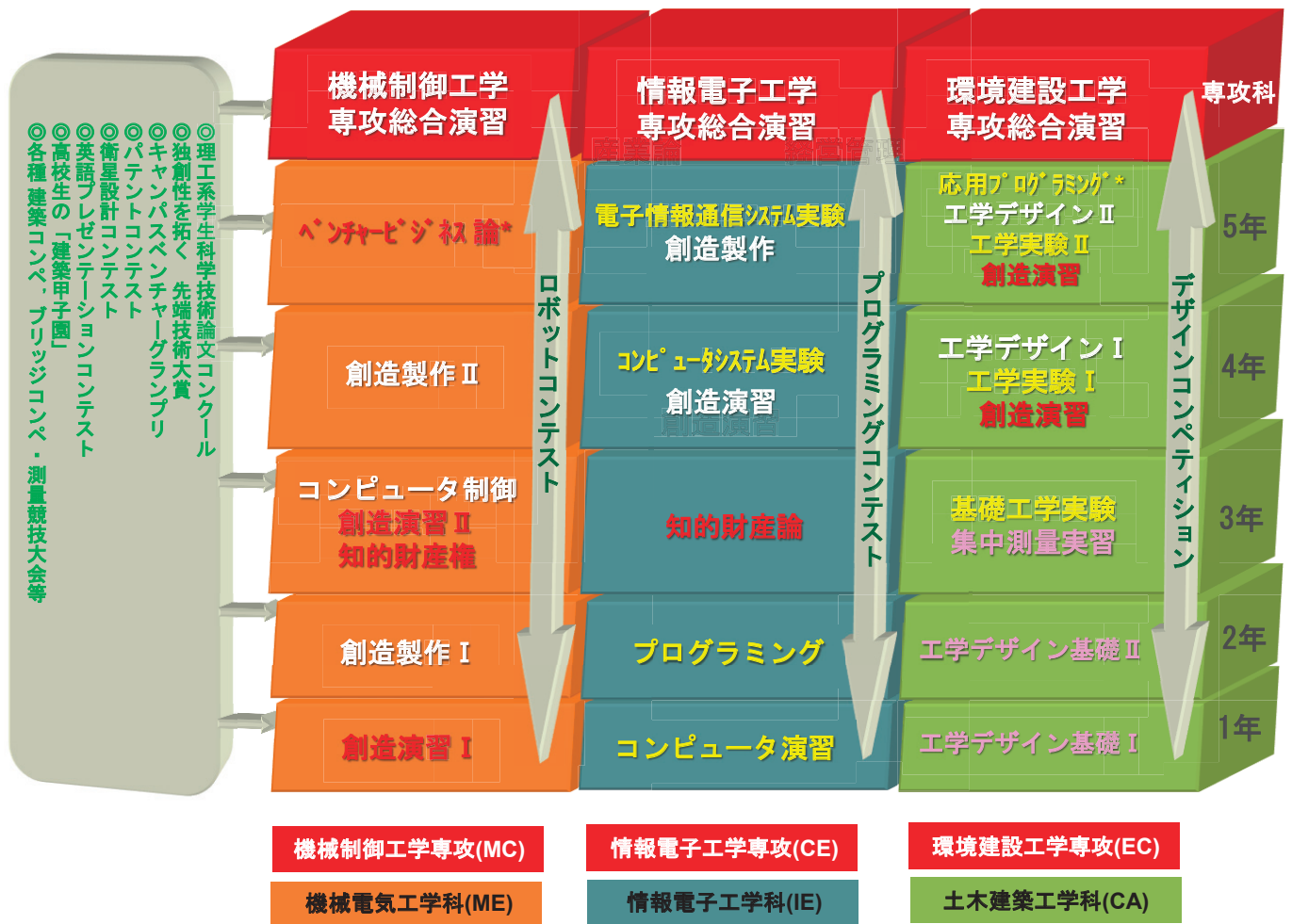


令和5年度本科入学生 社会環境整備技術（土木建築工学科／環境建設工学専攻）カリキュラム系統図

	本 科										専 攻 科			
	1年		2年		3年		4年		5年		1年		2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
A1 複合分野の基礎となる基本的素養	数 学 (c-1)	数学IA	数学IIA	数学IIIA	微分積分学I (c-1)	微分積分学II (c-1)		線形代数 (c-1)				工学解析 (c-1)		Engineering Mathematics (c-1)
		数学IB	数学IIB	数学IIIB		確率・統計 (c-1)	自然科学特選 (c-1)						応用統計学 (c-1)	離散数学 (c-1)
					応用解析学概論 (c-1)				応用数物演習 (c-1)					
自然科学 (c-2)		物理基礎	物理I	物理II				物理化学 (c-2)				物理科学 (c-2)		
		化学基礎	化学I	化学II								一般化学 (c-2)		
		保健						生物学 (c-2)					生命科学 (c-2)	
基礎工学 ①設計・システム系 ②情報・論理系 ③材料・バイオ系 ④力学系 ⑤社会技術系	力と変形		構造力学基礎	構造力学基礎	構造力学 (d-1)*④	建築材料 (d-1)*③	火災学 (d-1)*③	建設先端材料 (d-1)*③				構造設計論 (d-1)*①		
	建設材料		測量学I	測量学II	地盤工学基礎	地盤工学 (d-1)*④						建設70ラック (d-1)*②		
	測量学I		測量実習	測量実習	CAD基礎	応用物理 (d-1)*④	CAD応用 (d-1)*②							
A2 国際理解を深め、技術者としてのコミュニケーション能力を養う	地球の視点で考える能力 (a)	歴史	歴史						歴史学 (a)					国際比較文化論 (a)
		政治・経済				人文社会特講 (a)	人文社会特講 (a)	人文社会特講 (a)	人文社会特講 (a)					
			西洋建築史			中国文学 (a)	中国文学 (a)							
技術者倫理 (b)			倫理	哲学					心理学 (b)	心理学 (b)				安全工学概論 (b)
									技術者倫理 (b)					技術者の倫理 (b)
発表、コミュニケーション能力 (f)	国語総合I	国語総合II	国語総合II	日本語コミュニケーション (f)	日本語コミュニケーション (f)				総合英語演習II (f)	英語特別演習 (f)				日本語表現法 (f)
	基礎英語	総合英語I	総合英語II	総合英語演習I (f)					総合英語 (f)					科学英語表現法 (f)
		英会話	英会話	英会話 (f)										
総合	体育	体育	体育	体育										
B1 情報技術をベースに、実体験を通して表現力をみにつけること	情報技術 (c-3)	情報処理	情報処理	情報処理					応用プログラミング (c-3)					
	実験 (d-2)			基礎工学実験	工学実験I (d-2)	工学実験II (d-2)								
	チームワーク (i)													
B2 自主性・継続性 (g)	自主性・継続性 (g)				工学セミナー (g,h)				卒業研究 (g,h)					
C1 複合分野の設計能力	専門工学 (d-1)			建築計画I	鉄筋コンクリート工学 (d-1)	プレストレストコンクリート工学 (d-1)	建築構造設計 (d-1)	振動工学 (d-1)	鉄筋コンクリート特論 (d-1)	建築体力学 (d-1)	耐震工学 (d-1)			
					鋼構造学I (d-1)	鋼構造学II (d-1)	鋼構造学III (d-1)	基礎構造学 (d-1)	土木施工法 (d-1)	建築生産論 (d-1)	土質力学 (d-1)	耐震基礎構造学 (d-1)		
					道路工学I (d-1)	河海工学I (d-1)	河海工学II (d-1)	道路工学II (d-1)	土木法規 (d-1)	建築生産論 (d-1)	水理科学 (d-1)	応用水理学 (d-1)	環境システム工学 (d-1)	
問題発見解決能力 (d-3)					水理学 (d-1)	建築環境工学 (d-1)	建築環境工学演習 (d-1)	土木法規 (d-1)						
					建築施工法 (d-1)			建築法規 (d-1)						
					都市計画 (d-1)	日本建築史 (d-1)	近代建築史 (d-1)	建築設備 (d-1)						
デザイン能力 (e)					測量演習 (e,f)	測量学III (d-4)	校外実習1 (d-4)	校外実習2 (d-4)	測量学特論 (d-4)	建設マネジメント (d-4)	特別講義 (d-4)			
C2 課題の把握と解決能力	実務能力 (d-4)													
	先達能力 (h)													

科目名の後の ( ) 内：2019 JABEE基準1.2  
" \* 丸数字：2014 JABEE基準2.1(1)

# 徳山高専創造系科目系統図 (令和5年度)



各科目名の色は本校学習教育目標のそれぞれに対応しています。

ピンク色 : A1    黄色 : B1    白色 : C1    茶色 : C2

また、\* は選択科目を表しています。

この創造系科目では“自分自身で課題を見出し、自らの発想により答えを見つけ、新しいものを生み出す力を養成すること”を目的としています。

上記はその代表・典型的な科目です。

各科目の詳細についてはシラバスを参照して下さい。

コンテストやコンペティションは学科・学年に関わらず誰でも参加できます。詳しくは、以下の担当窓口まで問い合わせてください。

- ・ ロボットコンテスト等 : 機械電気工学科 藤本浩, 池田将晃
- ・ プログラミングコンテスト等 : 情報処理センター, 情報電子工学科 力 規晃
- ・ デザインコンペティション等 : 土木建築工学科 海田辰将, 中川明子, 河野拓也

# 徳山高専

## 物理系統図と講義内容 (令和5年度)

専攻科  
1年

物理学  
(2単位)

応用物理  
(2単位)

電磁気学  
(ME・IE 2単位)

物理Ⅱ  
(2単位)

物理Ⅰ  
(2単位)

物理基礎  
(1単位)

### 物理のステップ

## 講義内容

(抜粋、詳細は各webシラバス参照)

- 物理基礎**
1. 速度・加速度
  2. 自由落下運動
  3. 放物運動・分解
  4. 力の合成・分解
  5. いろいろな力
  6. 液体・気体による力

- 物理Ⅰ**
1. 剛体
  2. 運動の法則
  3. 運動風保存の法則
  4. 仕事
  5. 運動エネルギー
  6. 位置エネルギー
  7. エネルギー保存の法則

- 物理Ⅱ**
1. 電場と導体
  2. 電位
  3. コーンデンサー
  4. オームの法則
  5. 直流回路
  6. シュワールの法則
  7. 電磁誘導
  8. 交流
  9. 相互誘導・自己誘導

- 物理Ⅲ**
10. 交流回路
  11. 電磁振動
  12. 真空放射電と陰極線
  13. 光電効果
  14. X線とその構造
  15. 原子とその性質
  16. 水素原子のエネルギー準位
  17. 放射線とその性質
  18. 核反応と核エネルギー

- 物理科学**
1. 現代物理学の業績
  2. 物理学・科学技術・社会
  3. 特殊相対性理論
  4. 量子力学
  5. 原子核物理学

応用物理：力学、波動、及び前期量子論  
電磁気学：専門科目と共通

- 電磁気学**
1. ガウスの定理
  2. 電界と電位
  3. 誘電体
  4. 誘電体と抵抗
  5. 電圧・サハールの法則
  6. ヒオ・サハールの法則
  7. 電磁誘導
  8. インダクタンス
  9. マクスウェルの方程式

- 応用物理**
1. 落体の運動
  2. 単振動、減衰振動
  3. 仕事とエネルギー
  4. 運動量と角運動量、モーメント
  5. 剛体の運動
  6. 波の重ね合わせ、干渉
  7. 波動方程式
  8. シュレディンガー方程式

# 徳山高専数学系統図と講義内容(令和5年度)

## 数学のバックボーン



必修科目  
選択科目

## 講義内容 (抜粋、詳細は各webシラバス参照)

- 数学ⅠA**
1. 2次関数のグラフ
  2. 分式関数、無理関数
  3. 分枝不等式、無理不等式
  4. 逆関数
  5. 指数関数、対数関数
  6. 三角比
  7. 三角関数のグラフ
  8. 加法定理
  9. 三角方程式、不等式

- 数学ⅡA**
1. 関数の極限
  2. 導関数の公式
  3. 三角関数の導関数
  4. 対数関数の導関数
  5. 平均値の定理
  6. 関数の最大・最小
  7. 接線と法線
  8. 曲線の凹凸
  9. 定積分と不定積分

- 数学ⅢA**
1. 面積・立体の体積
  2. 曲線の長さ
  3. 広義積分
  4. 陰関数の極値
  5. 変数分離形、同次形
  6. 1階線形微分方程式
  7. 完全微分方程式
  8. 2階線形微分方程式
  9. 楕円でない2階微分

- 微分積分Ⅰ**
1. 偏導関数
  2. 高次偏導関数・全微分
  3. 2変数関数の極値
  4. 陰関数の極値
  5. 2重積分
  6. 極座標による2重積分
  7. 2重積分の変数変換
  8. 2重積分の広義積分
  9. 2重積分の応用

- 微分積分Ⅱ**
1. 多項式による近似
  2. 数列の極限
  3. 級数
  4. ベキ級数とマクローリン展開
  5. テイラー展開
  6. オイラーの公式

- 数学ⅠB**
1. 整式
  2. 因数分解
  3. 分式
  4. 実数、複素数
  5. 2次方程式の解
  6. 分式方程式、無理方程式
  7. 等式の証明
  8. 各種不等式
  9. 不等式の証明
  10. 点と直線

- 数学ⅡB**
1. 三角関数の加法定理
  2. 円・楕円の方程式
  3. 不等式と領域
  4. 順列・組合せ
  5. 等差数列・等比数列
  6. 漸化式と数学的帰納法
  7. 平面ベクトル
  8. 空間ベクトル
  9. 直線・平面・球の方程式

- 数学ⅢB**
1. 行列とその逆算
  2. 転置行列、逆行列
  3. 掃き出し法、展開
  4. 行列式の性質と展開
  5. 行列式の性質と公式
  6. 線形変換
  7. 固有値、固有ベクトル
  8. 対称行列の対角化

- 応用解析学概論**
1. ベクトル解析
  2. フーリエ解析
  3. ラプラス解析
  4. 複素関数論

- 確率・統計**
1. 順列・組合せ
  2. 確率・条件付き確率
  3. 確率変数・平均・分散
  4. 2重分布
  5. 連続確率変数
  6. 正規分布
  7. 資料の整理
  8. 母集団と標本
  9. 母平均の区間推定

- 物理基礎**
1. 剛体
  2. 運動の法則
  3. 運動風保存の法則
  4. 仕事
  5. 運動エネルギー
  6. 位置エネルギー
  7. エネルギー保存の法則

- 物理Ⅰ**
8. 熱と仕事
  9. ばねの法則
  10. 波の伝わり方
  11. 重ね合わせの原理
  12. 波の反射・屈折・回折
  13. 音波
  14. 光波

- 物理Ⅱ**
1. 電場と導体
  2. 電位
  3. コーンデンサー
  4. オームの法則
  5. 直流回路
  6. シュワールの法則
  7. 電磁誘導
  8. 交流
  9. 相互誘導・自己誘導

- 物理Ⅲ**
10. 交流回路
  11. 電磁振動
  12. 真空放射電と陰極線
  13. 光電効果
  14. X線とその構造
  15. 原子とその性質
  16. 水素原子のエネルギー準位
  17. 放射線とその性質
  18. 核反応と核エネルギー

- 離散数学**
1. 基本命題論法
  2. 行列とその応用
  3. 合同式
  4. 整数の番号への応用
  5. 有限体と拡大体
  6. 複素積分
  7. 有限体の割り訂正符号への応用

- 工学解析**
1. 関数とグラフ
  2. 行列とその応用
  3. 多項式とその応用
  4. FFTとその応用
  5. 常微分方程式とその解法
  6. 偏微分方程式とその応用
  7. シミュレーションと制御入門

- 応用統計学**
1. 度数分布
  2. 相関係数と回帰直線
  3. 確率分布
  4. 正規分布
  5. X<sup>2</sup>分布、t分布など
  6. 標本分布
  7. 区間推定
  8. 仮説検定
  9. 母相関係数の推定

- Engineering Mathematics**
1. Fundamental concepts
  2. Ordinary differential equations
  3. Applications of differential equations
  4. Linear differential equations
  5. Multiple, line and surface integrals and integral theorems
  7. Matrices

参 考

徳山高専【国語科】科目系統図と講義内容（令和5年度入学生）

科目系統図



講義内容 ※詳細は高専 Web シラバスを参照のこと。

国語 I A 国語 I B	本科 1 年生	国語 II 国語 III	本科 2 年生 本科 3 年生
<p>評論・小説・古典などを主体的に学ぶことを通じて、読解力・思考力・判断力・表現力、豊かな感性・人間性を養います。また、日本語表現の学習を通して、技術者に求められる実践的な日本語運用能力を身につけます。(国語 I A は高等学校国語科目における「現代の国語」に、国語 I B は「言語文化」に相当)</p>			

日本語学・日本文学 中国文学	本科 4 年生	日本語表現法	専攻科 1 年生
<p>日本語学の作品分析を通じて抽出された課題や疑問点について、資料を調査し、レジュメのもとで、口頭発表を行う演習形式の授業です。最終的には、口頭発表後に行った再調査等の結果を踏まえたレポートを執筆、提出してもらいます。なお、演習で取り扱うテーマは年度ごとに異なるものを設定します。</p>			

徳山高専【国語科】科目系統図と講義内容（令和5年度開講）

科目系統図



講義内容 ※詳細は高専 Web シラバスを参照のこと。

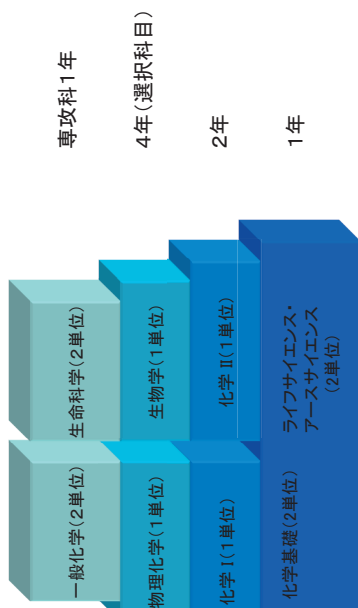
国語 I A 国語 I B	本科 1 年生	国語総合 II	本科 2 年生 本科 3 年生
<p>評論・小説・古典などを主体的に学ぶことを通じて、読解力・思考力・判断力・表現力、豊かな感性・人間性を養います。また、日本語表現の学習を通して、技術者に求められる実践的な日本語運用能力を身につけます。(国語 I A は高等学校国語科目における「現代の国語」に、国語 I B は「言語文化」に相当)</p>			

日本語コミュニケーション 中国文学	本科 4 年生	日本語表現法	専攻科 1 年生
<p>技術者・社会人に求められる実践的な日本語運用能力を身につけることを目標とします。具体的には、話し言葉と書き言葉の違い、現代敬語の使い方、履歴書・エントリーシート・自己PR 文・はがきの書き方などについて、講義と演習（実作・添削）を通して実践的に学んでいきます。</p>			



# 徳山高専

## 化学・生物系統図と講義内容 (令和5年度)



専攻科1年

4年(選択科目)

2年

1年

化学基礎(2単位)  
ライフサイエンス・  
アースサイエンス  
(2単位)

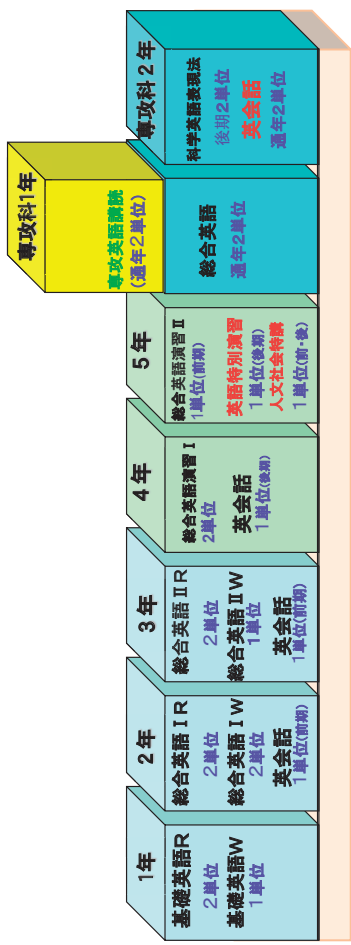
### 講義内容

化学基礎	化学I	化学II
<ol style="list-style-type: none"> <li>物質の成分と元素</li> <li>原子の構造と周期表</li> <li>物質と化学結合</li> <li>物質と物質量</li> <li>溶解と濃度</li> <li>化学反応式</li> <li>酸と塩基</li> <li>中和と塩</li> <li>酸化還元反応</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>酸化剤と還元剤</li> <li>金属のイオン化傾向</li> <li>電池</li> <li>地球と生物の起源</li> <li>生物の多様性と非連続性</li> <li>遺伝情報とDNA</li> <li>遺伝子の分配</li> <li>進化の仕組み</li> <li>非金属元素と化合物</li> <li>金属元素と化合物</li> <li>遷移元素と化合物</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>有機化合物の特徴</li> <li>有機化合物の構造と分類</li> <li>炭化水素</li> <li>アルコールとエーテル</li> <li>アルドヒドとケトン</li> <li>カルボン酸とエステル</li> <li>芳香族化合物</li> <li>タンパク質</li> <li>高分子化合物</li> </ol>

(抜粋、詳細は各webシラバス参照)

物理化学	生物化学	一般化学	生命科学
<ol style="list-style-type: none"> <li>原子の構造</li> <li>波動方程式</li> <li>元素の軌道配置</li> <li>電子軌道と共有結合</li> <li>イオン結合と共有結合</li> <li>分子軌道法</li> <li>分子軌道</li> <li>分子間力</li> <li>熱力学</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>無脊椎動物の行動</li> <li>脊椎動物の行動</li> <li>遺伝と遺伝子</li> <li>脳</li> <li>イオンチャンネル</li> <li>神経伝達物質</li> <li>神経伝達</li> <li>神経疾患</li> <li>神経原体</li> <li>バイオリズムと脳</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>原子と分子</li> <li>原子・電子構造</li> <li>化学結合</li> <li>熱力学</li> <li>化学平衡</li> <li>酸化還元反応</li> <li>酸化・還元反応</li> <li>環境化学</li> <li>工業製品と化学</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>発生工学の基礎概念</li> <li>受精発生</li> <li>初期発生</li> <li>現代の発生工学</li> <li>発生遺伝子</li> <li>シグナル伝達因子</li> <li>発生分子生物学</li> <li>発生と老化</li> <li>老化と寿命</li> </ol>

# 徳山高専 英語系統図と講義内容(令和5年度)



黒字は一般科目  
赤字は選択科目  
緑字は専門科目

### 講義内容

1年	2年	3年	4年	5年
<b>基礎英語R</b> 2単位 <b>基礎英語W</b> 1単位	<b>総合英語 IR</b> 2単位 <b>総合英語 IW</b> 2単位 <b>英会話</b> 1単位(前期)	<b>総合英語 IIR</b> 2単位 <b>総合英語 IIR</b> 2単位 <b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>総合英語 IIR</b> 2単位 <b>総合英語 IIR</b> 2単位 <b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>総合英語 IIR</b> 2単位 <b>総合英語 IIR</b> 2単位 <b>英会話</b> 1単位(後期)
語学の中心である読み書きを中心とした授業であるが、音読・聞く・読む・書くといった活動も行いながら総合的に語学能力を育成することを目的とする。また、本講義はTOEICを兼ねた英語理解の授業を兼ねて行う。	語学の中心である読み書きを中心とした授業であるが、音読・聞く・読む・書くといった活動も行いながら総合的に語学能力を育成することを目的とする。また、本講義はTOEICを兼ねた英語理解の授業を兼ねて行う。	英語のコミュニケーション能力を高めるための授業を中心に、語学・文法・リスニングを学習し英語の総合能力向上を目指す。また、TOEIC受験に備えて文法力の仕上げを目指す。	TOEIC対策を中心に、英語の総合能力を高めるための授業を中心とする。また、TOEIC受験に備えて文法力の仕上げを目指す。	TOEIC対策を中心に、英語の総合能力を高めるための授業を中心とする。また、TOEIC受験に備えて文法力の仕上げを目指す。
<b>基礎英語W</b> 1単位	<b>総合英語 IW</b> 2単位	<b>総合英語 IW</b> 2単位	<b>総合英語 IW</b> 2単位	<b>総合英語 IW</b> 2単位
TOEICスコア740(専攻科2年生の目標スコア)を達成できるような、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング・文法・読解力を総合的に伸ばすための授業を行う。	1年次で修得した文法知識を、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングに活用し、総合的な英語力向上を図る。	TOEIC受験に備えて文法力の仕上げを目指す。	TOEIC受験に備えて文法力の仕上げを目指す。	TOEIC受験に備えて文法力の仕上げを目指す。
<b>英会話</b> 1単位(前期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)
基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。
<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)
基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。
<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)
基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。

専攻科1年	専攻科2年
<b>総合英語</b> 2単位 <b>専攻科英語</b> 1単位	<b>総合英語</b> 2単位 <b>専攻科英語</b> 1単位
TOEICスコア740(専攻科2年生の目標スコア)を達成できるような、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング・文法・読解力を総合的に伸ばすための授業を行う。	TOEICスコア740(専攻科2年生の目標スコア)を達成できるような、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング・文法・読解力を総合的に伸ばすための授業を行う。
<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)
基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。
<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)
基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。
<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)
基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。
<b>英会話</b> 1単位(後期)	<b>英会話</b> 1単位(後期)
基礎的な英語の表現を身につける。	基礎的な英語の表現を身につける。

## JABEE認定プログラム

本校では、本科4・5年と専攻科のカリキュラムで「設計情報工学」プログラムを構成しています。すでに述べたように、本校では本科5年間と専攻科2年間の教育全体をまとめて学習・教育目標を定め、専攻科で育成しようとする技術者像を「情報技術者をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者」と定めており、そのなかの本科4年生以上の教育内容を切り取って、JABEE認定を受けています。すなわち、その内容は本校の教育全体をまとめて一本化したもので、コンピュータに関連した情報技術者をベースに、それぞれ得意とする複合技術を生かして、設計・開発を行う素養をもつ技術者を育てる教育体系を指しています。この教育プログラムは国際的に通用する技術者育成に適合するものとして、日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査により認定され、平成15年度から適用されています。

参考のため、以下にJABEE基準（2019年新基準）を示します。

### ■ 日本技術者教育認定基準（JABEE 基準）

プログラム修了生が以下の知識・能力を身につけることを求めています。

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解
- (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを活用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をすすめるための能力

## 「設計情報工学」プログラム修了要件

プログラム修了要件は次のとおりです。これらの修了要件とJABEE基準1.2との対応関係を下表に示します。学習・教育到達目標及びJABEE基準1.2と開設科目の対応はカリキュラム系統図から分かるようになっています。

- 1 専攻科において66単位以上、本科4・5年を含めて128単位以上修得すること。
- 2 本科4・5年を含めて、数学4科目以上、基礎工学5科目群（設計・システム系科目群、情報・論理系科目群、材料・バイオ系科目群、力学系科目群、社会技術系科目群）の各群から少なくとも1科目、合計6科目以上、情報技術科目1科目以上、実験科目1科目以上、各専攻工学で定めた科目（総合科目2科目以上を含む。）及び問題発見解決科目1科目以上を修得すること。
- 3 学協会での発表を行うこと。
- 4 学士の学位を取得すること。

### プログラム修了要件とJABEE要求基準との対応

基準1.2 の知識・能力 学習・教育 到達 目標	(a) 地球的視点	(b) 技術者倫理	(c-1) 数学 4科目以上	(c-2) 自然科学 物理科学 一般化学 生命科学	(c-3) 情報技術 1科目以上	(d) 分野別要件				(e) デザイン能力	(f) コミュニケーション能力	(g) 自主性・継続性	(h) 完遂能力	(i) チームワーク	
						(1) 専門工学 基礎工学 5群 6科目以上	(2) 実験	(3) 問題発見解決能力	(4) 実務能力						
(A1)			◎ 数学 4科目以上	◎ 物理科学 一般化学 生命科学		○ 基礎工学 5群 6科目以上									
(A2)	◎ 国際比較 文芸識	◎ 技術者 倫理の 理解									◎ 日本語 表現法 表現法				
(B1)					◎ 情報技術 1科目以上				○						◎ 総合実験
(B2)													○		
(C1)								◎ 各専攻で 定めた 科目		◎ 総合演習			○		○
(C2)		○								◎ インター ンシップ				◎ 特別研究	

## 学習・教育到達目標の達成度評価対象と評価方法及び評価基準

本校の学習・教育到達目標を達成するための評価方法及び評価基準は次のとおりです。  
(注)達成度評価対象科目のうち、明朝体は本科開設科目、**ゴシック体**は専攻科開設科目。

学習・教育目標	達成度評価対象	各対象の評価方法及び評価基準	総合評価方法及び評価基準		
A	(A1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学</li> <li>微積分学Ⅰ、Ⅱ</li> <li>ベクトル解析</li> <li>確率・統計</li> <li>フーリエ変換</li> <li>関数論</li> <li>フーリエ・ラプラス変換</li> <li>統計学</li> <li>線形代数</li> <li>応用数物演習</li> <li>応用解析学概論</li> <li>応用統計学</li> <li>工学解析</li> <li>離散数学</li> <li>Engineering Mathematics</li> </ul>	<p>左記の科目のうち、4科目以上を修得すること。</p> <p>各科目の評価基準はシラバスに記載のとおり。</p>	左記すべてを満足することをもって合格とする。	
		・物理学	評価基準はシラバスに記載のとおり。		
		・一般化学	評価基準はシラバスに記載のとおり。		
		・生命科学	評価基準はシラバスに記載のとおり。		
		・基礎工学 (対象科目については別表に記載)	<p>基礎工学として定める5群(設計・システム系科目群、情報・論理系科目群、材料・バイオ系科目群、力学系科目群、社会技術系科目群)の各群から最低1科目、合計6科目以上の修得をもって合格とする。</p> <p>各科目の評価基準はシラバスに記載のとおり。</p>		
		(A2)	・国際比較文化論		評価基準はシラバスに記載のとおり。
			・技術者の倫理		評価基準はシラバスに記載のとおり。
			・日本語表現法		評価基準はシラバスに記載のとおり。
		・科学英語表現法	評価基準はシラバスに記載のとおり。		
B	(B1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術</li> <li>設計製図Ⅱ、Ⅲ</li> <li>数値計算</li> <li>有限要素法</li> <li>数値解析</li> <li>システムプログラミングⅡ</li> <li>知的情報処理</li> <li>コンピュータグラフィックス</li> <li>オブジェクト指向プログラミング</li> <li>応用プログラミング</li> <li>工学デザインⅡ</li> </ul>	<p>左記の科目のうち、1科目以上を修得すること。</p> <p>各科目の評価基準はシラバスに記載のとおり。</p>	左記すべてを満足することをもって合格とする。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>実験</li> <li>工学実験Ⅱ(ME4)</li> <li>コンピュータシステム実験</li> <li>電子情報通信システム実験</li> <li>工学実験Ⅰ、Ⅱ(CA4,5)</li> </ul>	<p>左記の科目のうち、1科目以上を修得すること。</p> <p>各科目の評価基準はシラバスに記載のとおり。</p>		
		・総合実験	実験内容の理解度、実験態度、レポート及び成果発表の状況などの項目により、各複合技術の特徴に応じて総合的に評価し60点以上を合格とする。		
	(B2)	・卒業研究	卒業研究の評価は、卒業論文、研究態度、中間発表、最終発表等の項目に対して、各複合分野で定めた重み付けに基づき、指導教員および他の教員による評価を総合して評価する。		
C	(C1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各複合技術で定めた科目</li> <li>総合科目 (対象科目については別表に記載)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各複合技術で定めた科目(専門工学を構成している各系から最低1科目、合計10科目以上)を修得すること。</li> <li>総合科目(2科目以上)を修得すること。</li> </ul> <p>各科目の評価基準はシラバスに記載のとおり。</p>	左記すべてを満足し、かつ下記の条件を満たすこと	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>問題発見解決</li> <li>創造製作Ⅱ</li> <li>コンピュータ総合演習</li> <li>創造演習(IE4)</li> <li>創造製作(IE5)</li> <li>創造演習(CA4)</li> <li>創造製作(CA5)</li> </ul>	<p>左記の科目のうち、1科目以上を修得すること。</p> <p>各科目の評価基準はシラバスに記載のとおり。</p>	<p>をもって合格とする。</p> <p>・学協会での発表</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>総合演習</li> </ul>	<p>担当教員、演習状況、報告書、製品評価、発表評価などの項目により各複合技術の特徴に応じて総合的に評価し、60点以上を合格とする。</p>	
	(C2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ</li> </ul>	<p>引受先からの評価を1/3、担当教員5名による報告書および日誌の評価2/3を総合して評価し、60点以上を合格とする。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>特別研究</li> </ul>	<p>特別研究発表会において発表したものに対し、指導教員による評価60%、2名の教員による特別研究論文評価20%、発表会に出席した教員によるプレゼンテーション評価20%を総合して評価し、60点以上を合格とする。</p>	

## 別表 基礎工学及び専門工学科目一覧

	①設計・システム系科目群	②情報・論理系科目群	③材料・バイオ系科目群	④力学系科目群	⑤社会技術系科目群
基礎工学	制御工学Ⅰ コンピュータアーキテクチャ 工学デザインⅠ システム制御工学 構造設計論	電子回路Ⅱ 情報理論 システム数理工学 言語処理 CAD 応用 建設プログラミング 情報工学特論 情報論理学	材料学Ⅱ 機能材料 建築材料 建設先端材料 火薬学 生体情報工学 半導体電子工学	応用物理 電磁気学 機械力学Ⅰ、Ⅱ 計算力学 構造力学 地盤工学	環境リサイクル論 機械設計論Ⅱ 社会情報システム 環境衛生工学 経営工学
専門工学 (総合科目を含む)	メカトロ技術	材料系	エネルギー系	情報系	設計・加工系
		材料力学Ⅱ 弾塑性論 弾性力学 生体機械力学 材料強度学 #材料設計工学	水力学Ⅱ ターボ機械 熱力学 流体力学 伝熱工学 熱機関 流体制御工学 #熱流体工学	電気回路Ⅱ 計測工学 制御工学Ⅱ 応用計測工学 回路応用設計 応用電磁気学 電気音響工学 電気電子工学特論 #ロボット制御工学 #システム設計工学	機械設計論Ⅰ #CAE
	情報電子技術	情報処理システム系	コンピュータ応用 機器システム系	情報通信システム系	
		オペレーティングシステムⅠ、Ⅱ データベース ソフトウェア工学 ネットワークアーキテクチャ オートマトンと計算論 分散システム概論 #自然言語処理	デジタル回路応用 集積回路設計Ⅰ 集積回路設計Ⅱ 画像工学 論理設計 システム計測工学 #コンピュータ構成学	情報通信工学 デジタル信号処理 通信ネットワーク工学 #コンピュータネットワーク 光情報処理 #メディア信号処理	
社会環境整備技術	構造系	環境系	計画系		
	鉄筋コンクリート工学 鋼構造学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ PCコンクリート工学 建築構造設計 基礎構造学 振動工学 道路工学Ⅰ、Ⅱ 鉄筋コンクリート特論 連続体力学 土質力学 計算工学 #耐震工学 #耐震基礎構造学	水理学 河海工学Ⅰ、Ⅱ 建築環境工学 建築環境工学演習 水理科学 応用水理学 #環境システム工学	都市計画 日本建築史 近代建築史 土木施工法 土木法規 建築施工法 建築法規 建築設備 建築生産論 #住宅計画学 #都市環境計画学 #建築設計計画学		

(注) 達成度評価対象科目のうち、明朝体は本科開設科目、ゴシック体は専攻科開設科目、  
#は総合科目



## 徳山工業高等専門学校 授業科目一覧表

### ○この一覧表について

この一覧表は本校の「学則」の別表となっている、「教育課程表」を入学年度ごとに掲載したもの（令和5年4月1日現在）です。

※入学した後に変更がある場合は、左肩の「別表」の記載が「附則別表」となっています。

各入学年度ごとに、表の下に見出しがついていますので、自身の教育課程がどれになるかを確認して、履修科目をチェックしてください。





別表第1 (第13条関係)  
一般科目

※印は学則第14条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数					備考
	1年	2年	3年	4年	5年	
国語 I A	2					
国語 I B	2					
国語 II	2	2				
国語 III	2		2			外国人留学生除く
歴史	4	2	2			
政治・経済	2	2				
社会学	2					外国人留学生除く
数学 I A	3					
数学 I B	3					
数学 II A	3	3				
数学 II B	3					
数学 III A	2	2				
数学 III B	2		2			
微分積分学 I	1					
微分積分学 II	1					
ベクトル代	1					ME, IE
線形代数	1					CA
ライオンズ・アソシエーション	2	2				
物理基礎 I	1	1				
物理基礎 II	2	2				
応用物理	2					2
化学基礎 I	2	2				
化学基礎 II	1	1				
体育 I	1	1				
体育 II	2	2				
保健	1	1				
基礎英語 R	2	2				
基礎英語 W	1	1				
総合英語 I R	2	2				
総合英語 I W	2	2				
総合英語 II R	2	2				外国人留学生除く
総合英語 II W	1	1				
総合英語演習 I	2					外国人留学生除く
総合英語演習 II	1					
英会話	3	1	1	1	1	
日本語	6		4	2		外国人留学生科目
日本事情	2		2			外国人留学生科目
履修単位数計	77	25	16	10	1	ME, IE
人文・社会	1					CA
外国語	1					
心理学	1					
社会学	1					
社会学特講	2					
ドイツ	3					
英語特別演習	1					
中国語	3					
生物	1					
生物化学	1					
自然科学特講	1					
科学史	1					
科学史特講	1					
応用数学概論	3					
応用数学演習	1					
数学研究	2					
開設単位数計	23	2	2	16	9	
履修単位数計	5			3	2	
履修単位数合計	82	25	16	13	3	ME, IE
特別活動	3	1	1	1	1	CA

注① 4 学年では人文・社会領域から2科目または外国語領域から1科目選択し、自然科学領域から1科目選択する。

ただし、応用物理学概論は、通年3単位、他科目は半期1単位で開講する。

② 5 学年では人文・社会領域から2科目または、人文・社会領域、外国語領域からそれぞれ1科目選択する。ただし、ドイツ語及び中国語は4 学年で履修した科目を継続する場合に限り選択することができる。

ME：機械電気工学科 IE：情報電子工学科 CA：土木建築工学科

別表第2 (第1.3条関係)  
機械電気工学科  
専門科目

※印は学則第1.4条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
工作実習Ⅰ	2	2					
工作実習Ⅱ	2		2				当該学年までに修得
工学実習Ⅰ	1		1				
工学ゼミナール	1			1			
電気回路Ⅰ	1		1				
電子回路Ⅰ	2		2				
※ 電磁気学	2			2			
※ 材料力学Ⅰ	2		2				
水力学	1		1				
※ 熱力学Ⅰ	1			1			
※ 工学実習Ⅱ	3			3			
※ 卒業研究	10				10		
履修単位数	28	2	2	7	7	10	
基礎の基礎	1	1					
電気の基礎	1	1					
技術発達の基礎	1	1					
知的財産権	1		1				
※ 技術者倫理	1			1			1
工学英語Ⅰ	1			1			
※ 工学英語Ⅱ	1			1			1
※ 関数・統計	1			1			
※ 確率・統計	1			1			
※ フォトリソグラフィ	1			1			1
※ コンピュータ基礎	1	1					
※ プログラミング基礎	1	1					
※ プログラミング応用	2		2				
人文学	1			1			
※ 電気回路Ⅱ	2			2			
※ 電子回路Ⅱ	1		1				
※ モーター制御	1		1				
※ 制御工学Ⅰ	1			1			
※ 制御工学Ⅱ	2			2			2
※ 計測工学	2			2			2
工業概論	1			1			
工業力学	1		1				
※ 機械力学Ⅰ	1			1			
※ 機械力学Ⅱ	1			1			
※ 加工工学	1		1				
※ 材料学Ⅰ	2		2				
※ 材料学Ⅱ	1			1			
※ 材料力学Ⅰ	1			1			
※ 弾塑性論	1			1			
※ 流体力学	1		1				
※ 熱力学Ⅰ	1			1			
※ 熱力学Ⅱ	1			1			
※ 機械設計Ⅰ	1			1			
※ 機械設計Ⅱ	1			1			
※ 基礎設計Ⅰ	2	2					
※ 基礎設計Ⅱ	2	2					
※ 設計製図Ⅰ	1			1			
※ 設計製図Ⅱ	1			1			
※ 設計製図Ⅲ	1			1			
※ 創造演習Ⅰ	1	1					
※ 創造演習Ⅱ	1	1					
※ 創造製作Ⅰ	2		2				
※ コンピュータ制御	2			2			
※ 創造製作Ⅱ	2			2			
※ 履修単位数	53	7	7	11	17	11	

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
総合実地演習Ⅰ	1	1					
総合実地演習Ⅱ	2		2				
校外実習Ⅰ	1			1			
校外実習Ⅱ	2			2			
※ 環境リサイクナル論	1			1			1
※ 一般物理	1			1			
※ 数値計算	1			1			
※ 流体力学	1			1			
※ 伝熱工学	1			1			
※ 有限要素法	1			1			
※ ベンチャービジネス論	1			1			
※ 通信工学	1			1			
※ テーマ別講義	1			1			
※ 特別講義	1			1			
※ 海外研修	2			2			
※ 基礎電気工学	2			2			外国人留学生科目
※ 基礎機械工学	2			2			外国人留学生科目
※ 開設単位数	18	2	5	2	5	12	
※ 外国人留学生開設単位数	22	2	5	6	5	12	
※ 履修単位数	4						4
※ 履修単位数合計	85	9	9	18	24	25	

一般科目履修単位数合計	92	25	25	16	13	3
※ 専門科目履修単位数合計	85	9	9	18	24	25
※ 合計	167	34	34	34	37	28

注① 総合実地演習Ⅰ及び総合実地演習Ⅱは、重複して履修することができない。  
注② 校外実習Ⅰ及び校外実習Ⅱは、重複して履修することができない。

別表第2 (第1.3条関係)  
情報電子工学科  
専門科目  
※印は学則第1.4条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
基礎電気回路	2	2					
基礎コンピュータ工学	2	2					
コンピュータの基礎知識	1	1					
基礎プログラミングI	1	1					
基礎プログラミングII	1	1					
基礎プログラミング演習	1	1					
基礎電子工学実験	4		4				
※ 創造演習	1			4			
※ 船舶製作	1			1			
※ 電子情報通信システム実験	2			2			
卒業研究	10					10	
履修単位数	30	8	0	4	5	13	
電気学	1	1					
集合と論理	1	1					
知的財産論	1		1				
情報数学	2		2				
※ フォーミュラ変換	1		1				
確率	1						
※ 総論	1			1			
※ 情報理論	2			2			
※ デジタル信号処理	1				1		
※ 電磁気学	2			2			
※ 数値解析	1				1		
※ 情報システムと技術者倫理	1				1		
※ 電気回路	2		2				
※ 電測工学	2			2			
アナログ回路	2			2			
デジタル回路	2			2			
※ 情報通信工学	2			2			
※ デジタル回路応用	1	1					
※ デジタル回路演習	1	1					
※ コンピュータ演習	2						
※ コンピュータ工学	2		2				
※ フロントウェア工学	2						
※ データベース	2						
※ オペレーティングシステムI	1			1			
※ オペレーティングシステムII	1			1			
※ ネットワークアプリケーション	2						
※ 工学ゼミナ	1				1		
※ 英語講義	2						
※ 英語講義	1						
履修単位数	51	1	9	14	19	8	

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
※ 集積回路設計I	2					2	
※ 集積回路設計II	1					1	集積回路設計を履修していること
※ 画像工学	2					2	
※ 言語処理	2					2	
※ フォンエクス指向プログラミング	1					1	
※ コミュニケーションネットワーク	2					2	
※ 知的情報処理	2					2	
※ システム数理工学	2					2	
※ 校外実習1	1				1		
※ 校外実習2	2				2		
※ 海外実習	2			2			
※ ハードウェア演習	2			2			外国人留学生科目
※ ソフトウェア演習	2			2			外国人留学生科目
開設単位数	19	2	2	2	5	16	
外国人留学生開設単位数	23	2	2	6	5	16	
履修単位数	5					5	
履修単位数合計	86	9	9	18	24	26	

一般科目履修単位数合計	82	25	25	16	13	3
専門科目履修単位数合計	86	9	9	18	24	26
合計	168	34	34	34	37	29

注 校外実習1及び校外実習2は、重複して履修することができない。

別表第2 (第1.3条関係)  
専門科目  
※印は学則第1.4条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
測量実習	4		2	2			
工学デザイン基礎I	2	2					3学年までに修得
工学デザイン基礎II	2		2				
工学デザイン基礎III	2		2				
基礎工学実験	2		2				
力変形	1	1					
構造力学基礎	4		2	2			
築造工学	1		1				卒業までに修得
※技術者倫理	1				1		
※卒業研究	10					10	
履修単位計	29	3	6	8	1	11	
※土木工学デザインI	2			2			いずれかを卒業までに修得
※建築工学デザインI	2			2			いずれかを卒業までに修得
※土木工学デザインII	2				2		
※建築工学デザインII	2					2	
※土木創造演習	2		1	1			いずれかを卒業までに修得
※建築創造演習	2		1	1			いずれかを卒業までに修得
※土木工学実験I	1		1				いずれかを卒業までに修得
※建築工学実験I	1		1				いずれかを卒業までに修得
※土木工学実験II	1			1			いずれかを卒業までに修得
※建築工学実験II	1			1			いずれかを卒業までに修得
※土木CAD応用	1			1			
※建築CAD応用	1			1			
開設単位計	18				10	8	
履修単位計	9			5	4		
※構造力学	2			2			
※建築一般構造	1			1			
※鉄筋コンクリート工学	4				4		
※鋼構造工学I	1				1		
※地盤工学基礎	2			2			
※水理学基礎	2			2			
※建設材料	1		1				
※建設先端材料	1					1	
※西洋建築史	1			1			
※建築デザイン概論	1	1					
※建築計画I	2		2				
※都市計画	2				2		
※建設マネジメント	1					1	
※情報処理	5	2	1	2			
※CAD基礎	1				1		
※確率・統計	1				1		
※測量学I	2	2					
※測量学II	2	2					
履修単位計	32	6	3	10	11	2	

科目一覧表：令和5年度入学【本科】

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
プレストレストコンクリート工学	1					1	
※鋼構造学II	1					1	
※メンブラス工学	1					1	
※振動と耐震	1					1	
※道路工学I	1				1		
※道路工学II	1					1	
※地盤工学	2					2	
※基礎構造学	1					1	
※基礎構造学2	2					2	
※河海工学I	1					1	
※河海工学II	1					1	
※水環境工学	1					1	
※火災学	1					1	
※建築材料	1					1	
※建築構造設計	2					2	
※建築計画II	2					2	
※日本建築史	1					1	
※近代建築史	1					1	
※建築環境工学	1					1	
※建築環境工学演習	1					1	
※建築設計	2					2	
※土木法規	1					1	
※土木法規	1					1	
※土木施工法規	1					1	
※建築施工法	1					1	
※応用プログラミング	1					1	
※測量学特論	1					1	
※特別講義	1					1	
※工学ゼミナ	1					1	
※校外実習1	1					1	
※校外実習2	2					2	
※校外実習	2					2	
※特別測量実習	2					2	
※特別測量学	2					2	
※開設単位計	39	2	2	2	18	23	
※外国人留学生開設単位計	43	2	2	6	18	23	
履修単位計	16				7	9	
履修単位合計	86	9	9	18	24	26	

一般科目履修単位合計	82	25	25	16	12	4
専門科目履修単位合計	86	9	9	18	24	26
合計	168	34	34	34	36	30

注 校外実習1及び校外実習2は、重複して履修することができない。

摘要 (別表1・別表2)

令和5年4月 別表改正 (令和5年度入学生から適用)

別表第3 (第3.3条関係) 機械制御工学専攻開設科目

区分	授業科目	単位数	学年別開設単位数	
			1年	2年
教養科目	日本語表現法	2	2	
	科学英語表現法	2	2	2
	技術者の倫理	2	2	2
	国際比較文化論	2	2	2
	総合英論	2	2	2
	産業英語論	2	2	2
	経営管理	2	2	2
	安全工学概論 (教養必修科目小計)	16	8	8
	経営工学	2	2	2
	経営学会	2	2	2
	英(教養選択科目小計)	4	4	4
	英(教養選択科目小計)	20	8	12
	一般化学	2	2	2
	物理化学	2	2	2
生命科学	2	2	2	
専門基礎科目	機械制御工学専攻英語読解 (専門基礎必修科目小計)	2	2	2
	応用統計学	8	6	2
	応用解析学	2	2	2
	情報論	2	2	2
	Engineering Mathematics (専門基礎選択科目小計)	2	2	2
	英(専門基礎必修科目小計)	8	6	2
	英(専門基礎必修科目小計)	16	12	4
	イオン交換樹脂	6	6	6
	機械制御工学専攻総合実験 コンピュータ総演習	2	2	2
	機械制御工学専攻総合演習 応用研究	2	2	2
専門科目	特用別研究 (専門必修科目小計)	6	6	6
	弾性力学	20	12	8
	材料強度学	2	2	2
	生体機械力学	2	2	2
	#材料設計工学	2	2	2
	#流体制御工学	2	2	2
	#熱流体工学	2	2	2
	#CAE	2	2	2
	応用計測工学	2	2	2
	応用設計学	2	2	2
	応用電磁気学	2	2	2※
	電気電子工学 情報工学特論	2	2	2※
	#システム制御工学	2	2	2
#システム設計工学	2	2	2	
#ロボット制御工学	2	2	2	
半導体電子工学 (専門選択科目小計)	2	2	2	
合計	34	8	18	
合計	(専門必修科目小計)	54	20	26
	(専門基礎必修科目小計)	80	40	8※
	(専門必修科目小計)	90	40	8※
	(専門基礎必修科目小計)	90	40	8※

専攻科修得単位数 6.6単位以上修得  
【必修4.4単位(教養科目1.6単位、専門基礎科目8単位、専門科目2.0単位)、選択2.2単位以上(専門基礎科目2単位以上、専門科目2.0単位以上、ただし総合科目(印)を4単位以上修得すること)】  
※は、いずれかの学年で開設(隔年開講)

別表第3 (第3.3条関係) 情報電子工学専攻開設科目

区分	授業科目	単位数	学年別開設単位数	
			1年	2年
教養科目	日本語表現法	2	2	
	科学英語表現法	2	2	2
	技術者の倫理	2	2	2
	国際比較文化論	2	2	2
	総合英論	2	2	2
	産業英語論	2	2	2
	経営管理	2	2	2
	安全工学概論 (教養必修科目小計)	16	8	8
	経営工学	2	2	2
	経営学会	2	2	2
	英(教養選択科目小計)	4	4	4
	英(教養選択科目小計)	20	8	12
	一般化学	2	2	2
	物理化学	2	2	2
生命科学	2	2	2	
専門基礎科目	情報電子工学専攻英語読解 (専門基礎必修科目小計)	2	2	2
	応用統計学	8	6	2
	応用解析学	2	2	2
	情報論	2	2	2
	Engineering Mathematics (専門基礎選択科目小計)	2	2	2
	英(専門基礎必修科目小計)	8	6	2
	英(専門基礎必修科目小計)	16	12	4
	イオン交換樹脂	6	6	6
	情報電子工学専攻総合実験 コンピュータ総演習	2	2	2
	情報電子工学専攻総合演習 応用研究	2	2	2
専門科目	特用別研究 (専門必修科目小計)	6	6	6
	オートマトンと計算論	20	12	8
	#自然言語処理	2	2	2
	#分散システム概論	2	2	2
	#通信ネットワーク工学	2	2	2
	#コンピュータネットワークプロトコル	2	2	2
	#情報情報処理	2	2	2
	#半導体電子工学 情報工学	2	2	2
	#コンピュータ構成工学	2	2	2
	#システム計測工学	2	2	2
	#システム制御概論	2	2	2
	#システム制御工学	2	2	2
	#システム制御工学 (専門選択科目小計)	26	8	18
合計	46	20	26	
合計	(専門必修科目小計)	82	40	42
	(専門基礎必修科目小計)	82	40	42
	(専門必修科目小計)	82	40	42
	(専門基礎必修科目小計)	82	40	42

専攻科修得単位数 6.6単位以上修得  
【必修4.4単位(教養科目1.6単位、専門基礎科目8単位、専門科目2.0単位)、選択2.2単位以上(専門基礎科目2単位以上、専門科目2.0単位以上、ただし総合科目(印)を4単位以上修得すること)】

科目一覧表：令和5年度入学【専攻科】

別表第3 (第3.3条関係) 環境建設工学専攻開設科目

区分	授 業 科 目	単位数	学年別開設単位数	
			1年	2年
教 養 科 目	日 本 語 表 現 法 法	2	2	2
	科 学 英 語 表 現 法 法	2	2	2
	技 術 者 の 倫 理 論	2	2	2
	国 際 比 較 文 化 論	2	2	2
	総 論 合 英 語 論	2	2	2
	経 営 管 理 論	2	2	2
	安 全 工 学 概 論	2	2	2
	安 全 工 学 概 論 (教養必修科目小計)	16	8	8
	経 営 学 話	2	2	2
	英 語 会 話 (教養必修科目小計)	4	4	4
専 門 基 礎 科 目	( 教 養 選 択 科 目 小 計 )	20	8	12
	一 般 化 学	2	2	2
	物 理 学	2	2	2
	生 命 学	2	2	2
	環 境 建 設 工 学 専 攻 英 語 講 義 (専門基礎必修科目小計)	8	6	2
	応 用 学 統 計 学	2	2	2
	工 学 解 析 学	2	2	2
	情 報 理 学	2	2	2
	Engineering Mathematics	2	2	2
	( 専 門 基 礎 選 択 科 目 小 計 )	16	12	4
専 門 科 目	イ ン タ ー シ ョ ン プ	6	6	6
	環 境 建 設 工 学 専 攻 総 合 実 験	2	2	2
	建 設 プ ロ グ ラ ム シ ョ ン グ	2	2	2
	環 境 建 設 工 学 専 攻 総 合 演 習	2	2	2
	応 用 研 究	2	2	2
	特 別 研 究	6	6	6
	( 専 門 必 修 科 目 小 計 )	20	12	8
	# 耐 震 工 学	2	2	2
	# 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 特 論	2	2	2
	構 造 設 計 論	2	2	2
維 持 管 理 工 学	2	2	2	
社 算 工 学	2	2	2	
土 質 力 学	2	2	2	
建 築 生 産 論	2	2	2	
# 耐 震 基 礎 構 造 学	2	2	2	
水 理 学	2	2	2	
応 用 水 理 学	2	2	2	
# 環 境 シ ス テ ム 工 学	2	2	2	
# 住 宅 計 画 学	2	2	2	
# 都 市 環 境 計 画 学	2	2	2	
# 建 築 設 計 計 画 学 (専門選択科目小計)	28	12	16	
( 専 門 選 択 科 目 小 計 )	48	24	24	
合 計		84	44	40

専攻科修得単位数 66単位以上修得  
 専攻科必修単位数 66単位以上修得  
 【必修44単位(教養科目16単位、専門基礎科目8単位、専門科目20単位)、選択2単位以上(専門基礎科目2単位以上、専門科目20単位以上、ただし総合科目(＃印)を4単位以上修得すること)】

別表第4 (第3.7条関係)

修了に必要な単位数等

区 分	機械制御工学専攻		情報電子工学専攻		環境建設工学専攻	
	開設単位	修得単位	開設単位	修得単位	開設単位	修得単位
履修科目						
教養科目						
必 修	16	16	16	16	16	16
選 択	4	0	4	0	4	0
専門基礎科目						
必 修	8	8	8	8	8	8
選 択	8	2	8	2	8	2
専門科目						
必 修	20	20	20	20	20	20
選 択	34	20 ※	26	20 ※	28	20 ※
合 計	90	66 以上	82	66 以上	84	66 以上

※ 専門科目(選択)は、総合科目(＃印)を4単位以上修得すること。

摘要(別表3・別表4)

令和5年4月 別表改正(令和5年度入学生から適用)

科目一覧表：令和5年度入学【専攻科】

附則別表第1 (第13条関係)  
一般科目

授業科目	単位数					学年別単位数					備考	
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年		
国語総合Ⅰ	4	4										
国語総合Ⅱ	4	4	2	2								外国人留学生除く
歴史	4	2	2									
倫理	2	2										
政治・経済	2	2										
哲学	2							2				外国人留学生除く
数学ⅠA	3	3										
数学ⅠB	3	3										
数学ⅡA	3											
数学ⅡB	3	3										
数学ⅢA	2							2				
数学ⅢB	2											
微積分Ⅰ	1	1						2				
微積分Ⅱ	1	1							1			
ベクトル・行列	1								1			
線形代数	1									1		ME, IE
ライプニッツ・アインシュタイン	2	2										CA
物理基礎	1	1										
物理Ⅰ	2	2										
物理Ⅱ	2	2						2				
応用物理	2								2			
化学基礎	2	2										
化学Ⅰ	1	1							1			
化学Ⅱ	1	1							1			
体育	8	2	2	2	2							
保健	1	1										
基礎英語	2	2										
基礎英語Ⅰ	3	3										
総合英語ⅠR	2	2										
総合英語ⅠW	2	2										
総合英語ⅡR	2	2						2				外国人留学生除く
総合英語ⅡW	1	1							1			外国人留学生除く
総合英語演習Ⅰ	2									2		
総合英語演習Ⅱ	1										1	
総合英語演習Ⅲ	3											
英会話	3	1							1			
日本語	6	4							2			外国人留学生科目
日本事情	2	2							2			ME, IE
履修単位数計	77	25	16	9	2				CA			
人文	1								1			
中国語	1								1			
歴史	1									1		
社会学	1									1		
人文社会特講	2									1		
ドバイ	3									2		
外国語特別演習	1										1	
中国語	3									2		
生物学	1									1		
※自然科学特講	1									1		
※応用物理学概論	3										3	
※応用物理学演習	1										1	
語学	2								2			
開設単位数計	22	2	2	15	9							
履修単位数計	5			3	2							
履修単位数合計	82	25	16	12	4							ME, IE
特別活動	3	1	1	1								CA

注① 4学年では人文・社会領域から2科目または外国語領域から1科目選択し、自然科学領域から1科目選択する。

ただし、応用物理学概論は、通年3単位、他科目は半期1単位で開講する。

② 5学年では人文・社会領域から2科目または、人文・社会領域、外国語領域からそれぞれ1科目選択する。ただし、ドイツ語及び中国語は4学年で履修した科目を継続する場合に限り選択することができる。

ME：機械電気工学科 IE：情報電子工学科 CA：土木建築工学科

附則別表第2 (第1.3条関係)  
機械電氣工学科  
専門科目

※印は学則第1.4条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
工作実習 I	2	2					
工作実習 II	2		2				当該学年までに修得
工学実習 I	1		1				
工学実習 II	1			1			
電気回路 I	1		1				
電子回路 I	2		2				
※ 電気磁気学	2			2			
材料力学 I	1		1				
水力学 I	1		1				
※ 熱力学 I	2			2			
※ 熱力学 II	3			3			
卒業研究	8				8		
履修単位数	26	2	2	6	8	8	
機械の基礎	1	1					
電気の基礎	1	1					
技術概論	1	1					
知的財産権	1		1				
※ 技術者倫理	1			1			
工業英語 I	1			1			
※ 工業英語 II	1			1			
※ 関数論	1			1			
※ 確率・統計	1			1			
※ フォトリソグラフィ	1			1			
※ コンピュータ基礎	1	1					
※ プログラミング基礎	2		2				
※ プログラミング応用	1		1				
※ 数値計算	1			1			
※ 電気回路 II	1			1			
※ 電子回路 II	1			1			
※ アクチュエータ	1			1			
※ 制御工学 I	1			1			
※ 制御工学 II	2				2		
※ 計測工学	2				2		
※ 加工機構学	1		1				
※ 工業力学 I	1			1			
※ 工業力学 II	1			1			
※ 機械力学 I	1			1			
※ 機械力学 II	1			1			
※ 計算力学 I	2			2			
※ 材料学 I	1			1			
※ 材料学 II	2			2			
※ 弾塑性論	1			1			
※ 水力学	1			1			
※ 熱力学	1			1			
※ 機械設計論 I	2				2		
※ 機械設計論 II	1				1		
※ 基礎設計製図 I	2	2					
※ 基礎設計製図 II	2		2				
※ 設計製図 I	1			1			
※ 設計製図 II	1			1			
※ 設計製図 III	1			1			
※ 創造演習 I	1		1				
※ 創造演習 II	1			1			
※ 創造製作	2		2				
※ コンピュータ制御	2			2			
※ 創造製作用 II	2			2			
履修単位数	55	7	7	12	15	14	

科目一覧表：令和4年度入学【本科】

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
総合実地演習 1	1		1				
総合実地演習 2	2		2				
校外実習 1	1			1			
校外実習 2	2			2			
※ 環境リサイクル論	1			1			
※ 一般物理	1			1			
※ 一般機械	1			1			
※ 一泊機械	1			1			
※ 伝熱工学	1			1			
※ 有限要素法	1			1			
※ 流体力学	1			1			
※ パンチャールビネズ論	1			1			
※ 特別講義 I	1			1			
※ 特別講義 II	1			1			
※ 海外研修	2				2		
※ 基礎電機電子工学	2			2			
※ 基礎機械工学	2			2			
※ 開設単位計	18		5	2	5	12	
※ 外国人留学生開設単位計	22		5	6	5	12	
※ 履修単位計	5			9	18	23	
※ 履修単位合計	86	9	9	18	23	27	
一般科目履修単位合計	82	25	25	16	13	3	
※ 専門科目履修単位合計	86	9	9	18	23	27	
※ 合計	168	34	34	34	36	30	

注① 総合実地演習1及び総合実地演習2は、重複して履修することができない。  
注② 校外実習1及び校外実習2は、重複して履修することができない。





附則別表第2 (第1.3条関係)  
専門科目

※印は学期第1.4条第2項に定める単位を示す。

令和4年度入学生用

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
測量実習	4		2	2			
工学デザイン基礎I	2	2					3学年までに修得
工学デザイン基礎II	2		2				
工学デザイン基礎III	2		2				
基礎工学実験	2		2				
力変形	1	1					
構造力学基礎	4		2	2			
築造工学	1		1				卒業までに修得
※技術者倫理	1				1		
※卒業研究	10					10	
履修単位計	29	3	6	8	1	11	
※土木工学デザインI	2			2			いずれかを卒業までに修得
※建築工学デザインI	2			2			いずれかを卒業までに修得
※土木工学デザインII	2			2			いずれかを卒業までに修得
※建築工学デザインII	2			2			いずれかを卒業までに修得
※土木創造演習	2		1	1			いずれかを卒業までに修得
※建築創造演習	2		1	1			いずれかを卒業までに修得
※土木工学実験I	1		1				いずれかを卒業までに修得
※建築工学実験I	1		1				いずれかを卒業までに修得
※土木工学実験II	1		1				いずれかを卒業までに修得
※建築工学実験II	1		1				いずれかを卒業までに修得
※土木CAD応用	1		1				いずれかを卒業までに修得
※建築CAD応用	1		1				いずれかを卒業までに修得
開設単位計	18				10	8	
履修単位計	9		5	4			
※構造力学	2		2				
※建築一般構造	1		1				
※鉄筋コンクリート工学	4			1			
※鋼構造工学I	1				1		
※地盤工学基礎	2		2				
※水理学基礎	2		2				
※建設材料	1		1				
※建設先端材料	1					1	
※西洋建築史	1		1				
※建築デザイン概論	1		1				
※建築計画I	2		2				
※都市計画	2		2				
※建設マネジメント	1				2		
※情報処理	5	2	1	2			
※CAD基礎	1				1		
※確率・統計	1				1		
※測量学I	2	2					
※測量学II	2	2					
履修単位計	32	6	3	10	11	2	

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
プレストレストコンクリート工学	1					1	
※鋼構造学II	1					1	
※メンブレン工学	1					1	
※振動と耐震	1					1	
※道路工学I	1				1		
※道路工学II	1					1	
※地盤工学	2					2	
※基礎構造学	1					1	
※水理学	2					2	
※河海工学I	1					1	
※河海工学II	1					1	
※水環境工学	1					1	
※火災学	1					1	
※建築材料	1					1	
※建築構造設計	2					2	
※建築計画II	2					2	
※日本建築史	1					1	
※近代建築史	1					1	
※建築環境工学	1					1	
※建築環境工学演習	1					1	
※建築環境学演習	2					2	
※土木法規	1					1	
※建築法規	1					1	
※土木施工法	1					1	
※建築施工法	1					1	
※建築施工法	1					1	
※応用プログラミング	1					1	
※測量学特論	1					1	
※特別講義	1					1	
※工学ゼミナール	1					1	
※校外実習I	1					1	
※校外実習II	2					2	
※海外研修	2					2	
※特別測量実習	2			2			外国人留学生科目
※特別測量学	2			2			外国人留学生科目
開設単位計	39			2	2	18	23
※外国人留学生開設単位計	43			2	6	18	23
履修単位計	16					7	9
履修単位合計	86	9	9	18	24	26	

一般科目履修単位合計	82	25	25	16	12	4
専門科目履修単位合計	86	9	9	18	24	26
合計	168	34	34	34	36	30

注 校外実習1及び校外実習2は、重複して履修することができない。

摘要(別表1・別表2)

令和4年4月 別表改正(令和4年度入学生から通用)  
令和5年4月 別表1のうち、「総合英語I」を「総合英語IR」と「総合英語IW」へ変更  
令和5年4月 別表1「語学研修」を追加、別表2各学科に「海外研修」を追加

附則別表第1 (第13条関係)  
一般科目

令和3年度入学生用

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語総合 I	4	4					
国語総合 II	4		2	2			
国史	4	2	2				外国人留学生除く
倫理	2	2					
政治・経済	2	2					
哲学	2		2				外国人留学生除く
数学 I A	3	3					
数学 I B	3	3					
数学 II A	3	3					
数学 II B	3	3					
数学 III A	2		2				
数学 III B	2		2				
微積分学 I	1			1			
微積分学 II	1			1			
※ベクトル解析	1			1			ME, IE
※線形代数	1			1			CA
サイロイエンス・アークサイエンス	2	2					
物理基礎 I	1	1					
物理基礎 II	2	2					
※応用物理学基礎	2	2					2
化学 I	1		1				
化学 II	1		1				
体育	8	2	2	2	2		
保健	1	1					
芸術	2	2					
基礎英語	3	3					
総合英語 I	4	4					
総合英語 II R	2	2					外国人留学生除く
総合英語 II W	1		1				
総合英語演習 I	2			2			外国人留学生除く
総合英語演習 II	1			1			
英会話	3		1	1	1		
日本語	6		4	2			外国人留学生科目
日本語	2		2				ME, IE
履修単位計	77	25	25	16	10	9	2
人文	1		1				
中国文学	1		1				
歴史	1		1				
心理学	1		1				
社会	1		1				
人文社会特講	2		1	1			
外国語特別演習	3		2	1			
英語特別演習	1		1				
中国語	3		2	1			
※生物	1		1				
※物理化学特講	1		1				
※自然科学特講	1		1				
※応用解析概論	3		3				
※応用数学演習	1		1				1
※語学研究	2		2				
開設単位計	22		2	15	9		
履修単位計	5		3	2			
履修単位合計	82	25	25	16	13	3	ME, IE
特別活動	3	1	1	1			CA

注① 4 学年では人文・社会領域から2科目または外国語領域から1科目選択し、自然科学領域から1科目選択する。

ただし、応用解析概論は、通年3単位、他科目は半期1単位で開講する。

② 5 学年では人文・社会領域から2科目または、人文・社会領域、外国語領域からそれぞれ1科目選択する。ただし、ドイツ語及び中国語は4 学年で履修した科目を継続する場合に限り選択することができる。

ME：機械電気工学科 IE：情報電子工学科 CA：土木建築工学科

附則別表第2 (第13条関係)  
機械電気学科  
専門科目  
※印は学則第14条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
工 作 実 習 I	2	2					当該学年 までに修得
工 作 実 習 II	2	2					
工 学 実 験 I	1		1				卒業まで に修得
工 学 セミナ一	1		1				
電 気 回 路 I	2		2				
電 磁 気 学 I	1		1				
材 料 力 学 I	1		1				
水 力 学 I	2		2				
熟 練 工 学 実 験 II	3		3				
卒 業 研 究	8				8	8	
履 修 単 位 計	26	2	2	6	8	8	
機 械 の 基 礎	1	1					
電 気 の 基 礎	1	1					
技 術 発 達 史 論	1	1					
知 的 財 産 権	1	1					
技 術 者 倫 理	1	1					
工 業 英 語 I	1	1					
工 業 英 語 II	1	1					
※ 備 考 学 分 論	1	1					
※ フーリエ変換	1	1					
※ コンピュータ基礎	1	1					
※ プログラミング基礎	2	2					
※ プログラミング応用	1	1					
※ 数 値 計 算	1	1					
※ 電 気 回 路 II	1	1					
※ 電 子 回 路 II	1	1					
※ アクチオエータ	1	1					
※ 制 御 工 学 I	1	1					
※ 制 御 工 学 II	2	2					
※ 計 測 工 学	2	2					
※ 加 工 機 構	1	1					
工 業 力 学	1	1					
※ 機 械 力 学 I	1	1					
※ 機 械 力 学 II	1	1					
※ 算 術 学	2	2					
※ 材 料 学 I	1	1					
※ 材 料 学 II	2	2					
※ 弾 性 論	1	1					
※ 水 力 学	1	1					
※ 熱 機	1	1					
※ 機 械 設 計 論 I	2	2					
※ 機 械 設 計 論 II	1	1					
※ 基 礎 設 計 製 図 I	2	2					
※ 基 礎 設 計 製 図 II	2	2					
※ 設 計 製 図 I	1	1					
※ 設 計 製 図 II	1	1					
※ 設 計 製 図 III	1	1					
※ 創 造 演 習 I	1	1					
※ 創 造 演 習 II	1	1					
※ 創 造 製 作 I	2	2					
※ コンピュータ制御	2	2					
※ 創 造 製 作 II	2	2					
履 修 単 位 計	55	7	7	7	12	15	14

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
総 合 実 地 演 習 1	1	1					
総 合 実 地 演 習 2	2	2					
校 外 実 習 1	1				1		
校 外 実 習 2	2				2		
※ 環 境 リサイク ル 論	1					1	
※ 一 般 物 理	1					1	
※ 機 能 材 料	1					1	
※ 夕 一 宗 機 械	1					1	
※ 伝 熱 工 学	1					1	
※ 有 限 要 素 法	1					1	
※ 流 体 力 学	1					1	
※ ベンチヤーマシナース論	1					1	
※ 特 別 講 義 I	1					1	
※ 特 別 講 義 II	1					1	
※ 海 外 研 究 修	2				2		
※ 基 礎 電 気 電 子 工 学	2					2	
※ 基 礎 機 械 工 学	2					2	
開 設 単 位 計	18				3	2	5
外 国 人 留 学 生 開 設 単 位 計	22				3	6	5
履 修 単 位 計	5	9	9	18	23	27	
履 修 単 位 合 計	86	9	9	18	23	27	

一般科目履修単位合計	82	25	25	16	13	3
専門科目履修単位合計	86	9	9	18	23	27
合 計	168	34	34	34	36	30

注① 総合実地演習1及び総合実地演習2は、重複して履修することができない。  
 ② 校外実習1及び校外実習2は、重複して履修することができない。

附則別表第2 (第1.3条関係)  
情報電子工学科  
専門科目

令和3年度入学生用

※印は学則第1.4条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
基礎電気回路	2	2					
基礎コンピュータ工学	2	2					
コンピュータの基礎知識	1	1					
基礎プログラミングI	1	1					
基礎プログラミングII	1	1					
基礎プログラミング演習	1	1					
電子工学実験	4		4				
※コンピュータシステム実験	4		4				
※創造演習	1		1				
※創造製作	1		1				
※電子情報通信システム実験	2		2				
※卒業研究	10			10			
履修単位数	30	8	4	5	13		
電気数	1	1					
集合と論理	1	1					
知的財産論	1	1					
情報数学	2		2				
※フーリエ・ラプラス変換	1		1				
確率	1		1				
※線形代数	1		1				
※情報理論	2		2				
※デジタル信号処理	1		1				
電磁気学	2		2				
※電磁気学	1		1				
※情報システムと技術者倫理	1		1				
電気回路	2		2				
電測工学	2		2				
アナログ回路	2		2				
デジタル回路	2		2				
※情報通信工学	2		2				
※デジタル回路応用	1		1				
コンピュータ演習	1	1					
コンピュータ工学	2	2					
プログラミング	2	2					
プログラミング言語	1	1					
コンピュータシステム概論	1		1				
アルゴリズムとデータ構造	2		2				
システムプログラミングI	1		1				
※システムプログラミングII	1		1				
※システムプログラミングIII	2		2				
※ソフトウェア工学	2		2				
※ソフトウェア工学	2		2				
※オペレーティングシステムI	1		1				
※オペレーティングシステムII	1		1				
※ネットワークアーキテクチャ	2		2				
※ネットワークアーキテクチャ	1		1				
※英語講義	2		2				
※英語講義	1		1				
履修単位数	51	11	9	14	19	8	

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
※集積回路設計I	2					2	
※集積回路設計II	1					1	集積回路設計Iを履修していること
※画像工学	2					2	
※言語処理	2					2	
※ソフトウェア指向プログラミング	1					1	
※コンピュータグラフィックス	2					2	
※知的情報処理	2					2	
※システム数理工学	2					2	
※校外実習1	1				1	2	
※校外実習2	1				1	2	
※海外研修	2				2	2	
※海外研修	2				2	2	外国人留学生科目
※ソフトウェア演習	2				2	2	外国人留学生科目
※ソフトウェア演習	2				2	2	外国人留学生科目
開設単位数	19				5	16	
外国人留学生開設単位数	23				6	16	
履修単位数	5				5	5	
履修単位数合計	86	9	9	18	24	26	

一般科目履修単位数合計	82	25	25	16	13	3
専門科目履修単位数合計	86	9	9	18	24	26
合計	168	34	34	34	37	29

注 校外実習1及び校外実習2は、重複して履修することができない。

附則別表第2 (第1.3条関係)  
専門科目  
土木建築工学科  
※印は学則第1.4条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
測量実習	4		2	2			3学年までに修得
工学デザイン基礎Ⅰ	2	2					
工学デザイン基礎Ⅱ	2		2				
工学デザイン基礎Ⅲ	2			2			
基礎工学実験	2		2				
力と変形	1	1					
構造力学基礎	4		1	3			
技術者倫理	1				1		
工学デザインⅠ	2				2		
工学デザインⅡ	2				1	2	
創造演習	2				1	1	
工学実験Ⅰ	1				1	1	
工学実験Ⅱ	1				1	1	
卒業研究	8					8	
履修単位計	34	3	5	9	4	13	
構造力学	2				2		
建築一般構造	1			1			
鉄筋コンクリート工学	2				2		
鋼構造学Ⅰ	1				1		
建築構造設計	2					2	
地盤工学基礎	2				2		
基礎工学	2					2	
水理工学基礎	2					2	
建築先端材料	1	1					
西洋建築史	1		1				
建築デザイン概論	1	1					
建築計画Ⅰ	2					2	
都市計画	2					2	
建設マネジメント	1					1	
情報処理	5	2	1	2			
CAD基礎	1			1			
CAD応用	1				1		
確率・統計	1					1	
測量学Ⅰ	2		2				
測量学Ⅱ	2			2			
測量学Ⅲ	1				1		
測量学特論	1					1	
履修単位計	38	6	4	10	12	6	

令和3年度入学生用

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
プレストレストコンクリート工学	1					1	
※ 構造学Ⅱ	1					1	
※ 鋼構造工学	1					1	
※ 道路工学Ⅰ	1				1		
※ 水道工学Ⅰ	2				2		
※ 河海工学Ⅰ	1				1		
※ 環境衛生工学	1				1		
※ 水環境工学	1				1		
※ 建築材料	1				1		
※ 建築計画Ⅱ	2				2		
※ 日本建築史	1				1		
※ 近代建築	1				1		
※ 建築環境工学演習	1				1		
※ 建築環境工学演習	2					2	
※ 土木法	1				1		
※ 建築法規	1				1		
※ 土木施設工法	1				1		
※ 建築工法	1				1		
※ 応用プログラミング	1				1		
※ 特別講義	1				1		
工学七ミサ一	1				1		
校外実習Ⅰ	2				2		
校外実習Ⅱ	2				2		
海外研修	2				2		
特別測量実習	2				2		
特別測量学	2				2		
※ 開校単位計	33					33	
※ 外国人留学生開設単位計	37					37	
※ 外国人留学生開設単位計	14					14	
履修単位計	86	9	9	19	23	26	

選択科目

一般科目履修単位合計	82	25	25	16	12	4
専門科目履修単位合計	86	9	9	19	23	26
合計	168	34	34	35	35	30

注 校外実習1及び校外実習2は、重複して履修することができない。

摘要 (別表1・別表2)

令和3年4月 別表改正 (令和3年度入学生から適用)  
令和4年4月 別表1のうち、「総合英語Ⅱ」を「総合英語ⅡR」と「総合英語ⅡW」へ変更  
令和5年4月 別表1「語学研修」を追加、別表2各学科に「海外研修」を追加

科目一覧表：令和3年度入学【本科】

附則別表第1（第13条関係）  
一般科目

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語総合Ⅰ	4	4					
国語総合Ⅱ	4	4	2	2			外国人留学生除く
歴史	4	2	2				
倫理	2	2					
政治・経済	2	2					
哲学	2		2				
数学ⅠA	3	3					
数学ⅠB	3	3					
数学ⅡA	3	3					
数学ⅡB	3	3					
数学ⅢA	2		2				
数学ⅢB	2		2				
微分積分Ⅰ	1			1			
微分積分Ⅱ	1			1			
ベクトル解析	1			1			ME, IE
線形代数	1			1			CA
ライフライン・フーズサイエンス	2	2					
物理基礎	1	1					
物理Ⅰ	2	2					
物理Ⅱ	2		2				
応用物理基礎	2	2					
化学Ⅰ	1	1					
化学Ⅱ	1	1					
体育	8	2	2	2	2		
保健	1	1					
芸術	2	2					
基礎英語Ⅰ	3	3					
総合英語Ⅰ	4	4					
総合英語ⅡR	2	2		2			外国人留学生除く
総合英語ⅡW	1		1				
総合英語演習Ⅰ	2			2			
総合英語演習Ⅱ	1	1		1			
英会話	3	1	1	1			
日本語	6	4	2				外国人留学生科目
日本事情	2	2					外国人留学生科目
履修単位計	77	25	25	16	10	1	ME, IE
人文・社会科学	1			1			CA
歴史	1			1			
心理学	1			1			
人文社会特講	2			1	1		
小イイソツ	3			2	1		
英語特別演習	1				1		
中国語	3			2	1		
※生物化学	1			1			
※自然科学特講	1			1			
※応用科学概論	3			3			
※応用教員演習	1				1		
※語学研究	2			2			
開設単位計	22			15	9		
履修単位計	5			3	2		
履修単位合計	82	25	25	16	13	3	ME, IE
特別活動	3	1	1	1	12	4	CA

注① 4年では人文・社会領域から2科目または外国語領域から1科目選択し、自然科学領域から1科目選択する。  
ただし、応用科学概論は、通年3単位。他科目は半期1単位で開講する。  
② 5年では人文・社会領域から2科目または人文・社会領域・外国語領域からそれぞれ1科目選択する。ただし、トイソツ及び中国語は4年で履修した科目を継続する場合に限り選択することができる。

ME：機械電気工学科 IE：情報電子工学科 CA：土木建築工学科

附則別表第2 (第13条関係)  
機械電気学科  
専門科目  
※印は学則第14条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	令和2年度入学生用 学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
工 作 実 習 I	2	2					当該学年 までに修得
工 作 実 習 II	2	2					
工 学 実 験 I	1		1				卒業まで に修得
工 学 セミナ一	1		1				
電 気 回 路 I	2		2				
電 磁 気 学 I	1		1				
材 料 力 学 I	1		1				
水 力 学 I	2		2				
※ 熟 練 工 学 実 験 I	3		3				
※ 在 学 業 研 究	8				8	8	
履 修 単 位 計	26	2	2	6	8	8	
機 械 の 基 礎	1	1					
電 気 の 基 礎	1	1					
技 術 発 達 史 論	1	1					
知 的 財 産 権	1	1					
技 術 者 倫 理	1	1					
※ 工 業 英 語 I	1	1				1	
※ 工 業 英 語 II	1	1				1	
※ 開 率 数 論	1	1				1	
※ フ ー リ エ 変 換	1	1				1	
※ プ ロ グ ラ ム 基 礎	1	1				1	
※ プ ロ グ ラ ム 基 礎	2	2				2	
※ プ ロ グ ラ ム ミ ン グ 応 用	1	1				1	
※ 数 値 計 算	1	1				1	
※ 電 気 回 路 II	1	1				1	
※ 電 子 回 路 II	1	1				1	
※ ア ク チ ュ エ ー タ	1	1				1	
※ 制 御 工 学 I	1	1				1	
※ 制 御 工 学 II	2	2				2	
※ 計 測 工 学	2	2				2	
※ 加 工 機 構	1	1				1	
工 業 力 学	1	1				1	
※ 機 械 力 学 I	1	1				1	
※ 機 械 力 学 II	1	1				1	
※ 算 力 学 I	2	2				2	
※ 材 料 学 I	1	1				1	
※ 材 料 学 II	2	2				2	
※ 材 料 性 論	1	1				1	
※ 水 力 学	1	1				1	
※ 熱 機	1	1				1	
※ 機 械 設 計 論 I	2	2				2	
※ 機 械 設 計 論 II	1	1				1	
※ 基 礎 設 計 製 図 I	2	2				2	
※ 基 礎 設 計 製 図 II	2	2				2	
※ 設 計 製 図 I	1	1				1	
※ 設 計 製 図 II	1	1				1	
※ 設 計 製 図 III	1	1				1	
※ 創 造 演 習 I	1	1				1	
※ 創 造 演 習 II	1	1				1	
※ 創 造 製 作 I	2	2				2	
※ コ ン ピ ュ ー タ 制 御	2	2				2	
※ 創 造 製 作 II	2	2				2	
履 修 単 位 計	55	7	7	12	15	14	

科目一覧表：令和2年度入学【本科】

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
総合実地演習1	1		1				
総合実地演習2	2		2				
校外実習1	1				1		
校外実習2	2				2		
※ 環境リサイクナル論	1					1	
※ 一般物理解	1					1	
※ 機能材料	1					1	
※ 一夕示機械	1					1	
※ 伝熱工学	1					1	
※ 有限要素法	1					1	
※ 流体力学	1					1	
※ ベンチヤーパーシネズ論	1					1	
※ 特別講義I	1					1	
※ 特別講義II	1					1	
※ 海外研修	2					2	
※ 基礎電気電子工学	2					2	外国人留学生科目
※ 基礎機械工学	2					2	外国人留学生科目
開設単位計	18					3	5
外国人留学生開設単位計	22					3	4
履修単位計	5					9	18
履修単位合計	86	9	9	18	23	27	

一般科目履修単位合計	82	25	25	16	13	3
専門科目履修単位合計	86	9	9	18	23	27
合 計	168	34	34	34	36	30

注① 総合実地演習1及び総合実地演習2は、重複して履修することができない。  
 ② 校外実習1及び校外実習2は、重複して履修することができない。







附則別表第1 (第13条関係)  
一般科目

※印は学則第14条第2項に定める単位を示す。 平成31年度入学生用

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語総合Ⅰ	4	4					
国語総合Ⅱ	4		2	2			外国人留学生除く
歴史	4	2	2				
倫理	2	2					
政治・経済学	2	2					
数学ⅠA	3	3					
数学ⅠB	3	3					
数学ⅡA	3	3					
数学ⅡB	3	3					
数学ⅢA	2		2				
数学ⅢB	2		2				
微積分Ⅰ	1				1		
微積分Ⅱ	1				1		
ベクトル解析	1				1		ME, IE, CA
線形代数	1				1		CA
生物基礎	2	2					
物理基礎	1	1					
物理Ⅰ	2		2				
物理Ⅱ	2			2			
応用物理基礎	2	2					
化学Ⅰ	1	1					
化学Ⅱ	1	1					
体育	8	2	2	2	2		
保健	1	1					
芸術	2	2					
基礎英語Ⅰ	3	3					
総合英語Ⅰ	4	4					
総合英語ⅡR	2		2				外国人留学生除く
総合英語ⅡW	1		1				
総合英語演習Ⅰ	2			2			外国人留学生除く
総合英語演習Ⅱ	1			1			
総合英語演習Ⅲ	3	1	1	1			
英会話	6	2		4	2		外国人留学生科目 外国人留学生科目
日本語	2		2				外国人留学生科目 ME, IE, CA
履修単位数計	77	25	25	16	10	9	2 CA
人文	1				1		
中国語コミュニケーション	1				1		
歴史	1				1		
社会学	1				1		
心理学	1				1		
人文社会特講	2				1	1	
ドイツ	3				2	1	
英語特別演習Ⅰ	1				1		
英語特別演習Ⅱ	3				2	1	
外国語	3				2	1	
自然物理化学	1				1		
自然科学特講	1				1		
応用解析概論	3				3		
応用数学演習Ⅰ	1				1		
応用数学演習Ⅱ	2				2		
開設単位数計	22				13	9	
履修単位数計	5				3	2	
履修単位数合計	82	25	25	16	13	3	ME, IE, CA
特別活動	3	1	1	1			

注① 4学年では人文・社会領域から2科目または外国語領域から1科目選択し、自然科学領域から1科目選択する。

ただし、応用解析概論は、通年3単位、他科目は半期1単位で開講する。

② 5学年では人文・社会領域から2科目または、人文・社会領域、外国語領域からそれぞれ1科目選択する。ただし、ドイツ語及び中国語は4学年で履修した科目を継続する場合には限り選択することができる。

ME：機械電気工学科 IE：情報電子工学科 CA：土木建築工学科

附則別表第2 (第1.3条関係)  
専門科目  
機械電気工学科  
※印は学則第1.4条第2項に定める単位を示す。

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
製作実習Ⅰ	2	2					当該学年までに修得
工学実習Ⅱ	2	2					
工学実習Ⅰ	1		1				
工学セミナー	1			1			
電気回路Ⅰ	1		1				卒業までに修得
電子回路Ⅰ	2		2				
※電磁気学Ⅰ	2			2			
※材料力学Ⅰ	1		1				
※水力学Ⅰ	1		1				
※熱工学Ⅰ	2		2				
※工学実験Ⅱ	3		3				
卒業研究	8				8		
履修単位数	26	2	2	6	8	8	
機械の基礎	1	1					
電気の基礎	1	1					
技術発展史	1	1					
知的財産権	1		1				
技術者倫理	1			1			1
工業英語Ⅰ	1		1				
※工業英語Ⅱ	1			1			1
※関数	1			1			
※確率・統計	1			1			
※フーリエ変換	1			1			
※コンピュータ基礎	1			1			
※プログラミング基礎	2		2				
※プログラミング応用	1			1			
※数値計	1			1			1
※電気回路Ⅱ	1			1			
※電子回路Ⅱ	1			1			
※アークエレクトロニクスⅠ	1			1			
※制御工学Ⅰ	1			1			2
※制御工学Ⅱ	2						2
※計測工学	1			1			
※機械力学Ⅰ	1			1			
※機械力学Ⅱ	1			1			
※計算力学Ⅰ	1			1			
※材料学Ⅰ	2			2			
※材料学Ⅱ	2			2			
※弾塑性論	1			1			
※水力学Ⅱ	1			1			
※熱機例	1			1			
※機械設計論Ⅰ	2			2			
※機械設計論Ⅱ	1			1			
※基礎設計図Ⅰ	2		2				
※基礎設計図Ⅱ	2			2			
※設計図Ⅰ	1			1			
※設計図Ⅱ	1			1			1
※設計図Ⅲ	1			1			
※創造演習Ⅰ	1			1			
※創造演習Ⅱ	1			1			
※創造製作Ⅰ	2		2				
※創造製作Ⅱ	2			2			
※創造製作Ⅲ	2			2			
履修単位数	55	7	7	12	15	14	

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
総合実地演習Ⅰ	1	1					
総合実地演習Ⅱ	2		2				
校外実習Ⅰ	1				1		
校外実習Ⅱ	2				2		
※環境リサイクル論	1				1		
※一般物理	1				1		
※一般材料	1				1		
※一泊機械	1				1		
※伝熱工学	1				1		
※有限要素法	1				1		
※流体力学Ⅰ	1				1		
※ペナチヤージング	1				1		
※特別講義Ⅰ	1				1		
※特別講義Ⅱ	1				1		
※海外研究	2				2		
※基礎電気電子工学	2				2		
※基礎機械工学	2				2		
開設単位計	18		3		3	12	
外国人留学生開設単位計	22		3	4	3	12	
履修単位数	5	9	9	18	23	27	
履修単位数	86	9	18	23	27		

一般科目履修単位数合計	82	25	25	16	13	3
専門科目履修単位数合計	86	9	9	18	23	27
合計	168	34	34	34	36	30

注① 総合実地演習Ⅰ及び総合実地演習Ⅱは、重複して履修することができない。  
 ② 校外実習Ⅰ及び校外実習Ⅱは、重複して履修することができない。



附則別表第2 (第1.3系関係)  
土木建築工学科  
専門科目

※印は字即第1.4条第2項に定める単位を不す。

平成31年度入学生用

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
測量実習	4		2	2			
工学アライメント基礎Ⅰ	2	2					3学年までに修得
工学アライメント基礎Ⅱ	2		2				
工学アライメント基礎Ⅲ	2			2			
基礎工学実験	2		2				
力と変形	1	1					
構造力学基礎	4		1	3			
技術者倫理	1				2		1
工学デザインⅠ	2					2	
工学デザインⅡ	2						2
創造演習	2			1			1
工学実験Ⅰ	1				1		
工学実験Ⅱ	1					1	
卒業研究	8	3	5	9	4	13	
履修単位計	34	3	5	9	4	13	
※ 構造一般力学	2			2			
建築一般構造工学	1			1			
鉄筋コンクリート工学	2				2		
鋼構造工学	1				1		
※ 建築構造設計	2					2	
地盤工学基礎	2			2			
※ 基礎構造工学	1				2		
水理工学基礎	2			2			1
建設材料	1						
※ 建設先端材料	1						1
西造建築概論	1		1				
建築デザイン概論	1	1					
建築設計画Ⅰ	2						
建築設計画Ⅱ	2				2		
※ 建設マネジメント	1						1
情報処理	5	2	1	2			
C A D基礎	1			1			
C A D応用	1				1		
※ 確率統計	1					1	
測量学Ⅰ	2	2					
測量学Ⅱ	2		2				
※ 測量学Ⅲ	1					1	
測量学特	1						
履修単位計	38	6	4	10	12	6	

授業科目	単位数	学年別単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
プレストレストコンクリート工学	1						
※ 構造学Ⅱ	1					1	
※ 構造学Ⅲ	1						1
※ 橋梁工学Ⅰ	1						1
※ 道路工学Ⅰ	1				1		
※ 道路工学Ⅱ	2						2
※ 河海工学Ⅰ	1					1	
※ 河海工学Ⅱ	1						1
※ 環境衛生工学	1				1		
※ 建築材料	1					1	
※ 建築計画	2						2
※ 日本建築史	1						1
※ 近代建築史	1						1
※ 建築環境工学演習	1						1
※ 建築設計	2						2
※ 土木法規	1						1
※ 建築法規	1						1
※ 土木衛生工学	1						1
※ 建築衛生工学	1						1
※ 応用プログラミング	1						1
※ 工学概論	1						1
※ 校外実習Ⅰ	1						1
※ 校外実習Ⅱ	2						2
※ 海外実習	2						2
※ 特別測量実習	2						2
※ 特別測量実習	2						2
※ 開設単位計	33						15
※ 外国人留学生在留単位計	37						18
※ 履修単位計	74			4			15
※ 履修単位計	86	9	9	19	23	26	26

一般科目履修単位合計	82	25	25	16	12	4
専門科目履修単位合計	86	9	9	19	23	26
合計	168	34	34	35	35	30

注 校外実習1及び校外実習2は、重複して履修することができない。

附則別表第3 (第3.3条関係)  
機械制御工学専攻開設科目

区分	授業科目	学年別開設単位数	
		1年	2年
教養科目	日本語表現法	2	2
	科学英語表現法	2	2
	技術者の倫理	2	2
	国際比較文化論	2	2
	総合英論	2	2
	産業英語論	2	2
	経営管理	2	2
	安全工学概論 (教養必修科目小計)	16	8
	経営工学	2	2
	英語学会 (教養選択科目小計)	4	4
専門基礎科目	(教養科目小計)	20	8
	一般化学	2	2
	物理学	2	2
	生命科学	2	2
	機械制御工学専攻英語講読	2	2
	(専門基礎必修科目小計)	8	6
	応用統計学	2	2
	工学概論	2	2
	離散数学	2	2
	Engineering Mathematics (専門基礎選択科目小計)	8	4
専門科目	(専門基礎科目小計)	16	10
	インターネットシナプス	6	6
	機械制御工学専攻総合実験	2	2
	コンピュータ総合演習	2	2
	機械制御工学専攻総合演習	2	2
	応用研究	2	2
	特別研究	6	6
	(専門必修科目小計)	20	12
	弾性力学	2	2
	材料強度学	2	2
生体機械力学	2	2	
# 材料設計工学	2	2	
# 流体制御工学	2	2	
# 熱流体工学	2	2	
# CAE	2	2	
応用計測工学	2	2	
回路応用設計	2	2	
応用電磁気学	2	2	
電気電子工学	2	2	
電気電子工学特論	2	2	
情報工学特論	2	2	
# スマート制御工学	2	2	
# スマート設計工学	2	2	
# ロボット制御工学	2	2	
# 半導体電子工学	2	2	
(専門選択科目小計)	34	8	
合計	(専門必修科目小計)	20	12
	(専門選択科目小計)	16	10
	合計	36	22

専攻科修得単位数 6.6単位以上修得  
【必修4.4単位(教養科目1.6単位、専門基礎科目8単位、専門科目2.0単位)、選択2.2単位以上(専門基礎科目2単位以上、専門科目2.0単位以上、ただし総合科目(※印)を4単位以上修得すること)】  
※は、いずれかの学年で開設(隔年開講)

附則別表第3 (第3.3条関係)  
情報電子工学専攻開設科目

区分	授業科目	学年別開設単位数	
		1年	2年
教養科目	日本語表現法	2	2
	科学英語表現法	2	2
	技術者の倫理	2	2
	国際比較文化論	2	2
	総合英論	2	2
	産業英語論	2	2
	経営管理	2	2
	安全工学概論 (教養必修科目小計)	16	8
	経営工学	2	2
	英語学会 (教養選択科目小計)	4	4
専門基礎科目	(教養科目小計)	20	8
	一般化学	2	2
	物理学	2	2
	生命科学	2	2
	情報電子工学専攻英語講読	2	2
	(専門基礎必修科目小計)	8	6
	応用統計学	2	2
	工学概論	2	2
	離散数学	2	2
	Engineering Mathematics (専門基礎選択科目小計)	8	4
専門科目	(専門基礎科目小計)	16	10
	インターネットシナプス	6	6
	情報電子工学専攻総合実験	2	2
	コンピュータ総合演習	2	2
	情報電子工学専攻総合演習	2	2
	応用研究	2	2
	特別研究	6	6
	(専門必修科目小計)	20	12
	オートマトンと計算論	2	2
	情報論語処	2	2
# 分散システム概論	2	2	
# 通信ネットワーク工学	2	2	
# コンピュータネットワークプロトコル	2	2	
# 光情報処	2	2	
# 生体情報工学	2	2	
# 半導体電子工学	2	2	
# システム計測工学	2	2	
# メディア信号処	2	2	
# ファイナリティ制御概論	2	2	
# システム制御工学	2	2	
(専門選択科目小計)	28	10	
合計	(専門必修科目小計)	48	22
	(専門選択科目小計)	16	10
	合計	64	32

専攻科修得単位数 6.6単位以上修得  
【必修4.4単位(教養科目1.6単位、専門基礎科目8単位、専門科目2.0単位)、選択2.2単位以上(専門基礎科目2単位以上、専門科目2.0単位以上、ただし総合科目(※印)を4単位以上修得すること)】

附則別表第3 (第3.3条関係)  
環境建設工学専攻開設科目

区分	授 業 科 目	単位数		学年別開設単位数	
		1年	2年	1年	2年
教 養 科 目	日 本 語 表 現 法	2	2		
	科 学 英 語 表 現 法	2	2		
	技 術 者 の 倫 理	2	2		
	国 際 比 較 文 化 論	2	2		
	綜 合 英 語 論	2	2		
	経 営 管 理 論	2	2		
	安 全 工 学 概 論	2	2		
	( 教 養 必 修 科 目 小 計 )	16	8		
	英 語 会 話	2	2		
	( 教 養 選 択 科 目 小 計 )	4	4		
専 門 基 礎 科 目	( 一 ) 教 養 選 択 科 目 小 計 )	20	8	12	
	物 理 学	2	2		
	生 命 学	2	2		
	環 境 建 設 工 学 専 攻 英 語 講 義	2	2		
	( 専 門 基 礎 必 修 科 目 小 計 )	8	6		
	応 用 学 統 計 学	2	2		
	離 散 数	2	2		
	Engineering Mathematics	2	2		
	( 専 門 基 礎 選 択 科 目 小 計 )	8	4	4	
	( 専 門 基 礎 科 目 小 計 )	16	10	6	
専 門 科 目	イ ン タ ー シ ョ ン プ	6	6		
	環 境 建 設 工 学 専 攻 総 合 実 験	2	2		
	建 設 プ ロ グ ラ ム シ ョ ン グ	2	2		
	環 境 建 設 工 学 専 攻 総 合 演 習	2	2		
	応 用 研 究	2	2		
	特 別 研 究	6	6		
	( 専 門 必 修 科 目 小 計 )	20	12	8	
	# 耐 震 工 学	2	2		
	鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 特 論	2	2		
	構 造 設 計 論	2	2		
維 持 管 理 工 学	2	2			
社 算 工 学	2	2			
建 築 資 力 学	2	2			
# 建 築 生 産 論	2	2			
# 耐 震 基 礎 構 造 学	2	2			
水 理 学	2	2			
応 用 水 理 学	2	2			
# 環 境 シ ス テ ム 工 学	2	2			
# 住 宅 計 画 学	2	2			
# 都 市 環 境 計 画 学	2	2			
# 建 築 設 計 画 学	2	2			
( 専 門 選 択 科 目 小 計 )	28	12	16		
( 専 門 科 目 小 計 )	48	24	24		
合 計		84	42	42	

専攻科修得単位数 66単位以上修得  
 専攻科修得単位数 66単位以上修得  
 【必修44単位(教養科目16単位、専門基礎科目8単位、専門科目20単位)、  
 選択22単位以上(専門基礎科目2単位以上、専門科目20単位以上、  
 ただし総合科目(＃印)を4単位以上修得すること)】

附則別表第4 (第3.7条関係)

修了に必要 な 単 位 数 等

区 分	機械制御工学専攻		情報電子工学専攻		令和4年度入学生用 環境建設工学専攻	
	開設単位	修得単位	開設単位	修得単位	開設単位	修得単位
履修科目						
教養科目						
必 修	16	16	16	16	16	16
選 択	4	0	4	0	4	0
専門基礎科目						
必 修	8	8	8	8	8	8
選 択	8	2	8	2	8	2
専門科目						
必 修	20	20	20	20	20	20
選 択	34	20	28	20	28	20
合 計	90	66	84	66	84	66

※ 専門科目(選択)は、総合科目(＃印)を4単位以上修得すること。  
 摘要(別表3・別表4)  
 令和4年4月 別表改正(令和4年度入学生から適用)  
 令和5年4月 別表3機械制御工学専攻の学年別解説単位数の表示を改めた



# 規則・資料



- (6) 学年末休業  
2 前項第3号から第6号に規定する休業日の終始及び臨時の休業日は、校長がその都度定める。
- 第6条 授業開始の時刻は、校長が別に定める。
- 第3章 学科、学級数、入学定員及び職員組織  
(入学定員及び学級編制)  
第7条 学科、学級数、入学定員及び学級編制は、次のとおりとする。

学科	学級数	入学定員
機械電気工学科	1	40人
情報電子工学科	1	40人
土木建築工学科	1	40人

- 2 前項の規定にかかわらず、校長は、教育上有益と認めるときは、異なる学科の学生をもって学級を編制することができる。  
(学科における教育上の目的)  
第7条の2 学科における教育上の目的は、次の表に掲げるとおりとする。

学科	教育上の目的
機械電気工学科	コンピュータで制御する機械を設計・製作する技術者の育成
情報電子工学科	コンピュータ技術をベースに電子情報通信システムを設計・構築する技術者の育成
土木建築工学科	情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・施工する技術者の育成

- (図書館)  
第7条の3 本校に、図書館を置く。  
2 図書館に関する必要な事項は、別に定める。  
(テクノ・リフレクシユ教育センター)  
第7条の4 本校に、テクノ・リフレクシユ教育センターを置く。  
2 テクノ・リフレクシユ教育センターに関する必要な事項は、別に定める。  
(情報処理センター)  
第7条の5 本校に、情報処理センターを置く。  
2 情報処理センターに関する必要な事項は、別に定める。  
(職員組織)  
第8条 本校に、校長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及び技術職員を置く。  
2 職員の職務は、学校教育法その他関係規則の定めるところによる。  
第9条 本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。  
2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。  
3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。  
4 寮務主事は、校長の命を受け、学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。  
第10条 本校に、庶務、会計及び学生の厚生補導に関する事務を処理するため事務部を置く。  
第11条 前2条に規定するもののほか、本校の内部組織は、別に定めるところによる。

## 徳山工業高等専門学校学則（抄）

### 第1章 目的 (目的)

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和22年法律第26号）及び高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を養い、有為の人材を育成することを目的とする。

### 第1章の2 自己評価等 (自己評価等)

第1条の2 本校は、その教育水準の向上を図り、高等専門学校の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。  
2 前項の点検及び評価に関し、必要な事項は別に定める。  
3 本校は、第1項の点検及び評価の結果について、本校の職員以外の者による検証を行うよう努めるものとする。

4 前項の検証に関し、必要な事項は別に定める。  
(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第1条の3 本校は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に努めるものとする。  
2 前項の研修及び研究に関し、必要な事項は別に定める。  
(情報の積極的な提供)

第1条の4 本校は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。  
2 前項の情報の提供に関し、必要な事項は別に定める。

第2章 修業年限、学年、学期、休業日及び授業開始の時刻  
(修業年限)

第2条 修業年限は、5年とする。ただし、10年を超えて在学することはできない。  
(学年)

第3条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。  
(学期)

第4条 学年を分けて、前期と後期の2学期とする。  
2 前項に規定する学期の終始については、校長がその都度定める。

第5条 休業日は、次のとおりとする。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることがある。  
(休業日)

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 春季休業
- (4) 夏季休業
- (5) 冬季休業

#### 第4章 教育課程及び履修方法

##### (授業期間)

第12条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

##### (教育課程の編成)

第13条 教育課程は、授業科目及び特別活動により編成するものとする。

2 授業科目並びにその開設単位数及び履修単位数は、一般科目にあっては別表第1、専門科目にあっては別表第2のとおりとする。

3 特別活動は、第1学年から第3学年までの各学年30単位時間、計90単位時間実施する。

##### (単位の計算方法)

第14条 各授業科目の単位数は、30単位時間（1単位時間は、標準50分とする。）の履修を1単位として計算する。

2 前項の規定にかかわらず、本校が定める授業科目については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算することができる。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本校が定める時間の授業をもって1単位とする。

3 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計数は、60単位を超えないものとする。

4 前3項の規定にかかわらず、卒業研究の授業科目については、この学修の成果を評価して単位の修得を認定することが適切と認められる場合には、これに必要な学修を考慮して、単位数を定めることができる。

##### (授業の方法)

第14条の2 校長は、教育上有益と認めるときは、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

2 校長は、授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

3 校長は、第28条の規定により卒業の要件として修得すべき167単位のうち、前2項の規定により修得した単位を、本校における授業科目の履修により修得したものとみなし、30単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

4 第1項及び第2項に関し、必要な事項は別に定める。

##### (他の高等専門学校における授業科目の履修)

第14条の3 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校で履修した単位を履修することを認めることができる。

2 校長は、前項の規定により修得した単位を、本校における授業科目の履修により修得したものとみなし、60単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 前2項に関し、必要な事項は別に定める。

##### (高等専門学校以外の教育施設等における学修等)

第14条の4 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修をすることを認めることができる。

2 校長は、前項の規定による学修を本校における授業科目の履修とみなし、前条第2項により修得した単位数と合わせて60単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 第1項の規定は、学生が、外国の大学又は高等専門学校に留学する場合及び外国の大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数は、前条及び前項により本校における授業科目の履修により修得したものとみなし、60単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

4 第2項及び第3項に関し、必要な事項は別に定める。

##### (成績の評価)

第15条 各学年の課程の修了又は卒業を認めるにあたっては、学年の平素の成績を評価して行うものとする。

2 成績の評価及び課程修了の認定については、別に定めるところによる。

第16条 前条の認定の結果、原学年にとどめられた者は、当該学年に係る所定の授業科目及び特別活動を再履修するものとする。

#### 第5章 入学、転科、転学、退学、転学、留學、退學及び卒業

##### (入学資格)

第17条 本校に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 中学校を卒業した者

(2) 義務教育学校を卒業した者

(3) 中等教育学校の前期課程を修了した者

(4) 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(7) 就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定規則（昭和41年文部省令第36号）により、中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認定された者

(8) その他相当年齢に達し、本校が中学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

##### (入学者の選抜及び入学許可)

第18条 校長は、入学志望者について、学力検査の成績、出身学校の長から送付された調査書その他必要な書類等を資料として入学者の選抜を行う。

2 校長は、前項に定める選抜方法のほか、入学定員の一部について、出身学校の長の推薦に基づき、学力検査を免除し、調査書その他必要な書類を資料として入学者の選抜を行うことができる。

3 校長は、前2項の選抜の結果に基づき、第46条に規定する入学科を納付した者に対しては入学を許可する。ただし、入学科の免除又は徴収猶予の申請書を受理された者についてはこの限りでない。

##### (編入学)

第19条 第1学年の途中又は第2学年以上に入学を希望する者があるときは、その者が相当年齢に達し、当該学年に在学する者と同等以上の学力があると認められた場合に限り、前条の規定に準じて、相当学年に入学を許可することができる。

##### (入学手続)

## (目的)

第30条 専攻科は、工業高等専門学校等の高等教育機関において基礎的かつ実践的教育を受けた技術者に対し、さらに専門的な分野について精深な教授を行い、自ら新分野を開拓できる能力を有する実践力のある開発型技術者を育成することを目的とする。

(修業年限及び在学期間)

第31条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

(専攻及び入学定員)

第32条 専攻科の専攻及び入学定員は次のとおりとする。

専攻	入学定員
機械制御工学専攻	4名
情報電子工学専攻	4名
環境建設工学専攻	4名

(専攻における教育上の目的)

第32条の2 専攻における教育上の目的は、次の表に掲げるとおりとする。

専攻	教育上の目的
機械制御工学専攻	コンピュータで制御する機械を設計・開発する技術者の育成
情報電子工学専攻	コンピュータを核とする多様なシステムを設計・開発する技術者の育成
環境建設工学専攻	情報技術を活用し社会基盤や建築空間を設計・開発する技術者の育成

(教育課程)

第33条 専攻科の授業科目及びその単位数は、別表第3のとおりとする。

(入学資格)

第34条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができる者
- (4) 外国において学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- (6) 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (7) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学者の選抜及び入学の許可)

第35条 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜の上、入学を許可する。

(休学の期間)

第36条 専攻科学生の休学期間は、通算して2年を超えることができない。

第20条 入学を許可された者は、所定の期日までに保護者等と連署した誓約書及び校長が定めた書類を提出しなければならない。

2 前項の手続を終了しない者があるときは、校長は、その入学の許可を取り消すことができる。

(転科)

第21条 転科を希望する者があるときは、校長は選考の上、第3学年までに限り、学年の始めにおいて転科を許可することができる。

(休学)

第22条 学生は、疾病その他やむを得ない理由により、3か月以上継続して修学することができないときは、校長の許可を受けて、休学することができる。

第23条 休学の期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して5年を超えることができない。

第23条の2 休学の期間は、第2条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

(復学)

第24条 休学した者は、休学の理由がなくなつたときには、校長の許可を受けて、復学することができる。

(出席停止)

第25条 学生に伝染病その他の疾病のあるときは、校長は、出席停止を命ずることができる。

(退学及び再入学)

第26条 学生は、疾病その他やむを得ない理由により退学しようとするときは、校長の許可を受けて、退学することができる。

2 前項の規定により退学した者で、再入学を希望する者があるときは、校長は、選考の上相当学年に入学を許可することができる。

(他の学校への入学、転学、編入学)

第27条 他の学校に入学、転学又は編入学を希望する者は、校長の許可を受けなければならない。

(留学)

第27条の2 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 前項による留学期間に履修した授業科目について修得した単位の取り扱いは、第14条の2第2項の規定を準用する。

3 校長は、前項の規定により単位の修得を認定された学生について、学年の途中においても、各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。

4 前3項に関し、必要な事項は別に定める。

(卒業)

第28条 全学年の課程を修了し、167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）修得した者には、校長は、卒業を認定し、所定の卒業証書を授与する。

(称号)

第28条の2 本校を卒業した者は、準学士と称することができる。

第6章 専攻科

(設置)

第29条 本校に専攻科を置く。

(授業料等の免除及び徴収猶予)

- 第47条 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は風水害等の災害を受けた場合、その他やむを得ない事由により、入学料の納付が著しく困難であると認められる場合には、入学料の全額若しくは半額を免除することがある。
- 2 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、又は休学、死亡その他やむを得ない事情があると認められる場合には、授業料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を猶予することがある。
- 3 風水害等の災害を受けたことにより、寄宿料の納付が困難であると認められる場合には、寄宿料の全額を免除することがある。
- 4 前3項に関し必要な事項は別に定める。

(既納の授業料等)

- 第48条 納付済みの検定料、入学料、授業料及び寄宿料は、還付しない。
- 2 第42条第3項の規定により、前期分授業料納付の際、後期分授業料を併せて納付した者が、後期分授業料の徴収時期前に休学又は退学した場合には、前項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を還付する。
- 3 第42条第4項の規定により、入学を許可するときに授業料を納付した者が3月31日までに入学を辞退した場合には、第1項の規定にかかわらず、当該授業料を納付した者の申出により当該授業料に相当する額を還付する。
- 4 第45条第2項の規定により、寄宿料を納付した者が退寮した場合には、第1項の規定にかかわらず、納付した寄宿料のうち、退寮した日の属する月の翌月以降の寄宿料に相当する額を還付する。

## 第8章 学生準則及び賞罰

(学生準則)

第49条 学生は、この学則に定めるもののほか、別に定める学生準則その他の諸規則を遵守しなければならない。

(表彰)

第50条 表彰に値する行為のあった学生に対しては、これを表彰することがある。

(懲戒)

第51条 本校の規則に違反し、又は学生の本分に反する行為のあった学生に対し、校長は、教育上必要があるときはこれを懲戒する。懲戒は、訓告、停学及び退学とする。ただし、退学は次の各号の一に該当する者について行うものとする。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められた者
- (3) 正当な理由がなく出席常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(除籍)

第52条 次の各号の一に該当する者は、校長がこれを除籍する。

- (1) 死亡した者
- (2) 長期間にわたり行方不明の者
- (3) 第23条に規定する休学期間を超えてなお修学できない者
- (4) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (5) 第18条第3項に規定する入学料の免除又は徴収猶予の申請書を受理され、免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は半額免除若しくは徴収猶予を許可された者で、

2 休学の期間は、第31条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

(修了)

第37条 専攻科に2年以上在学し、別表第4に定める単位を66単位以上修得した者には、修了を認定する。

2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

3 第1項に規定する単位の修得については、別に定める。

(準用規定)

第38条 専攻科学生については、第3条から第6条、第12条、第14条の3から第15条、第22条、第24条から第27条の2、第40条から第52条の規程を準用する。この場合において、第14条の3第2項中「30単位」とあるのは「16単位」と第52条第3号中「第23条」とあるのは「第36条」と読み替えるものとする。

(その他)

第39条 本章に定めるもののほか、専攻科に関する必要事項は、別に定める。

## 第7章 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

(検定料)

第40条 入学を志望する者は、願書提出と同時に検定料を納付しなければならない。

(入学料)

第41条 入学する者は、入学届提出と同時に入学料を納付しなければならない。

(授業料)

第42条 学生は、授業料を前期及び後期の2期に区分して納付するものとし、それぞれの期において納付する額は、年額の2分の1に相当する額とする。

2 前項の授業料は、前期にあつては4月、後期にあつては10月に納付するものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、学生の申出があつたときは、前期に係る授業料を納付するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて納付することができる。

4 入学年度の前期又は後期に係る授業料については、第1項及び第2項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があつたときは、入学を許可されるときに納付することができる。

第43条 学年の中途において入学した者が、前期又は後期において納付する授業料の額は、授業料の年額の12分の1に相当する額に入学の日の属する月から次の納付の時期前までの月数に乗じて得た額とし、入学の日の属する月に納付するものとする。

第44条 学年の中途で退学する者は、退学する日の属する時期が前期であるときは、授業料の年額の2分の1に相当する額の授業料を、退学する日の属する時期が後期であるときは、授業料の年額に相当する額の授業料をそれぞれ納付するものとする。

(寄宿料)

第45条 学寮に入寮する学生は、入寮した日の属する月から退寮する日の属する月までの間、毎月寄宿料を納付するものとする。ただし、休業期間中の分は、休業期間前に徴収できるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、学生の申し出又は承諾があつたときは、当該年度内に徴収する寄宿料の額の総額の範囲内で、その申し出又は承諾に係る額を、その際徴収することができるものとする。

(検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額)

第46条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則に定められた額とする。

所定の期日までに入学料を納付しない者

#### 第9章 学寮

(学寮)

第53条 本校に学寮を設ける。

2 学寮の運営その他必要な事項は別に定める。

第10章 研究生、聴講生及び科目等履修生

(研究生)

第54条 特定の研究あるいは専門事項の研究を希望する者があるときは、校長は、本校の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生に関し、必要な事項は別に定める。

(聴講生)

第55条 一般科目及び専門科目の中の一又は複数の授業科目について聴講を希望する者があるときは、校長は、本校の教育に支障のない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

2 聴講生に関し、必要な事項は別に定める。

(科目等履修生)

第55条の2 一般科目及び専門科目の中の一又は複数の授業科目を履修し単位の修得を希望する者があるときは、校長は、本校の教育に支障のない場合を除き、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 校長は、科目等履修生として授業科目を履修した者に対し、単位の修得を認定することができる。

3 科目等履修生に関し、必要な事項は別に定める。

第11章 外国人留学生

(外国人留学生)

第56条 高等専門学校に入学することを目的として入国を許可された者で、本校に外国人留学生として編入学を希望する者の入学、教育課程その他に関する特例については、別に定める。

第12章 公開講座

(公開講座)

第57条 教育・研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の教育文化の向上に資することを目的として、本校に公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関する必要事項は、別に定める。

附 則

この学則は、昭和49年6月7日から施行し、昭和49年4月1日から適用する。

(略)

附 則 (令和4年3月10日一部改正)

1 この学則は、令和4年4月1日から適用する。  
2 令和4年4月1日前に在学している者にかかる、第13条関係の教育課程については附則別表に定めるとおりとする。

附 則 (令和4年9月7日一部改正)

この学則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則 (令和5年3月1日一部改正)

1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。

2 令和5年4月1日前に在学している者にかかる教育課程については附則別表に定めるとおりとする。

#### ※規則別表については、本冊子に掲載のため省略

## 徳山工業高等専門学校教務規則（抄）

- 第1条 本校の教務に関しては、学則その他別に定めるもののほかこの規則による。  
(欠席等の取扱い)
- 第2条 欠席等は次の場合をいう。
- (1) 欠席とは、出席すべき日に出席しない場合
  - (2) 欠課とは、各授業時間に20分以上欠いた場合
  - (3) 遅刻とは、各授業時間に20分未満遅れた場合
  - (4) 早退とは、20分未満各授業時間の中で退出した場合
  - (5) 忌引とは、学生準則第15条に定められた場合
- 第3条 欠席等の特殊な取扱いについては、次の各号のとおりとする。
- (1) 災害、交通事故、その他不可抗力的理由による欠席等は、その事実が確認された場合に限り、本人の手続きをまわって出席の取扱いとする。
  - (2) 対外試合出場及び就職事務その他特に認められたものについては、所定の手続きを経て校長の許可があった場合に限り、公認の欠席として出席の取扱いをする。
  - (3) 公傷と認められた場合の欠席等は、所定の手続きを経て出席の取扱いとすることができ。
  - (4) 遠隔授業が認められた場合については別に定める。
  - (5) 学則第25条による出席停止及び忌引は、公認の欠席として出席の取扱いをする。(試験)
- 第4条 定期試験は、前期末及び学年末に実施し、中間試験は、学期の中間に実施する。
- 第5条 定期試験又は中間試験を受けなかった者で、その理由がやむを得ないと認められた者に対しては、追試験を行うことができる。
- 2 学則に定める履修した科目が修得できなかった者に対して、原則として再試験を行う。  
(履修単位・学修単位)
- 第6条 「履修単位」とは学則第14条第1項に定める単位をいい、「学修単位」とは同条第2項に定める単位をいう。
- 2 本校が定める学修単位の授業時間数は、次の各号の基準により単位数を計算する。
- (1) 講義及び演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
  - (2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。  
(履修)
- 第7条 出席時数が年間授業時数の2/3以上の科目については、当該科目を履修したものと認定する。
- 2 履修と認定された科目について学年評価を行う。
- 第8条 学期又は学年における学業成績は、その期間中の試験成績及び学習状況等を

総合して評価する。

第9条 評価は、優・良・可・不可をもって、次の評点区分による。

優	80点～100点
良	70点～79点
可	60点～69点
不可	0点～59点

- 2 各科目毎に欠課時数が授業時数の1/5をこえる者の学年評価は原則として不可の評価とする。
- 3 Grade Point Average (以下「GPA」という。)により学業成績を評価する場合については、別に定める。
- 4 外部機関へ提出する学業成績に関する証明書については、当該機関が指定する評価区分がある場合は、指定された評価区分によって証明書を作成することができる。
- 第10条 やむを得ないと認められる理由により試験を受けられなかった者については、平常成績、出席状況及び他の学期の成績等を考慮して評価することができる。
- 第11条 答案を提出しなかった者、又停学中のため試験を受けることができなかった者の当該時間の試験成績は、0点とする。
- 2 試験中不正行為をした者に対しては、当該時間以後の試験を受けさせず、又その試験期間の全科目の試験成績は、0点とする。  
(課程の修了)
- 第12条 各学年における課程の修了の認定は、修了認定会議において審議のうえ、校長が行う。
- 2 次の各号のすべてに該当する者は、原則として課程の修了を認める。
- (1) 学則に定める当該学年の所定の科目をすべて履修している者。
  - (2) 各学年末における累積不可単位数が10単位以内の者。  
ただし、第5学年については修得した単位数の合計が167単位以上（そのうち、一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする。）であること。  
累積不可単位数とは、当該学年までに履修すべき単位数から当該学年までに修得した単位数を差し引いた単位数をいう。
  - (3) 学年評価における全科目の平均点が50点以上である者。
  - (4) 第3学年以下については、特別活動を履修した者。
  - (5) 学則に定める必修科目を修得した者。
  - (6) 欠席日数が原則として年間25日以内の者。ただし、遅刻及び早退2回を欠課1時間に、欠課8時間を欠席1日に換算して取扱う。
- 3 学則に定める単位数をこえて修得した選択科目の単位数は、一般科目は一般科目の不可単位数を、専門科目は専門科目の不可単位数をそれぞれ補うことができる。  
(留年)
- 第13条 学年の課程修了を認定されない者は、原学年に留まる。この場合において、原学年で修得した単位はすべて無効の扱いとなり、原学年の課程の再履修を必要とする。  
ただし、特別に認められた科目については単位の修得を認め、再履修を免除する



ことができるものとする。

2 原学年に留まった者が、当該学年の単位が認定される前に学籍を離れることとなった場合は、前項で無効とした直近の取扱いを解除するものとする。

(卒業)

第14条 卒業の認定は、卒業認定会議において審議のうえ、校長が行う。

2 第5学年までの各学年の課程を修了した者で、授業科目を167単位以上（一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上とする。）修得した者は、原則として卒業を認める。

(補則)

第15条 この規則の実施について、必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、昭和50年4月1日から施行する。

(略)

附 則 (平成29年12月14日一部改正)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年2月8日一部改正)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (令和2年6月11日一部改正)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (令和2年6月11日一部改正)

この規則は、令和2年6月11日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則 (令和3年2月25日一部改正)

1. この規則は、令和3年2月25日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

2. 令和2年度に限り、各学年における課程の修了は、規則第12条第2項第2号における累積不可単位数から、50点以上60点未満であった令和2年度開設科目の単位数を差し引いて認定することができるものとする。

3. 令和2年度に限り規則第13条第3項は適用しないことができる。

附 則 (令和4年3月10日一部改正)

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

## GPAの算出に関する内規

徳山工業高等学校教務規則第9条第3項及び、徳山工業高等学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程第9条第2項の Grade Point Average (以下「GPA」という。)により学業成績を評価する場合の取扱いについては次のとおり定める。

- 1 GPAの計算は学年末に行い、当該学年のGPA(学年GPA)及びそれまでの通算のGPA(通算GPA)を計算する。
- 2 GPAの計算対象となる授業科目は、本科においては学則第13条第2項、専攻科においては学則第33条に定めるもののみとする。

3 各授業科目の評点、評語及びGrade Point (以下「GP」という。)は、次の区分による。

評点	評語	GP
90点～100点	A	4.0
80点～89点	B	3.0
70点～79点	C	2.0
60点～69点	D	1.0
0点～59点	F	0.0

4 GPAは、次の方法で計算する。

$$GPA = \frac{\text{履修した各科目の単位数} \times GP \text{の総和}}{\text{履修した科目の単位数の総和}}$$

5 外部機関へ提出する学業成績に関する証明書については、当該機関が指定する評価区分がある場合は、指定された評価区分によって証明書を作成することができる。

附 則

この内規は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年3月10日から施行する。

## 再試験に関する内規

教務規則第5条第2項の再試験について次のとおり定める。

- 1 再試験は、不可科目及び第5学年における60点未満の科目をもつ者に対して行う。
- 2 再試験による成績評価の最高は、60点とする。
- 3 再試験を受けようとする者は、科目担当教員の指示を受け、再試験受験願を教務係に提出しなければならない。
- 4 試験に関わる不正行為を行った者に対して、不正行為を行った科目については直後の再試験は行わない。
- 5 再試験受験願の提出及び成績報告は、下表の期日を目安とし、その日程は別途通知する。実施期間は受験願の受付開始日から成績報告期限の日までとする。また、再試験による単位の認定については、下表により行う。

在籍学年	再試験科目	受験願受付期間	成績報告期限	単位の認定
全学年	入学時から課程の修了を認められた学年までの全科目	学年修了認定会議終了後～4月末日	10月末日	教務委員会の議を経て校長が認定する

6 前項までに定めるもののほか、第5学年で、第1項に該当する者に対して、次に定めるところにより再試験を行う。

- (1) 再試験受験願の提出及び成績報告は、下表の期日を目安とし、その日程は別途通知する。また、再試験による単位の認定については、下表により行う。

在籍学年	再試験科目	受験願受付期間	成績報告期限	単位の認定
第5学年	第5学年の前科目	8月末日	10月末日	学年修了認定会議の議を経て校長が認定する
	第1学年～第5学年までの全科目	2月末日	3月初旬	卒業認定会議の議を経て校長が認定する

(2) 再試験を受けようとする者は、第3項により再試験受験願を教務係に提出しなければならない。ただし、過去に再試験の受験機会があった科目については、科目担当教員に受験の許可を得たうえで、再試験受験願を教務係に提出しなければならない。

附 則

この内規は、昭和50年4月1日から施行する。

(中 略)

附 則 (平成26年11月25日一部改正)

この内規は、平成27年2月1日から施行する。ただし、平成26年度第5学年の者については、なお従前の例による。

別紙様式1

### 徳山工業高等専門学校履修の特例に関する内規

教務規則（以下「規則」という。）第13条第1項後段ただし書きの取扱いについては、この内規の定めるところによる。

規則第13条第1項の規定により原学年に留められた者の取扱いについては、次の各号に定めるところによる。

- (1) 第1学年、第2学年及び第3学年に留められた者については、原学年の全科目及び特別活動を再履修すること。
- (2) 第4学年及び第5学年に留められた者については、原学年の全科目を再履修すること。ただし、再履修免除願（別紙様式1）を提出し許可された者については、別表に定める基準を満たす科目について卒業研究を除き単位の修得を認め、再履修を免除することができる。

#### 附 則

この内規は、平成15年4月1日から施行する。

#### 別 表

第4学年及び第5学年に留められた者に係る原学年における科目の単位修得認定基準

科 目	認 定 基 準
講 義 科 目	学年末評価において70点以上の評価を得たもの
実験、実習及び演習科目	学年末評価において80点以上の評価を得たもの

再 履 修 免 除 願

年 月 日

徳山工業高等専門学校長 殿

学科 学年

氏 名 (自署)

保護者氏名 (自署)

年度の下記授業科目の再履修を免除していただきたく、ご許可くださるようお願いいたします。

#### 記

授 業 科 目	必 修 ・ 選 択 の 別	単 位 数	※ 認 定 の 別

## 外部修得単位及び資格取得等による学修に係る 単位修得の認定に関する規則（抄）

（趣 旨）

第1条 徳山工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第14条の3及び第14条の4の規定に基づき、外部修得単位及び資格取得による学修（以下「特別学修」という。）に係る単位修得の認定に関し、必要な事項を定める。

（特別学修）

第2条 教育上有益と認める特別学修は別表「特別学修による単位の認定について」（以下「別表」という。）のとおりとする。

（特別学修の単位認定申請手続）

第3条 前条に規定する特別学修のいずれかにかに合格又は該当し、単位の認定を受けようとする者は、特別学修単位認定申請書（別紙様式1）及び証明書類を校長に提出するものとする。

ただし、別表で定める資格に2以上の教区分等がある場合、上位の資格の単位修得後は、当該資格の下位の資格の単位認定申請はできないものとする。

2 前項の申請は、原則として修得又は資格取得認定等の翌年（1月に要件が生じた場合は当年）の1月末までに行うものとする。ただし、第4条第1号に該当する特別学修は除く。

（特別学修の認定）

第4条 前条の規定による単位認定申請があった場合、校長は教務委員会の議に基づき、本校における授業科目等の履修とみなし、特別学修の認定を行う。

(1) 大学等の学修（eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育を含む）による外部修得単位の修得に係る認定単位数は、当該大学等が認定した単位数とし、認定科目は当該大学等が認定した授業科目とする。また、当該年度の履修単位数は10単位を上限とする。

(2) 資格取得に係る認定単位数及び認定科目は別表に記載のとおりとする。

(3) 特別学修の認定科目については、本校開設授業科目との科目振替は行わない。

（特別学修の単位の取扱）

第5条 前条の規定により認定された特別学修の単位の取り扱いについては、次のとおりとする。

(1) 進級認定及び卒業認定に算入できない特別学修の単位は、60単位を上限とする。

(2) 前条第1号のうちeラーニング高等教育連携に係る遠隔教育及び第2号により認定された単位については、10単位を上限とする。

(3) 特別学修の単位は、一般科目の選択科目単位又は専門科目の選択科目単位として取り扱う。

(4) 認定された特別学修の単位は、特例措置として、原学年に留められた者も単位として認める。

（成績評価）

第6条 認定された特別学修に係る成績の評価は、「認定」とする。

（指導要録等の記載）

第7条 第4条の規定により特別学修を認定された場合、指導要録等の授業科目欄の記載については、特別学修認定科目を記載し、成績評価欄には、「認」と記載する。

（その他）

第8条 この規則によりがたい場合は、その都度教務委員会の議を経て、校長が定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

（略）

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和5年2月8日一部改正）

この規則は、令和5年2月8日から施行し、令和4年10月1日から適用する。

附 則（令和5年3月9日一部改正）

この規則は、令和5年4月1日から適用する。令和5年4月1日前に入学した学生の、第4条第3号から第5号については、改正後の本規則の取り扱いによらず、なお従前の例とする。

別表 特別学修による単位の認定について

外部修得科目名 又は取得資格名等	認定科目名 (開設外科目)	認定 単位数	一般 科目	機 械 電 気	情 報 電 子	土 木 建 築	備 考
実用英語技能検定(英検)	種2級	1	○	○			
	種1級	2	○	○			上位級の単位のみの認定
	1級	3	○	○			
技術英語能力検定(技術英検)	2級	2	○	○			上位級の単位のみの認定
	1級	3	○	○			
	準プロ以上	3	○	○			
TOEIC	400~465	1	○	○			上位級の単位のみの認定
	470~595	2	○	○			
	600点以上	3	○	○			
日本語能力検定	種1級	1	○	○			
	2級	1	○	○			
	3級	1	○	○			準2級を含む 準1級を含む
日本語検定	種1級	1	○	○			
	2級	1	○	○			
	1級	1	○	○			
実用数学技能検定(数検)	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
	1級	1	○	○			
C.S.W.A→初級認定	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
	1級	1	○	○			
CAD利用技術者試験	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
	1級	1	○	○			
ボイラー技士	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
機械設計技術者	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
To-Beエンジニア試験	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			注1
技能検定 機械加工(普通旋盤作業)	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
技能検定 機械加工(フライス盤作業)	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
技能検定 機械加工(マシニングセンタ作業)	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
技能検定 機械検査(機械検査作業)	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
システム安全アソシエイト資格認定試験	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
技術士第一次試験	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
情報処理技術者試験	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
情報セキュリティマネジメント	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
基本情報技術者	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
志願情報技術者	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
ITストラテジスト	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
システムアーキテクト	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
プロジクトマネージャ	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
ネットワークススペシャリスト	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
データベーススペシャリスト	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
エンジニアリングシステムスペシャリスト	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
ITサービスマネージャ	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			
システム監査技術者	種3級	1	○	○			
	種2級	1	○	○			
	種1級	1	○	○			

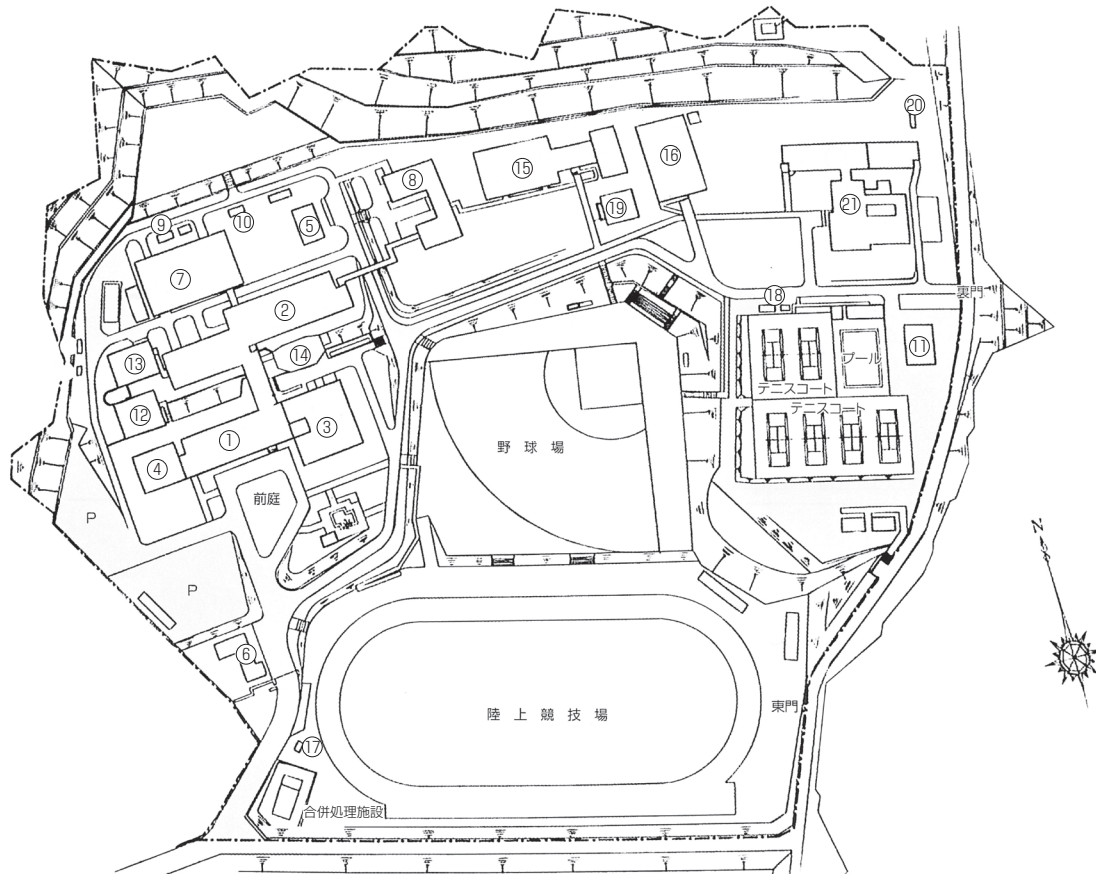
外部修得科目名 又は取得資格名等	認定科目名 (開設外科目)	認定 単位数	一般 科目	機 械 電 気	情 報 電 子	土 木 建 築	備 考
情報処理安全確保支援士	デジタル技術検定	1		○	○		
	電気通信工事担任者	1		○	○		
	アナログ通信	1		○	○		※旧A1第3種
	A1	1		○	○		※令和5年度まで
	アナログ通信	1		○	○		※旧A1第一種
	デジタル通信	1		○	○		※旧DD第三種
	DD	1		○	○		※令和5年度まで
	デジタル通信	1		○	○		※旧DD第一種
	総合通信	1		○	○		※旧A1・DD併合種
	電気工事士	1		○	○		
	電気通信主任技術者	1		○	○		
	電気通信主任技術者	1		○	○		
	電気主任技術者	1		○	○		
	危険物取扱者	1		○	○		
	CG-ARTS検定	1		○	○		注3
専門特別演習	陸上無線技術士	2		○	○		
	カラーコーディネーター	1		○	○		
	色彩能力検定	2		○	○		
	火薬類製造保安責任者	1		○	○		
	火薬類取扱保安責任者	1		○	○		
	管理業務主任者	1		○	○		
	マンシヨン管理士	1		○	○		
	古民家鑑定士	1		○	○		
	福祉住環境コーディネーター	1		○	○		
	キャッチャーズスペシャリスト	3		○	○		
	インテリアコーディネーター	2		○	○		
	2級土木施工管理技術検定(学科試験)	1		○	○		
	2級建築施工管理技術検定(学科試験)	1		○	○		
	宅建建物取引士	1		○	○		
	土木学会認定2級土木技術者	1		○	○		
外部修得科目 (大学等に於ける学修等)	修得 単位数	○	○	○	○	○	

※資格取得名の各学科欄に○が付しているもののみ、対応する学科の認定科目となる。  
 注1 To-Beエンジニア試験(スタンダード)の対象は「機械30間・電気電子30間・情報30間・品質管理30間、計120間」のみ。  
 注2 機械電気学科は専門科目の選択科目単位、その他の学科は一般科目の選択科目単位として取り扱う。  
 注3 CG-ARTS検定の種目は全種目を対象とする。また、CG-ARTS検定の上限は2単位とする。



# 建物配置図

## Campus Map



- |                |                      |
|----------------|----------------------|
| 1. 教室・管理棟      | 12. テクノ・リフレッシュ教育センター |
| 2. 専門科目棟       | 13. 専攻科棟             |
| 3. 図書館         | 14. メディアホール          |
| 4. 情報処理センター    | 15. 体育館・武道場          |
| 5. 実験実習室       | 16. 第2体育館            |
| 6. 車庫守衛所       | 17. 屋外便所A            |
| 7. クリエイションセンター | 18. 屋外便所B            |
| 8. 福利厚生センター    | 19. 柔道場              |
| 9. 電子工作室       | 20. 洋弓的場             |
| 10. 土石流実験室     | 21. 高城寮              |
| 11. 合宿研修施設     |                      |

